

生田緑地の谷戸の自然保全活動 2013

《生田緑地田圃通信 2013》

号	月日	活動内容	特記すべき生物	頁
13-01	4/1	アメリカザリガニ駆除、カナムグラ駆除、ヨシ刈りなど		2
13-02	4/4	ヨシ刈り、カナムグラ駆除など		6
13-03	4/8	生田緑地の管理についての現地協議		8
13-04	4/9	入団希望者への活動説明と ハナニラ、シラユキゲシ、ハナダイコン、カナムグラ等の駆除		15
13-05	4/10	コナラ(1)の剪定、倒れたサクラ(2)の伐採について現地立会 田起こし、カナムグラ等の駆除		18
13-06	4/16	合議に反する樹木伐採でトキホコリは生き残れるのか？ 放置された処理材の片付けとモニタリング	アメリカスミレサイシン	20
13-07	4/19	谷戸の水辺の状態確認と手入れ	クロセンブリ	24
13-08	4/22	湿地の攪乱と水路変更、ヤマグワ等の除伐、セリバヒエンソウ駆除	シオヤトンボ	27
13-09	4/27	水環境調査	ウラナミアカシジミ幼虫	30
13-10	4/30	湿地の子ゴザサ、ヤマグワ、カナムグラ、アメリカザリガニなどの駆除		32
13-11	5/2	モニ 1000 里地調査 哺乳類調査定点カメラ設置 上の田圃のアメリカザリガニ駆除 萌芽更新地区下のセリバヒエンソウの駆除		34
13-12	5/8	子ゴザサ駆除	アシナガオトシブミ	35
	5/9	田起こし、カナムグラなどの駆除	ヒメヤママユガ幼虫	36
13-13	5/13	田起こし、カナムグラなどの駆除		38
13-14	5/15	施肥		39
	5/17	田起こし、土均し、草刈、カナムグラ駆除		40
13-15	5/21	下の田圃の代掻き、草刈など		41
13-16	5/24	苗の搬入、苗木畑の草取りなど		43
13-17	5/25	ホタル・ガイド・ボランティア研修会		45
	5/25	上の田圃のザリガニ穴塞ぎ、蓄光目印貼り	クリアナアキゾウムシ	46
13-18	5/28	モニ 1000) 水環境調査	シオヤトンボ	47
		ホタルの国 蓄光目印貼り		49
号外 2	6/7	連携調査 早野聖地公園里山ボランティア		50
13-19	6/12	ホタルの国の準備、ホタル・ランタン設置、サイン設置など		50
13-20	6/14	ホタル・ガイド・ボランティア 1		53
	6/15	ホタル観察会 ホタル・ガイド・ボランティア 2		53 54
	6/16	ホタル・ガイド・ボランティア 3		55
13-21	6/21	ホタル・ガイド・ボランティア 4		58
	6/22	ホタル観察会 2 ホタル・ガイド・ボランティア 5		58 59

	6/23	ホタル・ガイド・ボランティア 6		60
13-22	6/24	立教大学現代社会学科のホタル観察会		61
	6/24	ホタル調査、ホタル・ガイド・ボランティア		61
	6/25	日本女子大付属高校生物部のホタル観察会		
	6/25	ホタル調査、ホタル・ガイド・ボランティア		62
13-23	6/28	モニ 1000) 水環境調査		62
	6/28	ホタルの国の蓄光目印貼り、カナムグラ駆除		64
13-24	6/28	ホタル・ガイド・ボランティア 7		64
	6/29	ホタル・ガイド・ボランティア 8		65
	6/30	ホタル・ガイド・ボランティア 9		66
13-25	7/3	希少種 2 種の保護		67
	7/5	ホタルの国の反省会		67
		倒木処理について現地立会い、水の管理		68
	7/16	田圃の施肥、アメリカザリガニ駆除		69
号外 04	7/17	<連携調査> さいわいふるさと公園の池の生物調査兼ウシガエル駆除		71
13-26	7/22	枯木伐採についての現地協議		73
		モニ 1000) 水環境調査		76
		カナムグラ駆除、アメリカザリガニ駆除		77
13-27	7/23	下の田圃の田圃雑草管理(特定の植物の保護)		78
		カナムグラ駆除、アメリカザリガニ駆除	ノカンゾウ	79
13-28	7/24	湿地の水辺保全		79
		カナムグラ駆除		81
13-29	7/25	湿地の水辺保全(続き)		82
		カナムグラ駆除		83
13-30	7/30	湿地の水辺保全(続き)、カナムグラ駆除		84
13-31	8/2	ヨシ原の池の管理、カナムグラ駆除	ダイミョウセセリ	85
13-32	8/13	雨後の水の管理、田圃雑草の管理、アズマネザサ採取	ミズタマソウ	87
13-33	8/23	モニ 1000) 水環境調査		89
	8/23	カナムグラ駆除		90
13-34	8/27	カナムグラ駆除	オオヒメグモ チャバネアオカメムシ	91
13-35	8/29	カナムグラ駆除	キイロスズメ巢 サトクダマキモドキ	94
13-36	9/1	カナムグラ刈り	モモスズメ幼虫	98
13-37	9/7	水流の点検と補修		100
	9/8	モニ 1000 中大型哺乳類調査定点カメラ回収	アナグマ	100
13-38	9/10	稲起し、カナムグラ駆除		101
13-39	9/13	水辺保全とカナムグラ駆除		103
13-40	9/17	水辺保全、田圃の稲起し、カナムグラ刈り		105
13-41	9/18	田圃の稲起し、カナムグラ刈り		108

13-42	9/20	川崎の水辺調査 二ヶ領用水(多摩区登戸)	109
	9/21	川崎の水辺調査 有馬川(宮前区有馬、東有馬)	110
	9/23	川崎の水辺調査 三沢川(麻生区黒川)	110
	9/23	川崎の水辺調査 矢上川(宮前区宮崎1丁目)	112
13-43	9/24	モニ 1000) 水環境調査	113
13-44	9/27	連携調査 大師河原	115
13-45	9/27	連携調査 さいわい夢ひろば	119
13-46	9/30	連携調査 とどろき水辺の楽校	121
13-47	10/1	オダを立てる場所の草刈り	124
13-48	10/3	田圃周囲の草刈り、種籾採取	125
		川崎の水辺調査 二ヶ領用水(多摩区登戸)	127
13-49	10/7	倒れたオダの立て直し	128
13-50	10/8	科学館裏谷戸のヤツデ、アズマネザサの除伐	129
	10/8	購入した唐箕の組み立て	130
13-51	10/11	川崎の水辺調査 三沢川源流(麻生区黒川)	131
	10/11	川崎の水辺調査 片平川	135
13-52	10/12	ヤマグワ等の除伐、ススキ、カナムグラ等の刈り取り、水流の管理	136
13-53	10/21	降雨後の水辺管理	137
		ハンノキ林内のアズマネザサ刈り	140
		湿地のカナムグラ、ヤマグワ刈り	140
13-54	10/23	モニ 1000) 水環境調査	140
		科学館裏谷戸の倒木(松)の処理	142
13-55	10/28	水辺や湿地の保全活動、籾干し、籾摺り	143
13-56	10/31	湿地の保全活動	144
13-57	11/1	湿地の保全活動	146
13-58	11/3	生田緑地中大型哺乳類調査 公開写真同定会	147
13-59	11/7	水辺保全、アメリカザリガニ駆除	148
13-60	11/8	上の田圃の手入れとその上の草地の草刈り	151
13-61	11/18	ハンノキ林の水辺保全、田圃のアメリカザリガニ駆除	153
13-62	11/19	湿地の水辺保全(棚田状の水域づくり)、アズマネザサ刈り	155
13-63	11/20	田圃の畔の改修、草刈り	158
13-64	11/20	田圃の畔についた哺乳類の足跡観察、田圃へのイネワラ撒き	160
		景観に配慮した斜面のアズマネザサ刈りの検討、苗木畑の草刈りなど	161
13-65	11/24	モニ 1000) 水環境調査	164
13-66	11/27	上の田圃の畔づくり	166
13-67	12/4	下の田圃の畔づくり、イネワラきざみ	167
13-68	12/5	ヨシ原の水辺の泥上げ、アメリカザリガニ駆除、一部の草刈り	169
13-69	12/12	ピクニック広場東斜面の草刈り	170
13-70	12/25	モニ 1000 生田緑地水環境調査	172
13-71	1/7	下の田圃裏の流量計測樋の改修	173
13-72	1/9	スミレ生育地の保全	174

13-73	1/14	ハンノキ林保全活動	176
13-74	1/21	ハンノキ林保全活動	178
13-75	1/23	モニ 1000) 水環境調査	179
13-76	1/24	ピクニック広場東階段上斜面の草刈り	181
13-77	1/28	ピクニック広場下地区園路沿いのアズマネザサ刈り	183
13-78	1/30	ハンノキ林のアズマネザサ刈り、倒木や落枝の片付けなど	184
13-79	2/6	アズマネザサ刈りなど	185
13-80	2/18	アズマネザサ刈りなど、谷戸の探勝路の除雪	186
13-81	2/24	モニ 1000) 水環境調査	192
13-82	2/27	水辺保全	194
13-83	3/4	アズマネザサ刈り	196
13-84	3/6	アズマネザサ刈り	198
13-85	3/10	水辺保全(湿地の攪乱)	200
13-86	3/12	水辺保全(湿地の攪乱)、アズマネザサ刈り	201
13-87	3/15	中央広場北側雑木林の下草刈り	202
13-88	3/18	アズマネザサ刈り	205
13-89	3/22	モニ 1000) 水環境調査	207
13-90	3/24	下の田圃の畔の補修、田起こし	210
13-91	3/28	モニタリング	212

生田緑地の谷戸の自然保全活動（生物の生息環境を再生・保全する活動）

アメリカザリガニ駆除、カナムグラ駆除、ヨシ刈りなど

日時 2013/4/1(月) 10:00~14:30 晴

場所 生田緑地 上の田圃、下の田圃とその周辺

参加者 岩田臣生、岩田芳美

上の田圃のアメリカザリガニ駆除

例年オタマジャクシが泳ぎだす頃からアメリカザリガニの駆除を始めています。

今年もオタマジャクシに注意をしながら、生物調査を兼ねて駆除を行いました。

アメリカザリガニ 58匹(6~4cmクラスが中心)、マメゲンゴロウ多数、ミズムシ多数、ホトケドジョウ 2匹、アメンボも 4~5匹が網に入りました。

下の田圃のアメリカザリガニ駆除

たっぷりの水の中には、泳ぐホトケドジョウの姿も見えます。

アメリカザリガニ 41匹(6~2cm)、ホトケドジョウ 30匹位、ミズムシ 10匹位、ヤゴ 1匹

ひと網にアメリカザリガニとホトケドジョウが同じ数入ります。泥の中にはザリガニが、その少し上にはホトケドジョウが泳いでいるようです。

下の田圃周辺のヨシ刈り

前回から始めた下の田圃周辺のヨシ刈りを行うことにしました。

ヤマザクラが咲き、イヌシデが咲き、ヨシの間から様々な草の芽が成長を始めています。





作業は、まず、木道の東側のヨシ刈りを行うことにして、カサスゲ生育地の隣接地から始めました。今年、ノイバラが目立ちました。初めは長柄の大鎌でバサバサ刈ってみました。小さな桑切鎌も使ってみました。まずはヨシとノイバラだけを刈るということで試した結果では、桑切鎌の方が適している感じで、後は桑切鎌で行いました。



木道の東側を終えてから、木道西側のヨシも刈りました。

ここも20~30cm 潜る状態になっています。この木道に近い所を田圃状の水域にして、そこで田んぼ雑草を保護しておけば木道から観察して楽しめるようにできそうな気がしています。



下の田圃の奥のヨシは残ってしまいましたが、奥からの景色が変わりました。



《生田緑地田圃通信 No13-02》4/4

2013年4月5日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

ヨシ刈り、カナムグラ駆除など

日時 2013/4/4(木) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地 ヨシ原、谷戸の合流付近

参加者 岩田臣生、岩田芳美、飯室 健、城本法子、鈴木潤三

谷戸合流付近

岩田芳美と城本は、カナムグラ駆除とオギ、ヨシ刈りを行いました。



ヨシ原

岩田、飯室、鈴木の3人は、ヨシ原のヨシ刈りを行いました。

ここは谷戸の末端で、住宅地に隣接していますので、できるだけ迷惑をかけないように配慮していますが、ヨシ刈りは春にさせていただいています。ただ、境界から3m程度の範囲は秋の終わりと初夏の頃に草刈をしています。ここには、誰が植えたものか、中国原産のバイモがあって、花を咲かせていました。

このヨシ原の管理を始めたことで復活した植物が、もう、10cm程度に成長していました。水辺が好きなようで水際まで広がっていました。水際の路が使えなくなったので、この生育地を取り囲む形に刈ったヨシを敷いて、管理用の路を外側に設けました。カサスゲやキショウブも侵出してきているようなので、こまめに様子を見る必要

がありそうです。

今回も桑切鎌での作業となりました。流石に、池の泥あげまでは手がまわりませんでした。

水田ビオトープ班の元団員が差し入れを持って、訪ねて



気温も高く、活動していると汗はむぐらいの陽気でしたので、木道の縁に座って一服しました。

ツマキチョウ、キタテハ、キタキチョウなどが飛び、小さな紅い翅の甲虫が飛ぶのを見ました。

通りかかった野鳥班の森さんの話ではクワイタダキがまだ見られたそうです。



きました。愛犬のサツキと一緒にです。



田んぼボランティアを募集しています！

4月の水田ビオトープ班は、谷戸の田んぼの田起こし、春まで刈らずにおいたヨシの刈り取り、ヤマグワ実生の駆除、カナムグラの駆除などを行っています。

谷戸の田圃にはアズマヒキガエルのオタマジャクシがいますから、これらを避難させてからの田起こしです。

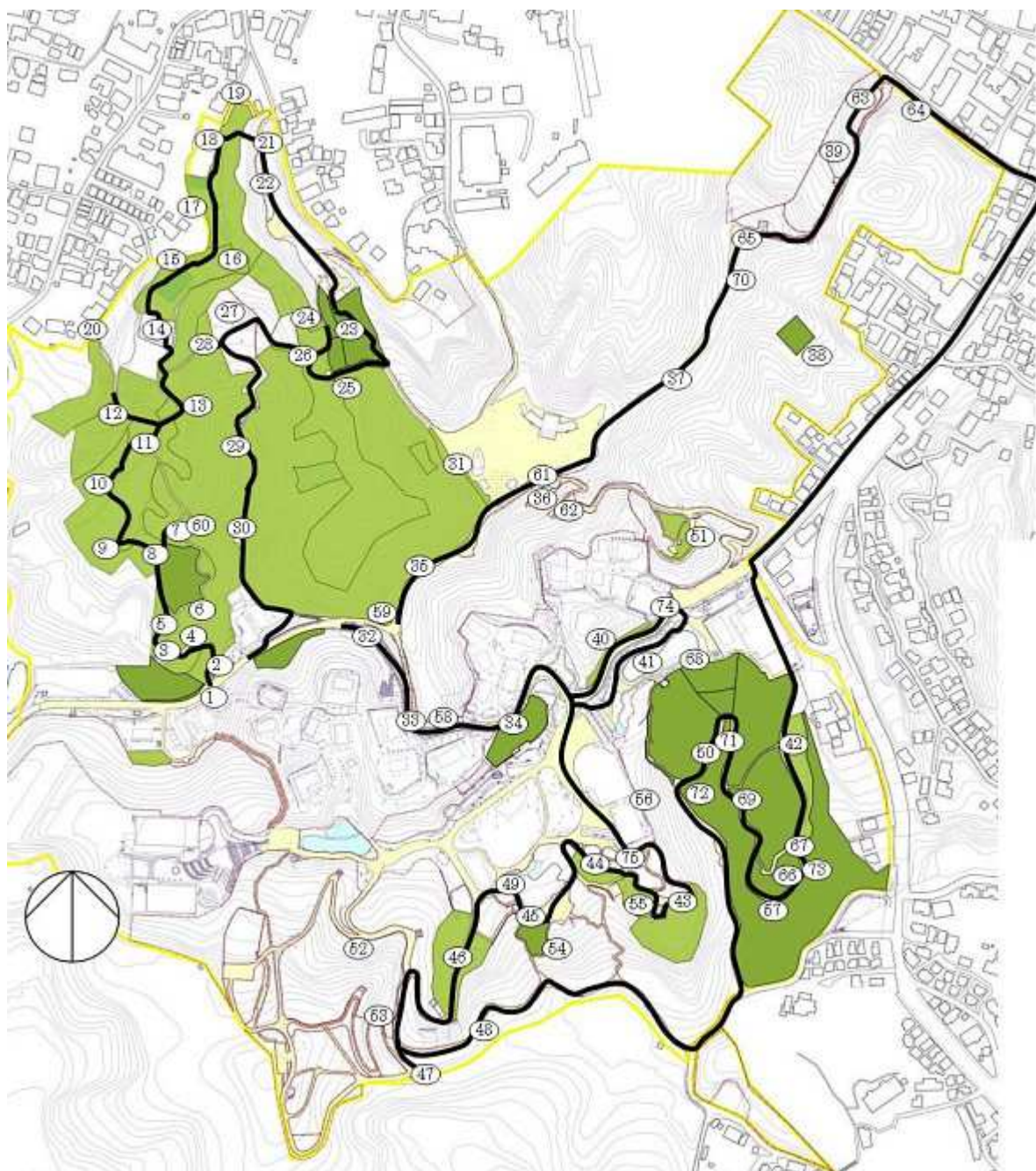
力仕事ですが、春の谷戸で過ごす時間は心休まるものだと思います。

是非、皆さんの空いている時間と力を、田んぼボランティアに使っててください。

問い合わせ、申し込みは、下記にメールしてください。宜しく、お願いします。



生田緑地の管理についての現地協議



午前の部

日時 2013/4/8(月) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地 中央地区北側エリア (01)~(30)

生田緑地運営共同事業体 額谷悠香、佐藤寛恵 (以下、「事業体」という。)

生田緑地整備事務所 磯部由喜子、清田陽助、呉

参加者 岩田臣生、岩田芳美

4月から指定管理者による生田緑地管理が始まりました。この管理が生田緑地の生物多様性を損なうことが無いように、私たちの活動との調整を図るための現地協議を行いました。

(01)

- ・生田緑地整備事務所付近の幹線園路沿いの修景目的のササ刈りは事業体が行うこと
- ・園路や駐車場などで集めた落葉を雑木林に投げ捨てないこと

(02)

- ・昆虫採集のために崖を登ることを止めさせるための注意看板をつけること
- ・階段～木道の落葉清掃をした場合、落葉だけを入れた袋は園路脇の邪魔にならない場所に置いておけば調査団が片付けること(田圃に入れる)
- ・ピクニック広場の階段の上側斜面の植生管理について、斜面上部の高い所の作業については事業体も協力すること



(03)ピクニック広場

- ・テーブルベンチの清掃とベンチ周りのアズマネザサ刈りは事業体が行うこと(生田緑地内のテーブルベンチ全てに同様)

(04)

- ・ここに放置されている倒木は危険なので事業体が処理すること
- ・倒木や落枝の処理は既存のカントリーヘッジに片付けるか、適切な場所にカントリーヘッジ状に積むこと



(05)

- ・園路内から撤去する倒木などの材は園路外に捨てるのではなく、生物の生息環境および景観に配慮して処理すること
- ・犬の糞は持ち帰るように、事業体もマナーの啓発に努めること

(06)萌芽更新地区周辺

- ・自然情報の看板、テーブルベンチの清掃は事業体が実施すること
- ・生田緑地では園路に希少な植物が出てくるので、アズマネザサ以外の園路内の除草は注意すること
- ・昆虫採集等のために樹林内に入る人がいるが、見つけたら注意して園路に出すこと

(07)

- ・昆虫採集のために崖を登る人がいるのでカントリーヘッジで阻止しようとしたことを説明しました。



07

(08)ハンノキ林上のデッキ

・ホタルの国のホタル・ガイド・ボランティア南案内所になる場所

(09)ハンノキ林上の池

・エゴノキが倒れていました。これは事業者が片付けることとしてお願いしました。

(10)ハンノキ林

・ホタルの国の混雑ポイント
 ・木道脇にすてられている杉を片付けること(木道の上に落ちた枝は木道外に捨てるのではなく、生物多様性や景観を考えて片付けること)

(11)

・ホタルの国では混雑、通行止めのコーンを置くこと

(12)

・周辺の管理内容について説明
 ・ベンチやデッキの上がコケで滑りやすくなることがあるので注意すること
 ・水流の保全活動についても説明
 ・ホタルの国の出入口閉鎖について協議しました。

(20)

・ホタル期間中の夜間(19~21時)は通行禁止(懐中電灯などを使わない場合は可)にしてほしいとお願いしました。

(13)

・ササ、アオキの駆除と苗木植樹について協力をお願いしました。
 ・周辺の植生を保全するためにシラカシを2本伐採したいと考えているので、合意されたら協力してほしいとお願いしました。





(14)梅畑

- ・柵の修復について検討をお願いしました。
- ・このような地面は昔は普通だったものの、現在の川崎では極めて稀な環境になりました。草は生えていた方がいいと思っていると説明しました。

(15)民有地(竹林)に接している草地

- ・緑地内に倒れてくる竹の処理については、行政が地主さんに説明し、敷地に入って除伐することについて了解を得ておいてもらいたいとお願いしました。

(16)

- ・ツリフネソウ、オオミゾソバで見どころづくりをしていることを説明しました。
- ・犬の糞に困っていることを説明しました。

(17)

- ・ホタルの時に混雑する場所であることを説明しました。

(18)

- ・ゴミを拾うためであっても、場所や時期によって生物にダメージを与える場合があるので、勝手に湿地に降りないようにお願いしました。
- ・活動中に湿地や樹林で見つけたゴミは園路に出しておくので回収してほしいとお願いしました。
- ・ホタルの国の北案内所(ボランティア)



(19)ヨシ原

- ・ヨシの管理を始めた経緯を説明しました。
- ・隣地境界部分(幅 3m)の草刈りは事業体が年 2 回実施してもらいたいとお願いしました。

(21)

- ・ホタルの国の北の入口(警備員、看板)

(22)

- ・片側だけのロープ柵は植物の保護のためであることを説明しました。

(24)苗木畑

雑木林の更新のために、コナラやクヌギの苗木を育てています。

(26)

- ・アブラチャンを優遇して管理し、アブラチャンの林を育てようとしていることを説明しました。

・林床には春～秋に様々な植物が咲くので、アズマネザサのみを刈り、落枝や倒木を片付ける管理をしていることを説明しました。

(27)芝生広場

・2種類の植物を保護できる草刈りを行うことをお願いしました。

(28)

・園路に希少植物が出るので注意してほしいとお願いしました。

・倒木や落枝を片付ける場所については、どこが適切かを確認してから片付けるようにお願いしました。

(29)

・コウヤボウキの上に倒木や落枝を捨てないようにお願いしました。

・園路沿いのヒサカキなどの常緑樹を少し間伐したいと考えていることを伝えました。

(30)

・ヤマツツジの管理は、自然の樹形を大切にしてほしいとお願いしました。



午後の部

日時 2013/4/8(月) 13:15～16:20 晴

場所 生田緑地 ルートB

生田緑地運営共同事業体 額谷悠香、佐藤寛恵

生田緑地整備事務所 磯部由喜子、清田陽助、呉

参加者 岩田臣生(水田ビオトープ班)、岩田芳美(事務局)、大貫はるみ(シダ班)、園田明子(〃)

(32)七草峠

・寒椿下およびツツジ下の除草についてはシダ植物(1種)

とスミレ類を保護することをお願いしました。

・崖面は、夏の花のために5～6月にススキを刈り、春のスミレのために11～12月に全面草刈りを行うようにお願いしました。

但し、2ヶ所についてはシダ(2種)を刈らないようにすることをお願いしました。

・民家園側の小さな崖面についても、同様にスミレ類を保護することをお願いしました。

(34)中央広場北雑木林

・市民部会の舞台だが人(特に子ども)の侵入が多い。小さな注意看板と簡単な柵の設置を検討してくれるようにお願いしました。

(40)菖蒲池近くの幹線園路北側崖面

・シダ班がシダ植物の調査と保護をしていることを説明しました。



(74)

・植え込みの管理時にシダ植物(1種)を保護するようにお願いしました。

(68)

・園路に広がった植物(1種)は保護してくれるようにお願いしました。

(41)菖蒲池

・花菖蒲の栽培管理に際してシダ植物(1種)を保護してもらっていました。今までと同様の管理をお願いしました。

(75)

・シダ植物(1種)を保護するため、除草をしないようにお願いしました。

(43)科学館裏谷戸

・昆虫(1種)および植物(1種)の保護のため、コーンで囲った範囲には手を入れないようにお願いしました。

・シダ(1種)の保護のため、柵内の除草等は控えるようにお願いしました。

(44)

・植物(1種)の保護のため、斜面部分と柵内などは清掃等に気をつけるようにお願いしました。

(45)中央広場南側 23 区

・市民部会では合意されていなかったスギの伐採や枝打ちが行われていました。

これによって、この辺りが明るくなり、ここで生育していた植物やシダに大きな悪影響が予想されます。

・管理区分(23-3)内にスギの枝などの材が片付けられなく放置されていました。

スギを除伐したり、枝を落したり、その枝などを林床に放置したのは、一体、誰でしょうか。

(49)

・ススキを刈り取った状態では、子どもたちが走り回るなどの光景が目撃されています。このため、一部の範囲については、踏み荒らされないように特別な措置を講じてくれるようにお願いしました。

(46)

・林床に放置されている倒木などは片付けるように、枯れている樹木は伐採するようにお願いしました。

・昆虫や植物など数種の生物を保護している区域であることを説明しました。

(53)

・シダを保護したいが、下草刈りでは問題はないとの説明でした。

(47)、(48)

・石垣面に生育しているシダを保護したいので、この区域のシダを刈ったりしないこと、また、上部のアズマネザサ



を刈り取ったりしないことなどをお願いしました。

野鳥の森の園路外の樹林地

•基本的には市民部会の活動範囲としているので植生管理等は行わないことをお願いしました。

•特に、(66)の四阿周りについては、希少な植物などがあり、市民部会における合議事項でもあるので、一切、手を入れないようにお願いしました。

(71)

•アズマネザサの疎らな茂みの中にシダがあり、これは下草刈りの時に刈らずにおくこと。これは水田ビオトープ班として確認しました。

•(72)のシラカシの伐採については協力してくれるようにお願いしました。

•(73)でサクラが倒れ掛かっていました。6~7日の雨によるものと思われました。これの対応については、後日の協議としました。



(42)

•野鳥の森の水流が涸れそうになった時のためのポンプ設備について説明しました。鍵の管理者が目的と使用方法を知らないのは問題です。

(64)

•周辺住民が花壇替わりに使っているのは問題です。対策を検討するようにお願いしました。



(63)

・川崎ではここでしか見つからないシダ(1種)を下草刈りから守る方法について協議しました。

(70)~(37)

・植生管理協議会に諮ることなく、アズマネザサ刈りが行われていました。

2月10日には無かったので、その後の活動によるものです。

1月に公園緑地課が七草峠~枳形山において協議会無視の工事を実施したことで大騒ぎになったというのに、続けて、今度は多摩区道路公園センターによって協議会無視の(合議されていない)行為が行われてしまったことは生田緑地にとって非常に残念な事態です。

春になって新緑の美しい景観が生田緑地に溢れている中で、枯ササに覆われた面が散策する人に心地よいはずがありません。生田緑地マネジメント会議の準備会においては、「植生管理計画を行政計画とするが、合議による計画づくりについては変更ない。」という説明がされていました。さて、生田緑地マネジメント会議は生田緑地の自然を保全できる枠組みになっているのでしょうか。



《生田緑地田圃通信 No13-04》 4/9

2013年4月11日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

入団希望者への活動説明と

ハナニラ、シラユキゲシ、ハナダイコン、カナムグラ等の駆除

日時 2013/4/9(火) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地 稲目谷戸

参加者 岩田臣生、岩田芳美

水田ビオトープ班では、入団したいという人には稲目谷戸を案内しながら、調査団の歴史と活動、水田ビオトープ班の活動、生田緑地の自然などについて説明しています。相手次第で説明内容は非常に偏ってしまうのですが、希望者が知りたいと思っていることには答えるようにしています。

水田ビオトープ班は、2004年4月に、生田緑地の谷戸(ホタルの里)に田圃を再生する活動をするために新設した班です。

この田圃を再生する活動を通して、生田緑地に生き残っている生物の生息環境を保全する必要性を感じて、同年10月に、牧野民夫(川崎市北部公園事務所所長)、若宮崇令(川崎市青少年科学館館長)、専門家として倉本 宣(明治大学教授)、大場信義(横須賀市自然・人文博物館)、林 長閑(調査団理事)、三島次郎(調査団団長)に参加していただいて、シンポジウム「市街地の中の里山“生田緑地”の自然をどう考え、どう保全するか」を開催し、活動の方向性を確認してから、同年11月以降、谷戸の湿地の再生に取り掛かりました。

2005年には、5月に2枚目の田圃を再生し、同月に里山の自然学校を開校し、6月にホタルの国の活動を始め、12月には竹林の管理活動も始めました。

2006年には、4~5月に3枚目の田圃を再生し、9月に生田緑地植生管理協議会市民部会事務局に選任され、これを機に生田緑地の雑木林のあるべき姿を追求する活動を始め、12月には植物班の協力を得てハンノキ林の保全に向けた毎木調査を行いました。

2007年は、1月にハンノキ林の再生・保全に着手し、2月には谷戸末端のヨシ原の管理を始めました。

こうして、活動領域を広げ、稲目谷戸の大部分を一体的に管理できるようになりました。

当初は、田圃をつくるのは自然破壊だと言って反対していた人たちもいましたが、私たちの田圃を見て自然破壊だという人はもういないと思っています。

何故なら、田圃の周囲で、クロセンブリ、ヤトセズジジョウカイ、ヤマトクロスジヘビトンボ、多数のガガンボ類が観られ、田圃の中には アズマヒキガエルやシユレーゲルアオガエルのオタマジャクシ、ホトケドジョウなどが戯れ、マ

メゲンゴロウが定着しています。

湿地を保全することで、スジグロボタルも増えています。4月にはツマキチョウが見られ、5月にはヤマサナエが見られ、6月にはゲンジボタルの光の舞が見られ、7月にはオニヤンマが飛び回り、ヤマトタムシにも出会え、8月にはトウゴクヘラオモダカが咲き、9月にはツリフネソウやオオミゾソバが咲き、10月には実った稲の周りでマユタテアカネが見られ、11月にはまだオオアオイトンボが田圃で見られます。

基本的には、生田緑地全体の生物相を考えながら、それぞれの場所の管理をしているつもりです。

水田ビオトープ班の活動日は不定期です。メールリストで話し合いながら、天気予報を気にしながら、活動する日を決めています。

活動時間は10時に公園事務所(現在は生田緑地整備事務所)裏に集合して、谷戸に降りて活動し、12~13時には終わらせて、その時期に咲いている花などがある場合は、自然観察を行って、解散しています。

活動には長靴が必需品です。その他の道具類は、調査団保有のものがあります。

身近な自然の見方を知っている人だと、観察会になってしまい、時間がかかります。

ピクニック広場の植生管理については、2007年9月に、市民部会の現地協議で「林床に草本植物が繁茂できる樹林」を目標にすることで合意されましたが、アオジ等の野鳥の観察場所であるという理由でササ刈りに反対する意見が強かったのですが、普通の来園者が気持ちよく歩けることも大切だということから、東側の階段部分の見通しを良くするために東側斜面のみを対象にするならいいだろうという合意に達して、2008年11月に、枯損木の撤去、ヤマガワ等の小径木の除伐、ササ刈りを行うことができました。

しかし、その後3年経過しても、林床にはキヅタが繁茂するだけで、アズマネザサさえ疎らにしか生えてきませんでした。

そこで、反対していた人たちと何回かの話し合いを行い、斜面下部のミズキなどを伐採し、草地を広げることに合意に達しましたので、2012年3月に市民部会として、ここの樹木を6本伐採しました。

2012年の夏期は、切株からの萌芽や草本の繁茂が著しく、ミズキ伐採の効果は予想以上に大きいものでした。しかし、草地は後から後から次々に花々が咲いていくので、草刈のタイミングが難しく、結局、全ての草が種子を成熟させるまで待って、種子をふるい落としながらの草刈りを12月19日に水田ビオトープ班で行いました。

そして、この春、斜面にタチツボスミレが広がりました。期待していた通りの結果が現れましたが、これから夏に向かって、どのような花が咲いてくれるのか、楽しみです。



ハンノキ林で、芳美はシラユキゲシの駆除を行っていました。そこに、生田緑地の野鳥調査をしていた野鳥班がやって来ました。



8日の指定管理者との現地協議の時に水流に土砂が溜まっていたのを見ていたので、今日は、そんな水流の泥あげをしながらの説明会にさせていただきました。



彼女は明治大学に入学したばかりの1年生です。しっかりしていて、自分で調べられることは自分で調べているようです。少し舌の回りの良い、将来が楽しみな可愛い女の子でした。



コナラ(1)の剪定、倒れたサクラ(2)の伐採について現地立会

日時 2013/4/10(水) 10:00~11:00 晴

場所 生田緑地 科学館裏、野鳥の森

参加者 岩田臣生、指定管理者(生田緑地運営共同事業体 額谷)

(1)車両駐車を可能にするために青少年科学館裏のコナラの枝を剪定することについて

現地で伐る枝を確認して、了解しました。

(2)6日の夜の雨で根が浮いて倒れる危険が生じたサクラの伐採について

前日の現地協議で当該樹木の状態を確認しており、大木なので倒れた時の危険性を考え、伐採することを止むを得ないと判断していました。

伐採した材を置く場所については直ぐ近くにカントリーヘッジ状に積むこととして設定しました。但し、日本民家園で使いたいというものについては、運んでもらっていいこととしました。



田起こし、カナムグラ等の駆除

日時 2013/4/10(水) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地 稲目谷戸

参加者 岩田芳美、城本法子、鈴木潤三
岩田臣生(11:00~)



谷戸合流部の竹林側に淡い紫色が広がっています。早くもゼリバヒエンソウの花が咲きだしてました。外来種のゼリバヒエンソウは生田緑地では駆除対象としています。城本はゼリバヒエンソウ駆除後に合流部付近のカナムグラ駆除も行いました。



今年も田起こしの季節となりました。といっても、例年はヤマザクラの花が咲いているのですが、今年は既に終わっています。アズマヒキガエルのオタマジャクシを網で掬って、上の段に移してから、田起こしを始めました。上の田圃の下の段も、7年経って、少し柔らかくなってきました。



生田緑地運営共同事業体との立会を終えて、岩田も田起こしに加わりました。



《生田緑地田圃通信 No13-06》 4/16

2013年4月18日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

下の写真は中央地区北側の雑木林です。

2011年5月の市民部会で現地調査と話し合いを行い、ヤマツツジやヤマコリが咲く、明るい雑木林を目標に設定し、夏の間に業者によるアズマネザサ刈りを行い、同年12月の市民部会で常緑樹小径木や竹などの除伐を行い、2012年10月の市民部会で下草刈りを行った雑木林です。長期間放置されていた雑木林ではありましたが、このように生き残っていたヤマツツジが咲いてくれました。ヤマコリが咲くようになるには時間がかかるとは思います、整備された中央広場に面して気持ちの良い景観を提供できていると思います。



合議に反する樹木伐採でトキホコリは生き残れるのか？ 放置された処理材の片付けとモニタリング

日時 2013/4/16(火) 10:00~11:00 晴

場所 生田緑地 中央広場南地区(23-2,23-3)

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

生田緑地は4月から全面的に指定管理者が管理することになりました。この指定管理者による公園管理によって生田緑地の生物の棲息環境が脅かされることの無いようにするために、4月8日に生田緑地を一緒に歩いて、管理上注意すべきことについて現地協議を行いました。その時に、中央広場南側の雑木林23-2,23-3の斜面裾部の樹木が伐採され、残されたスギは枝打ちが行われ、地面はすっかり明るくなっていました。しかも、雑木林の林床にスギの枝葉が散乱していました。

この時同行していたシダ植物班からは、その場で抗議を受けてしまいました。生田緑地植生管理協議会が機能していないという御叱りです。

2010年10月の生田緑地植生管理協議会市民部会に参加していた野鳥班からも、後日、クレームが届きました。市民部会で合意したことを、数年経ったら考えを翻し、話し合いをせずに、好き勝手な植生管理を行ってしまうというのは、余りにも乱暴であり、民主的な行動とは言えません。

自然生態系について配慮することなく、ひたすら、木を伐り、下草を刈り、処理材は放置するという行為を良いことだとして、行政までもが、植生管理計画を無視して、これに協力するのであれば、生田緑地の生物多様性は低下し、今まで生き残ってきた生物が消えていくこととなります。

生田緑地植生管理協議会というシステムは、4月から生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議が継承することになっています。生田緑地をより良くするための民主的な合意形成、そして決めたことは守るということが、普通に行われるようになることを願っています。

この辺り(23-2,23-3の裾に接した部分)はトキホコリが生育する場所です。

トキホコリは、国のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類、神奈川県では絶滅危惧ⅠB類、東京都区部では絶滅、その他の東京都では絶滅危惧ⅠA類に指定されている植物です。

神奈川県内の分布は、綾瀬市、鎌倉市、川崎市の3市、4地区でしか記録されていません。

2010年10月6日の市民部会では、<パーゴラ西側の針葉樹(スギ)についてはトキホコリの保護の観点から伐らないこと>、<トキホコリは保護すべき植物として、その生育環境は保全すること>が合意されました。

しかし、その後、この園路を中央広場の整備に合わせて舗装し直すこととなり、大部分のトキホコリは消えるけれども、このスギなどのある辺りは暗くて、湿っているので、そこには残るだろうということで、園路舗装は進められました。

その残るだろうとされた場所を、3月に生田緑地の雑木林を育てる会が、合議に反して、樹木を伐採し、スギの枝を落として明るくしてしまいました。

この目的は、トキホコリが健在であることよりも重要なことだったのでしょうか。

この日の前半の活動は、8日は時間がなくて調べられなかった状態の調査と若干の手入れ、林床に放置されたスギの枝葉の片付けを行うことにしました。

しかし、他団体が植生管理計画を破って、やり散らかしたことの後片付けは面白いものではありません。しかも、スギの葉が体に着いて、チクチクし、不快でした。そこで、園路に2つ、枝葉の山をつくったところで止めることにしました。





片付けは程々にして、23-3 区のモニタリングを行いました。草本層には、シダ植物は除外して、23 種の植物が見られましたが、注目すべき種はありませんでした。

当該区域の上の方を調べて驚いたのは、樹齢 50 年ほどの樹木が何本も伐採され、地面には倒木が放置され、まさに「山が荒れている」という感じの様相を呈していました。

先日、Tと名のる人が「生田緑地の山が荒れている。倒木が放置されたままだ。市民ボランティアとしての見

解を聞かせろ。」と強い口調で電話してきました。忙しい時に、何故、このようなクレームをつけられなければならないのかと不愉快に思い、電話を切らせてもらいました。

普段活動している生田緑地の北側のエリアでは、これ程酷い状態の所はありませんので、この人が何を言いたいのかわからず、ただただ、しつこくて不愉快な男だと思ってしまったのです。しかし、ここの状態を見れば、「こんなに荒れた状態にして、管理ができていない。」と思うのは極めて普通の感覚だと思います。

当該地区の樹木の伐採については合意されていませんでした。またしても、合議を破る行為が行われていたことを知りました。何本もの樹木が伐採され、環境はすっかり変わり、荒れていると言われても仕方のない状態でした。

市民部会で行うべきことを、「やらせてくれ。」と煩かったので任せてしまったことを後悔しました。





参考

2009年11月25日 市民部会特別回 北部公園事務所、S会、市民部会事務局が現地で話し合いを行い、通称アジサイ山と呼んでいた23-1区について、S会がアジサイの管理を行うことにしました。

2010年10月6日 市民部会 アジサイ山を含む集水域(23区)の植生管理について現地で話し合いを行いました。

中央広場南側地区植生管理計画

2011年9月 市民部会 23-3区のアズマネザサ刈りを行いました、上の方を残してしまいました。

アズマネザサ刈り

日時 2013/4/16(火) 11:00~12:30 晴

場所 生田緑地 旧岡本谷戸

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

旧岡本谷戸と呼ばれている中央広場からつつじ山へ登る道の途中の左側に、昔は落葉溜めにしていたのではないかと思われる場所があります。

そこを、私たちは土壌動物の観察会の時に土を採取する場所としています。

昨年の観察会の時には、アズマネザサが繁茂していたので、土の採取が困難でしたので、アズマネザサ刈りをしておくことにしました。

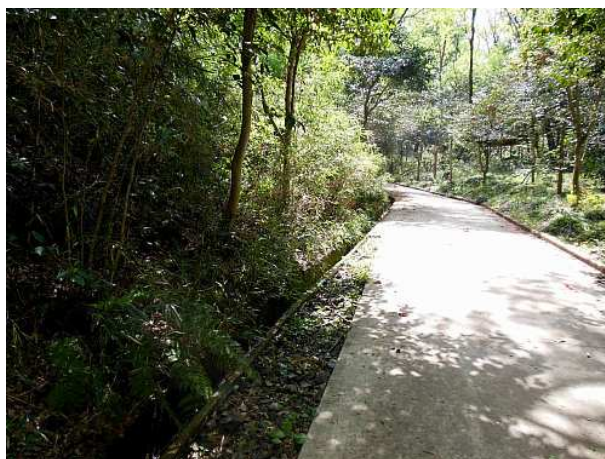


植生管理協議会においては、この園路沿いのアズマネザサの刈りについて承認を得ています。

そこそこの広がり、緩い傾斜面が奥にあるのですが、ここは昔は落葉の捨て場としていた場所だろうと推察しています。そして、今後も、同様の使い方が可能と思います。

刈り取ったアズマネザサや捨てられていた倒木、落枝などはカントリーヘッジ状に積みました。

園路沿いのアズマネザサも、園路に出ているものは刈りました。



付近には、ツボスミレやアメリカスミレサイシンが咲く季節になっていましたが、その中に、白花のアメリカスミレサイシンが咲いていました。

アメリカスミレサイシンは、北アメリカ原産の外来種です。この場所だけならいいだろうと思っていたら、今年は離れた場所にも出ていました。勿論、他の場所に出たものは駆除しましたが、ここの株も少し減らしておいた方がいいかも知れません。



《生田緑地田圃通信 No13-07》 4/19

2013年4月21日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

谷戸の水辺の状態確認と手入れ

日時 2013/4/19(金) 11:40~14:30 曇 15℃

場所 生田緑地 稲目谷戸

参加者 岩田臣生

生田緑地整備事務所との会議を終えてから、次回の活動内容を検討するために谷戸の水辺の状態を確認してお

くことにしました。

谷戸へ降りると、もうヤブニンジンが実になっていました。

ミヤマシラスゲの花序も出始めました。



湿地の水路から水漏れがあり、水流が止まっていた。水路の所々に落葉のダムができていました。

この水漏れを補修して、溜まっていた落葉を取り除いて、水が流れるようにしました。

また、竹林下からの水流が1ヶ所水漏れしていたので、これを補修しました。この流れは、まだ暫くは様子を見たいと思います。



クロセンブリが葉に止まっていた。





シロヨメナの群生する場所のアズマネザサは刈りました。(下左の写真)

畑～梅畑にはゼリバヒエンソウが広がっていました。

ゼリバヒエンソウは、中国原産のキンポウゲ科の植物で、明治時代に渡来した外来種です。東京を中心に分布していて、川崎の丘陵地に広がりつつあります。一説には、小石川植物園から逸出したものが分布を広げているのだとあります。



上の田圃の近くの木道から近い所で、来園者が田圃雑草を楽しめるようにしたいと思っています。その場所を、どこに、どのようにつくるか、つくれるかを考えるために、2ヶ所ほど、鍬を入れて状態を調べました。

人為的に植えるのは自然とは言えないと思いますが、取り返しのつく範囲で試してみたいと思います

この田圃雑草は、人目につかない場所で復活させたもので、毎年、手を入れて、育てて、観察しています。

適度に手を入れてやらないと他の植物に負けて、直ぐに、衰退していくことも分かりました。

しかし、条件を整えてやれば増やせることも分かってきましたので、木道から観察できる場所で実験してみたいと思っています。



下の田圃の上側の湿地にはスギナが一面に広がっています。14日(日)の生田緑地観察会<里山の自然>の時には、ここにヤトセスジジョウカイが何頭も見られましたが、今日は寒いせいか姿が見えません。

隣地の竹林からミヤマシラスゲの群落の中に倒れていた竹を伐って、取り除きました。ここも、大事な生物の生息地です。

下の田圃の畦にムラサキサギゴケが咲いています。(下左)

下の田圃の少し下にある、攪乱を必要とする植物の周りの攪乱もしました。

カササゲの花も盛りを過ぎたようです。(下右)



ヨシ原のヨシが成長を始めていました。



《生田緑地田圃通信 No13-08》 4/22

2013年4月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

湿地の攪乱と水路変更、ヤマグワ等の除伐、セリバヒエンソウ駆除

日時 2013/4/22(月) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地 稲目谷戸の湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

前日の雨によって水流の流量は増していました。晴れあがって気温が上がって、前日見た時はもう終わりかと思ったゲンゲ(レンゲソウ)の花もすっかり勢いを取り戻し、花が咲き、虫が飛んで、初夏の気配が強く感じられました。



この日は、同じ湿地での活動ですが、3人とも別の活動を行いました。



鈴木は、3月に6割ほどを終えていた3段目のヤマグワやヒメコウゾを刈り取る活動の続きを行い、完了させました。前回この活動をした時には、ヤエムグラやムラサキケマンなどの草が生えていませんでした。「草が生えたのでやり難かった」というのが、この日の感想でした。

丁度、ヒメコウゾの花が咲いていたので、これを観察しました。

岩田(芳)は、ピクニック広場下から始めて湿地まで、セリバヒエンソウやカナムグラの駆除を行いました。



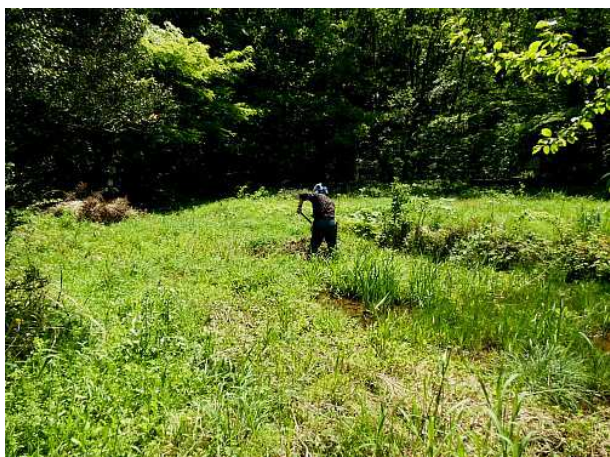
岩田(臣)は、竹林下から流れてくる水流を湿地の2段目に引き込むための水路をつくりました。今年、数回の活動で伏流して逃げ出していた水流を元の場所に戻し、小さな堰をつくって橋から出た所の水位を上げておきました。その場所から2段目の水域に水路を掘りました。高さ関係は丁度良かったようです。導水は上手くいきました。水量は計測していませんが、元々の水流には全流量の3割は流れだしている感じです。元の水流に1~2割流れていれば、下流の水辺の生物にも影響が無いものと思います。



この場所を湿地にする活動を始めてから数年経った頃からハンノキの実生が育ち始め、田圃だった頃の面影は消えつつあります。しかし、段々に造られている地形、湿地に復活してくる植物たちが、昔は田圃であったことを教えてくれます。

湿地の2段目は、これら復活した植物を保護するために手をいれていますが、今年は「田起こし」のような攪乱を試すことにしました。チゴザサの繁茂を抑え、チゴザサの根が安定するのを妨げることが必要だと考えています。

ここには既にコウガイゼキショウが繁茂していました。オニスゲの葉も伸びています。ゴウソは花序をつけていました。コガマも葉を伸ばし始めました。



チゴザサの根を鍬で掘り返していたら、飛び立ったものがいました。光を受けて翅を光らせながら飛ぶ姿はウスバカゲロウを太くしたような感じでした。少し離れた場所のイヌツゲに止まったので見に行ったらシオヤトンボの未熟個体のような感じでした。

活動中に上の田圃の導水路の状態を見に行ったら、シオヤトンボ♀1、シオカラトンボ♀1を見つけましたので、この日、シオヤトンボを2個体目撃したことになります。シオヤトンボは春1番に現れるトンボです。県内東部では急減していて、生田緑地の谷戸でも毎年、僅かの個体しか見ることができません。神奈川県レッドデータブック2006では要注意種としています。



帰り道の尾根にはヤマツツジが咲いていました。



《生田緑地田圃通信 No13-09》 4/27

2013年4月28日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動



水環境調査のために谷戸に降りる階段の手すりでウラナミアカシジミの幼虫を見つけました。昨年は5月7日に同じ手摺りで見つけました。

かなりの期間非常に少なくなって成虫に出会えない年が続いていましたが、数年前から数頭の成虫に出会えるようになって、昨年からはこんな所で幼虫にも出会えるようになっていました。普通に園路を歩いていて出会えるようになったことを嬉しく思っています。



モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/4/27(土) 10:30~13:10 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

モ二 1000 里地調査 2013年4月の水環境調査を行いました。

ヨシ原

シレーゲルアオガエルが集まっていた。ヨシが伸び始め、カサスゲが結実し始めています。ムナビロアカハネムシがカサスゲの葉にとまっていた。

水位が少し下がっていました。水路からの水が入って来ていません。水流を止めていた落葉の塊を取り除きました。

階段下の水流

この水路は谷戸の合流部で右岸から取水して流す水路としてホタルの里の整備時に掘られたものですが、現在、取水地点から池までの間に水は流れていません。ですから、この水量の大部分は左岸側の水流からのものと考えています。

下の田圃

ヒメシダが広がっています。クサノオウが咲いています。
ヒメシモフリコメツキが畦の草に止まっていました。
土手上(隣地)にはタケノコが大きく伸びていました。

上の田圃

トキワハゼが咲いていました。

水路に溜まっていた泥を掬い上げてから、調査にかかりました。

湿地

池に入るべき水が止まっていました。

池の中には 1cm 大のアメリカザリガニがいました。泥も溜まっています。手入れが必要になっています。

竹林下からの水流は橋の下で伏流していました。橋の下にもぐって、穴を塞ぎ、水流を回復しました。

ただ、3 段目に入った水は多くが何処かへ伏流しているようです。元の地主さんが田圃を止めて排水を良くしようとして施した仕掛けがまだ何処かに残っているのかも知れません。

アカアシクロコメツキ?、シオヤトンボ♀が観察されました。

小さなハチやハエの仲間は無数にいますが、私には判別できません。

ハンノキ林上の池

池の中に沈む形になっている階段の踏板の上の浅い水域にアズマヒキガエルのオタマジャクシが集まっています。水面には油膜のような膜が広がっていました。



2013 年 4 月 27 日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:50	11:00	18.0	16.0	30	6.8 BTB	—
B(中央水路末端)	11:05	11:15	18.0	14.0	100	7.1 BTB	0.909
A(下の田圃裏)	11:30	11:40	19.3	13.0	100	7.1 BTB	0.758
H(上の田圃への導水路)	11:50	12:00	20.0	13.5	100	7.2 BTB	0.385
G(湿地再生地の池)	12:10	12:20	20.0	20.0	30	6.8 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	12:45	12:55	18.0	13.2	100	6.8 BTB	—

シラユキゲシ、セリバヒエンソウの駆除

日時 2013/4/27(土) 10:30~13:10 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田芳美

毎年この時期になるとセリバヒエンソウの駆除をしていますが、衰える気配がありません。また、シラユキゲシの駆除も行いました。

大型連休初日のためか沢山の人が通ります。そして、『何をしていますか?』と多くの人が問いかけてきます。『在来種保護のための外来種駆除です。』と答えると皆さんから感謝されます。

もう少し踏み込んで緑地の自然についての説明を求めてくる人もいます。

生田の雑木林の構成樹種やハンノキ林の話をしていると通りがかりの人も立ち止まり、ミニ説明会となりました。作業はストップしますが自然を大切に思う生田緑地ファンを増やすためには仕方がないと思っています。



《生田緑地田圃通信 No13-10》 4/30

2013年5月1日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

湿地のチゴザサ、ヤマグワ、カナムグラ、アメリカザリガニなどの駆除

日時 2013/4/30(火) 9:30~12:30 曇時々小雨

場所 生田緑地 稲目谷戸の湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、城本法子、鈴木潤三

3段目の池の周囲のススキやヤマグワなどの除伐とアメリカザリガニの駆除

先日の水環境調査の時にアメリカザリガニ(1cm大)がいたので、これを駆除しておくことにしました。



チゴザサ駆除

前回、この2段目は攪乱で済ませようとしたのですが、考え直して、チゴザサの根を取り除くことにしました。

2段目にはシマヘビの死骸がありました。頭の傷から考えると鳥にやられたものと思われます。

既に、チゴザサの根は15cm以上の厚さにカーペットをつくっていましたが、除根しておかないと他の植物、特に弱い植物は生育できません。

この作業は大変なので躊躇したのですが、やはり避けて通れません。季節的には少し遅いと思いますが、仕方ありません。

根周りの泥の中にはガガンボ類の幼虫、ケラなどがいました。

水面が広がったらシオカラトンボ♂が飛んできました。

作業中、岸辺からはシュレーゲルアオガエルの声が煩いほどでした。しかし、草の根元を探しても姿は見えませんでした。



カナムグラなどの駆除

湿地の草地にも沢山のカナムグラが伸び始めていたので、これを抜き取る活動をしました。切りの無い活動です。



谷戸のミズキが咲き始めて、一際目立っています。



毛二 1000 里地調査 生田緑地の哺乳類調査定点カメラ設置

日時 2013/5/2(木) 10:20~13:30 晴

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生

U2 枳形山~飯室山

枳形山の北側のエリアで、けもの道を探し歩き、比較的明らかな痕跡の場所にカメラを設置することにしました。このエリアでは園路に近いところのけもの道ははっきりしていますが、離れて斜面を降りて行くと次第に消えてしまいます。

園路から近い、初めての場所にカメラを設置してみることにしました。ただ、周囲でカラスの鳴き声が騒がしかったので、不安が残りました。

O 枳形山西

B ハンノキ林上の池の西

ここのけもの道は鮮明でしたが、スギの落枝や落葉が地面を覆っていました。

3台のカメラを設置するのに3時間弱もかかってしまいました。

帰り道は辺りを観察しながら歩きました。

カシワバハグマの葉に同じ種類のバッタの幼体が沢山ついて、葉を食べているように見えました。

ピクニック広場のホウチャクソウはもう実をつけていました。

ハンショウヅルが咲き始めていました。

上の田圃のアメリカザリガニ駆除、萌芽更新地区下のセリバヒエンソウの駆除

日時 2013/5/2(木) 10:20~13:30 晴

場所 生田緑地

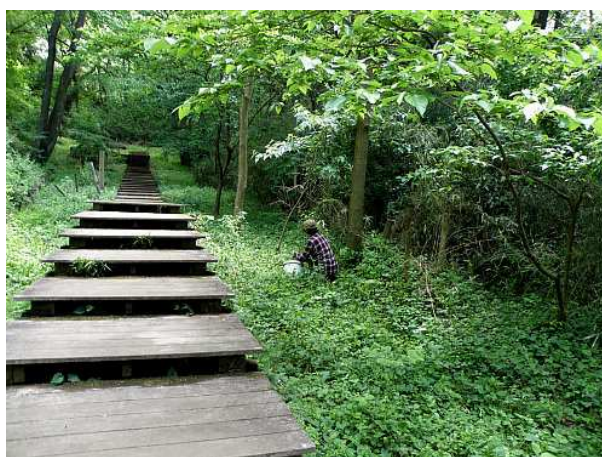
参加者 岩田芳美

上の田圃でアメリカザリガニ 170 匹を駆除しました。通りがかりの人たちとの会話で時間をとられながらの駆除活動でした。



萌芽更新地区下に移動してセリバヒエンソウの駆除を行いました。

来園者が多数通り、何かおいしいものが採れるのかと聞いてきました。手伝ってくれる人もいました。



《生田緑地田圃通信 No13-12》 5/8、5/9

2013年5月11日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオオープン班

チゴザサ駆除

日時 2013/5/8(水) 10:10~13:00 晴

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生

湿地のチゴザサ駆除も季節的には最後にしなければと思
いながら谷戸へ降りました。

園路にアシナガオトシブミがいました。



ハンノキ林内の水流は勢いが無く、涸れかけている流れ
もありました。雨が降ってほしいと思います。

ハンノキ林から湿地に流れる水路の途中で水が消えて、湿地が乾き始めていました。これは補修しましたが流量
は非常に少なくなっています。

竹林から水が入るようにしてあったので2段目には水が残っていました。

チゴザサの根を取っているとシオヤトンボ♂が近くに来て、暫くは枯草の上で休んだり、辺りを飛び回ったりして
いました。

ナガサキアゲハも飛び始めました。

クロハネシロヒゲナガ♀が草の茎に止まっていた。風邪が強いせいか飛んでいるクロハネシロヒゲナガ♂は
見当たりませんでした。



田起こし、カナムグラなどの駆除

日時 2013/5/9(木) 9:50~13:00 晴

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美、城本法子、鈴木潤三

今年の田植えは5月26日です。それまでに田圃の準備を済ませなければなりません。

湧水の流量が極めて少なくなっていますので、田圃からの水漏れをできるだけ少なくしなければなりません。上の田圃の下の段のアメリカザリガニやサワガニが畦付近に開けた穴を塞ぐ活動と2回目の田起こしを行いました。周田からシュレーゲルアオガエルの声が出ているのに、卵塊は1つしかありませんでした。



田圃の下の草地に出てきたアメリカフウロ、オニノゲシ、そしてカナムグラの抜き取り駆除も行いました。クロハネシロヒゲナガが弱い風の中、飛んでいました。

帰り道、木道の手すりにヒメヤママユガの幼虫がいました。



モニタリング

日時 2013/5/9(木) 13:30~14:30 晴

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生

水流の流量が少なくなっていたので、湿地～ヨシ原の状態を見て歩きました。

ハルジオンの花にハナムグリやハリカメムシが来ていました。ハルジオンは外来植物ではありますが、この時期の昆虫たちの吸蜜源が少ないので駆除していません。



コナラの下のクサヨシにはヒメヒゲナガカミキリやエゴシギゾウムシがいました。



木道の上には、コメツキムシの死骸にヤマトシリアゲが喰らいついていました。日の当たる地面にアオダイショウがいて、側に行っても動こうとしませんが、写真を撮り終えたら逃げ出しました。



《生田緑地田圃通信 No13-13》 5/13

2013年5月14日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

田起こし、カナムグラなどの駆除

日時 2013/5/13(月) 10:00~13:00 曇

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美、城本法子

上の田圃の田起こしを行いました。11日(土)の雨のお蔭で、水流も回復し、田圃にも水が滲えられていました。9日に行ったアメリカザリガニ穴を塞ぐ活動の効果が出ていました。

水面から僅かに出ている泥の所にツバメが5~6羽来ていました。ツバメはある程度の間隔でやってきては、また何処かに消えてしまいます。巣作りに精を出しているのでしょうか。グループ行動をとっているように見えたのですが、どんな関係なのでしょう。

カルガモが1羽来ていました。

上の段の畦にもアメリカザリガニ穴が多数見つかりましたが、この日は田起こしを優先しました。



カナムグラも大きくなってきて、しゃがまなくても抜き取れるようになったそうです。

田圃付近のミヤマシラスゲの葉にジンガサハムシがいました。



食草はヒルガオと図鑑などにはあります。ムラサキシキブやヤブムラサキを食草にしているイチモンジジンガサハムシは萌芽更新地区など雑木林でよく見かけますが、ジンガサハムシは谷戸の湿地で出会います。この日であったジンガサハムシは黒色型でした。



《生田緑地田圃通信 No13-14》 5/15

2013年5月17日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

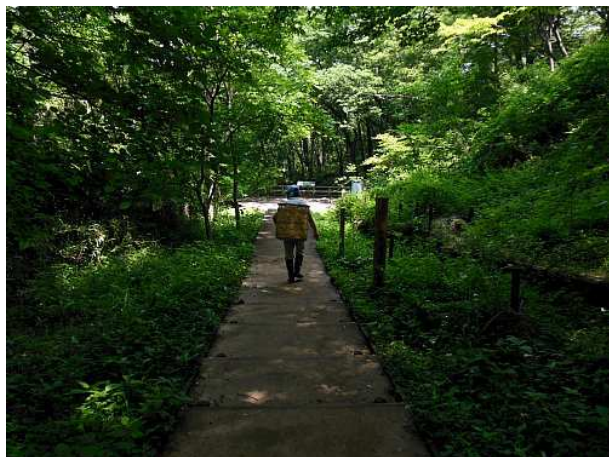
施肥

日時 2013/5/15(水) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生

上の田圃の田起こしをしていて、土の状態が悪いと感じました。微生物が少な過ぎると思われたのです。そこで、時期的には中途半端でしたが、微生物を増やすために施肥を行いました。



この日も、ツバメが時々やってきました。

雑木林ではエゴノキの白い花が咲いて、林縁にはオカタツナミソウが咲いています。

田起こし、土均し、草刈、カナムグラ駆除

日時 2013/5/17(金) 10:00~14:00 晴

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美、城本法子、鈴木潤三

田圃にはシマヘビが来ていました。



上の田圃 2 枚の田起こしをしておいて、土をジョレンで移動して平らに均す活動を行いました。

マメゲンゴロウが沢山いることが分かります。

水流には絶えず土の粒子が流れていて、1 年経つと田圃

のインレット側には土が溜まっています。これを全体に均すのです。日当たりの体感温度はかなり高く、熱中症かと思う眩暈を感じます。

均された土の上には、小さなアメリカザリガニが姿を現します。

田圃の畦の草刈りを行いました。



カナムグラの駆除も行いました。



なんとか上の田圃 2 枚の土均しまで終わることができました。



田圃にはシオカラトンボ♂♀が飛んできました。
田圃周辺にはヤマサナエが現れました。マルタンヤンマ♀も1回見られました。
木道の手すりにサビキコリがいました。
湿地の縁をアサギマダラが飛んでいました。
エゴノキの花が散り始めました。オオヒラタシデムシが園路に現れました。



《生田緑地田圃通信 No13-15》5/21

2013年5月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトープ班

下の田圃の代掻き、草刈など

日時 2013/5/21(火) 10:50～14:00 晴
場所 生田緑地 下の田圃
参加者 岩田臣生、岩田芳美

ピクニック広場のブタクサ駆除をしました。

生田緑地整備事務所、生田緑地運営共同事業体とともに
専修大学の学生生活課に、ホテルの国への協力をお願い
するため挨拶に行きました。



その後、モウソウチクを柵に利用するためにモウソウチクの伐採を行いました。ハンノキ林上の池付近の柵は生田緑地運営共同事業体の大畠さんがつくってくれました。

それから、この日は、まだ田植えの準備をしていなかった下の田圃の代掻きを行いました。

下の田圃は水を落としても長靴がギリギリの深さで、泥水が長靴の中に入るのを覚悟しないと入れません。

水を止めて、排水口の堰を下げましたが、なかなか排水が進みません。そこで、先ず排水路のヨシ刈りを行い、オオミゾソバの根を取り、泥をあげて、水路の流れを良くしました。

水が落ちてくると、田圃の中ではホトケドジョウが右往左往し始めました。



土は表面以外はトロトロなので田起こしは不要ですが、地表には草の芽が見られ始めています。今回はジョレンで地表 10cm 程度を掻き均しました。草の芽は泥の中にすき込みました。これで田植えは可能です。後は、苗を運び入れておけば良さそうです。



帰り道にニフトコの葉の上にヤハズカミキリを見つけました。



《生田緑地田圃通信 No13-16》 5/24

2013年5月26日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

苗の搬入、苗木畑の草取りなど

日時 2013/5/24(金) 9:40~14:00 晴

場所 生田緑地 下の田圃、苗木畑

参加者 岩田臣生、岩田芳美、城本法子、鈴木潤三

26日(日)に田植えを控えて、自宅マンションのベランダで育ててきた苗を下田圃まで運びました。育苗箱10枚です。

下の田圃にはホトケドジョウの稚魚が群れていました。

田圃の土の上に育苗箱を並べて、防鳥ネットをかけました。

田圃にはツバメが飛び交い、クロスジギンヤンマ、シオヤトンボ、そしてアオモンイトトンボがいました。周囲のヨシにヒゲナガハナノミ♂がいました。



その後、城山下谷戸の苗木畑の草取りをしました。



オオトビモンシャチホコの幼虫が苗木を丸裸にしていました。



木陰で休憩してから湿地の様子も調べました。

ヤマサナエが飛び立っては、然程遠くない所に降ります。

水流の流量は極めて少なくなっています。

驚いたことにカモジグサが一面に広がって花が咲いていました。例年ならオオミゾソバが広がっている時期です。湿地の景観ではありません。地面を見るとカサカサに乾いています。降雨量が少なすぎるのだと思います。



ウツギの花が満開で、コチャバネセセリやクマバチなどが集まっていました。ヤマトクロスジヘビトンボが看板の横にへばりついていました。翅を傷めていました。



帰り道の園路沿いにはナルコユリが咲き、ヤブヘビイチゴが緑の中に水玉模様をつくっています。



《生田緑地田圃通信 No13-17》5/25

2013年5月26日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

ホタル・ガイド・ボランティア研修会

日時 2013/5/25(土) 10:00~12:00 晴

場所 生田緑地 生田緑地整備事務所市民活動室、生田緑地稲目谷戸

参加者 秋山(親子)、石浜、上田、木坂、黒川、斉藤、佐久間、鈴木(義)、辰澤、日野、前川、(指定管理者 佐藤)

事務局 岩田臣生、岩田芳美

今年の生田緑地ホタルの国は6月14日~30日です。

ホタル・ガイド・ボランティアは、14~16日、21~23日、28~30日の9日間を予定しています。

今年の参加申込は5月25日時点で15人から載っています。

生田緑地整備事務所に設けられた市民活動室で研修会を行いました。

話は、生田緑地の谷戸について、ゲンジボタルについて、





生田緑地ホタルの国について行いました。
その後、現地を歩き、活動場所を確認して戴きました。



上の田圃のザリガニ穴塞ぎ、蓄光目印貼り

日時 2013/5/25(土) 12:30~14:00 晴

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美

研修会で谷戸を歩いている時に上の田圃に水が溜まっていなかったため、アメリカザリガニ穴を見つけて塞ぐことにしました。

上の田圃の上の段の畦を丹念に調べて、見つけた穴に枯草と土を詰め込む活動です。

水流の流量が非常に少なくなっているため、効果が現れるまでに時間がかかります。

1周したところで終わりにしました。



また、蓄光目印貼りも行いました

この日は田圃の周辺でウラナミアカシジミを目撃しました。

また、木道の手すりで、クリアナアキゾウムシを見つけました。



《生田緑地田圃通信 No13-18》 5/28

2013年5月29日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

水環境調査のために谷戸に降りました。

ハンノキ林の木道でコクワガタ♂を見つけました。近づくと木道下に落ちて逃げました。

田圃の水は辛うじて土の上に広がっていました。

水流の流量がどこも少なくなっている状態で、これだけの水が田圃にあるということに感謝しなければならいでしょう。



モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/5/28(火) 10:00~12:50 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

モ二 1000 里地調査 2013年5月の水環境調査を行いました。

K ヨシ原の池

すっかりヨシが伸びて2m程の茂みとなっていました。その中でヒメシロネが1.2m程に成長していました。ヨシが支柱替わりになっていたのかも知れません。真っ直ぐ上に伸びています。

一部、刈ったカサスゲを放置してあった場所は、そのままの状態、新たなカサスゲの繁茂は見られません。

水面には黒い藻のようなものが浮いていました。微生物が沢山活動しています。

B 谷戸末端の階段下の水流

谷戸の末端なので流量が多いはずなのですが、非常に少なくなっています。

ホトギスの声が聞こえます。

A 下の田圃裏の水流

いつの間にか、木道上にシオヤトンボ♂がいました。1m程しか離れていません。しかし、シオカラトンボ♂が2匹現れたら、どこかに消えていました。

ツバメが相変わらず来ています。

木道沿いのオオミゾソバの葉の上にはヒメギスの幼虫が見られます。



H 上の田圃への導水路

計量のためのバケツを入れるために溜まった泥をあげているとオニヤンマの4~5cm大のヤゴが出てきました。



移動する途中で、また、シオヤトンボ♀(未熟)を見つけました。

G 湿地3段目の池

水は濁れてはいないものの、非常に少なくなっていることが感じられます。

荷物を降ろしているところに、コオニヤンマが優美な姿を見せて、反転して、消えました。

ザリガニトラップとして使わずに水からあげておいたアナゴカゴの中にミカダガガンボが入っていましたので、逃がしました。

2段目には、シオヤトンボ♂がいました。この日は3個体と



出会いました。

C ハンノキ林上の池

雨が降ってほしいと思っているのに日がさしてきました。



2013年5月28日 調査結果							
調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:15	10:30	22.5	18.5	15	6.8 BTB	—
B(中央水路末端)	10:30	10:43	22.5	17.3	50	7.2 BTB	0.272
A(下の田圃裏)	10:50	11:10	24.0	16.8	40	7.0 BTB	0.166
H(上の田圃への導水路)	11:18	11:35	24.8	16.5	100	7.3 PR	0.125
G(湿地再生地の池)	11:47	11:57	23.5	22.5	100	7.0 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	12:05	12:14	24.0	19.0	30	6.8 BTB	—

ホタルの国 蓄光目印貼り

日時 2013/5/28(火) 10:00~12:50 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田芳美

ホタルの国の準備として蓄光目印貼りを進めています。昨年のものが剥がれて無くなっている所もあれば、剥がそうとしても剥がれないものもあります。

ヨシの葉上で交尾しているヒゲナガハナノミがいました。

帰り道、ピクニック広場で、少しだけブタクサ抜きを行いました。



<連携調査>

名称は暫定的なものです。観察会を行ったり、観察された生物についての情報提供を行ったりと地域に応じて試行しています。

各地域で活動している団体との草の根交流につながる楽しい調査になるようにしたいと考えています。

また、採集した標本は川崎市青少年科学館収蔵庫に収められ、川崎市の生物データとして記録が残ります。

日時 2013/6/7(金) 10:00~14:00 曇

場所 川崎市麻生区 早野聖地公園

参加 早野聖地公園ボランティア 副会長 小泉 清

種子植物班 副班長 佐藤登喜子

シダ植物班 班長 大貫はるみ

事務局 岩田臣生、岩田芳美

かわさき自然調査団の自然調査が地域で保全活動等をしている市民団体にとってもメリットのある形で行われるように、お互いに気持ちよく、楽しい自然調査になるようにしたいと思い、そのあり方をやってみて考える連携調査を行っています。

今回は第2回で、麻生区の早野聖地公園で活動している早野聖地公園ボランティアとの連携調査です。

当日は、早野聖地公園ボランティア副会長の小泉さんが活動フィールドを案内してくださり、種子植物やシダ植物の調査を行いました。

丁度、ホタルブクロやオオバジャノヒゲなどが咲いていました。

ここでは栽培管理的な活動も多く見られますので、案内していただくことで、全くの自然のものか、人為的に植えられたものかといった対象の素性を伺うことができたことは有り難いことでした。

また逆に、早野聖地公園ボランティアが最近見つけて何だろうと保護していた植物が、ヒロウドモウズイカ、アメリカオニアザミという外来種であるという情報を提供することができました。

ここは、園芸種なども認識して栽培管理をしている団体なので、どのように管理していくかはお任せですが、その前提となる情報提供ができることは幸いです。

今後は目的とする対象ごとに個別の班が調査をさせていただくことになると思いますが、ご配慮いただけることを期待しています。







※連携調査は、地球環境基金の助成金を受けた次の活動の一部です。

「川崎の自然に関する知見の共有、大都市における生物多様性について考えるシンポジウムの開催及び市民連携モニタリング・ネットワーク構築に向けた検討」



《生田緑地田圃通信 No13-19》6/12

2013年6月13日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

ホタルの国の準備

日時 2013/6/12(水) 9:00~10:00 雨

場所 生田緑地整備事務所会議室

参加者 生田緑地運営共同事業体 6人
岩田臣生、岩田芳美

今年の生田緑地ホタルの国の警備員配置、注意事項等についての最終打ち合わせを行いました。



ホタル・ランタン設置、サイン設置など

日時 2013/6/12(水) 10:00~13:00 雨

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

待望の雨が降りました。その雨の中、14日から始まるホタルの国の準備として、ホタル・ランタンを設置し、ホタル



の国のサインを設置しました。

この日、生田緑地運営共同事業体では木道に生えていたコケなどをデッキブラシで擦り落とす作業をしてきていました。

梅雨時はスロープ階段などが非常に滑り易くなっていたので、こうした清掃管理は大変うれしいことです。

雨の日は園路上の枝が低く下がります。顔にぶつかりそうな枝は剪定しました。

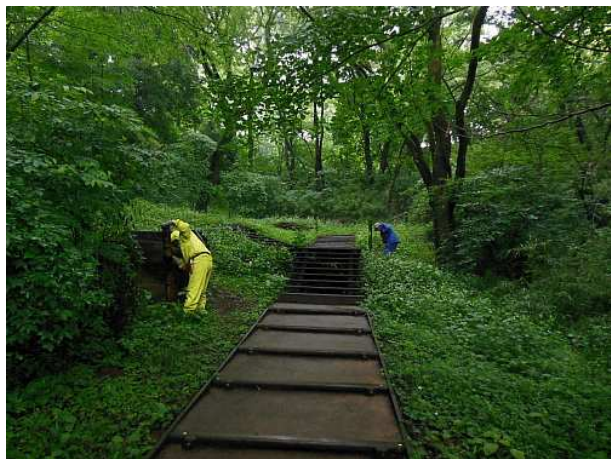


ホタル.ランタンは先ず、昨年使用したもののうち使えるものはタワシなどで綺麗にして立て直しました。ホタルの国の中のサインは昨年のもを同じ場所に設置しました。名前が多摩区道路公園センター、更に古いものは北部公園事務所になっていました。まあ、そこまで見ている人は殆んどいないと思いますが、そろそろ全てを作り替えた方が良さそうです。





昨年使用したホタル・ランタンが無くなっている所には、竹林の混み合っている所からモウソウチクを1本伐り出し、補充しました。



ホタルの国の外のサインも設置しました。



《生田緑地田圃通信 No13-20》 6/14～6/16

2013年6月17日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地ホタルの国 6/14～6/16

ホタル・ガイド・ボランティア

日時 2013/6/14(金) 19:00～21:10 曇

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、黒川直弥、斉藤昭、
佐久間淳子、佐々木キヨ子、鈴木潤三、日野明子、
前川元彦、大野和久 10人

9年目の生田緑地ホタルの国の第1回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

事務局も含めて10人のボランティアのうち初参加は4人でした。

入国者は160人、ピーク時のホタル出現数は37でした。

・初日にはホタルが飛んでいて良かった。

思ったより多くのホタルが飛んでいて良かった。

・柿の木のしたでスマホを使っている女性がいたので注意した。

・去年のポイントとは違う場所にホタルが出ていた。

・歩くと光る靴を履いている子がいた。シールを貼って光が漏れないようにした。

・小さな子を抱き、小さな子の手を引きながら、見知らぬ老人を連れて降りて来てくれた親切なお母さんがいた。

私たちも何らかの手助けができるといいと思った。

・出口のところ、地元の方が「昔はホタルが沢山飛んでいた。」という話をしてくれた。

・ホタルを30見るという目標を持って鑑賞している親子がいた。見つけられたかどうか分からないが、目標を持って観るといい。

・自分が楽しんでしまった。

・50年ぶりでホタルを観た。お客さんは少なかった。川崎の空は明るい。下の田圃付近のマンションの照明が気になる。消してもらえないのか。



•人が少なかったなので、楽しませてもらった。

ホタル観察会

日 時 2013/6/15(金) 18:00~19:10 曇

場 所 生田緑地ビジターセンター

参加者 95人

活動参加者 岩田臣生、岩田芳美

生田緑地ビジターセンターを使ってホタル観察会を開催しました。

テーブル席は 63 席と聞いていましたが、来場した人に応じて職員の方が椅子を運んできてくれたので、ほぼ全員に座ってもらうことができました。

就学前の子も多かったのですが、この子たちが楽しめる内容にはできませんでした。

ホタルの国で守ってもらうことの説明が第一目的です。

①生田緑地の谷戸の自然、②ゲンジボタル、③生田緑地ホタルの国について話しました。



ホタル・ガイド・ボランティア

日時 2013/6/15(土) 19:00~21:00 曇

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、秋山さくら、上田知典、

佐々木キヨ子、鈴木潤三、辻 哲雄、

前川元彦、水上 健 9人

9年目の生田緑地ホタルの国の第2回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

事務局も含めて9人のボランティアのうち初参加は2人でした。

入国者は800人、ピーク時のホタル出現数は43でした。

•いつもと違う場所で飛んでいた。

•19時過ぎぐらいだとまだ明るいので携帯を使っている人がいたが、ホタルが光り始めてからは無くなった。

•遅く来た人を沢山出ている所に案内できた。

•ホタルはそこそこ出ているが去年とは出ている場所が違う。ホタルの里の方が少ないが、ハンノキ林の方は多い。

•生田緑地にはいつも来ているので、このような形で恩返しができる嬉しい。



- ・喜んで帰っていく人が多かったので良かった。
- ・800人というのは土曜日としては少ないと思った。
- ・7時半から光り始めて、8時前後がピークという情報が浸透してきたようだ。
- ・ホタルが沢山飛んでいるのを観られて幸せだった。
- ・下の田圃付近の例年のポイントでライトをつけている人がいたので注意したら、落とした靴を探しているということだったので、代わりにライトを使わずに探した。後で分かったのだが、子供が湿地に降りたら、靴が泥にはまって抜けなくなり、子供を引っ張り上げたら靴が脱げたのだ。暗くても靴は直ぐに見つかったのだが、引っ張っても、なかなか靴を取り上げることができなかった。
- ・竹林のデッキの所のカラーコーンが片づけられていて、人が入っていた。今年はここが見所になっているので、この場所から出て戴いた。ここのデッキ上のカラーコーンによる通行規制は守らせたい。
- ・芝生広場の方から、カラーコーンを乗り越えて入ってくる人がいた。危ないので、こちらからは来ないように注意した。

ホタル・ガイド・ボランティア 3

日時 2013/6/16(日) 19:00~21:00 曇

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、石浜和義、黒川直弥、
鈴木潤三、辰澤延夫、辻 哲雄、前川元彦

8人

9年目の生田緑地ホタルの国の第3回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

事務局も含めて8人のボランティアでした。

入国者は500人、ピーク時のホタル出現数は53でした。

<反省会>

- ・携帯電話の使用を注意した。
- ・北の案内所で、感想を聞かされた。話したい人が大勢いる。
- ・竹林から湿地にかけてホタルが集まっている。
- ・竹林の道をライトをつけて歩いている人がいたので注意した。

この人は、去年まで通れたのに、何の連絡もなく通行止めにするとはとんでもないとボランティアと揉めていた。

一般の鑑賞者もルールを守るべきだと注意していた。

今年、ここをカラーコーンで通行止めにしたところ、この暗がりでもホタルの群舞が観られるようになった。狭い場所だがホタルの群舞は魅力的で大勢が集まっている。そこを通ろうというのだから衝突が起こるのは避けられない。地元の人こそ、少し遠回りするぐらいの配慮がほしい。

- ・携帯電話を明りに使っている人が、注意しても止めてくれなかった。
- ・光る時計をしている人がいた。
- ・登山用のストックを2本持ってきた人がいたので預らせてもらった。
- ・子どもと手をつないで道をふさぐように歩いている親子が多い。
- ・ハンノキ林の出口で左右どちらに行くかで迷う人が多い。
- ・懐中電灯を使っている人がいたので注意した。



《生田緑地田圃通信 No13-21》 6/21～6/23

2013年6月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地ホタルの国 6/21～6/23

ホタル・ガイド・ボランティア 4

日時 2013/6/21(金) 18:50～20:20 雨、20℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田臣生、岩田芳美、石浜和義、木坂陽子、辻哲雄、日野明子、前川元彦 7人

雨でしたが、5人のボランティアが集まりましたので、生田緑地ホタルの国の第4回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

雨にも関わらず 19:05には光り始め、19:25～19:45に出現のピークを迎え、雨が次第に強くなったこともあり、明滅する個体は少なくなりました。入国者は40人、ピーク時のホタル出現数は38でした。



ホタル観察会 2

日時 2013/6/22(土) 18:00～18:50 曇

場所 生田緑地ビジターセンター

参加者 100人

活動参加者 岩田臣生、岩田芳美

生田緑地ビジターセンターを使って今年2回目のホタル観察会を開催しました。

①生田緑地の谷戸の自然、②ゲンジボタル、③生田緑地ホタルの国について話しました。



ホタル・ガイド・ボランティア 5

日時 2013/6/22(土) 19:00～21:00 曇

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、木坂陽子、斉藤昭三、
鈴木潤三、鈴木義裕、日野明子 7人



9年目の生田緑地ホタルの国の第5回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

参加者は7人でした。

入国者は2500人、ホタルの光り始めは19:30、ピーク時のホタル出現数は67でした。

- ・携帯電話を使っている人を注意した。(全ボランティアが複数回注意している。)
- ・人が多くて混雑したが、お互いに譲り合っていた。
- ・光る靴を履いている子供の靴にテープを貼った。
- ・懐中電灯をつけている人を注意したら、「だったら、どうしてもっと明るくしないのか。」と言われた。
- ・「今日がピークですか。」と聞かれたが答えられなかった。
- ・ライトはお願いすれば消してくれた。
- ・サンダルを落として見つけれなかった人がいて、後日拾って公園事務所に届けておくと約束した。
- ・注意したら直ぐ聞いてもらえるので驚いた。
- ・子供たちが感激しているのが印象的だった。

- ・母子で来て、お腹が痛いという子どもを一人で公園事務所のトイレに行かせた。戻って来た子どもがまだお腹が痛くて我慢できないというのに、母親の方はホタルが見たくて揉めていた。子どもが泣き出したので母親も諦めて帰ることになり、母親がその子を背負ったが、もう一人の子がまだ幼かったので、ホタル・ガイド・ボランティアが下の子を連れて上がった。

- ・全員白いシャツを着た団体が戸隠不動口から入ってきて、その中の腕章をつけた人が、混雑している所で、他の止まっている来園者をどかさうと乱暴な言葉を発したので注意した。その後も出会う度に二列になって歩いたりしたので、一列に並んで歩くように注意した。
それは毎年来る青少年指導員とかいう団体だと思う。毎回何もしないでホタルを観て帰るだけだけど。

- ・右側通行とか、左側通行とか決めた方がいいという人がいた。
- ・ホタルを観賞する交通なので、その時のその場の状況に応じて対応した方が良い。

- ・団体で来て、周囲の人の迷惑になるのも構わず声高に説明している人がいた。煩いし、話の内容にもおかしい所があり、他の入国者が間違った知識を持たれると嫌だなと思った。
木道上に集まるので他の人たちの通行を妨げていた。

- ・今年は小さな子どもを二人連れて、一人は抱いて、一人は手を引いて観賞しているお母さんが多いように感じ

る。一列になれないので、これも流れを悪くする要因になっていると思う。しかし、生田緑地ホタルの国としては歓迎すべき観賞者だと思う。

ホタル・ガイド・ボランティア 6

日時 2013/6/23(日) 19:00~21:00 曇、21°C

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田芳美、斎藤昭三、佐々木キヨ子、鈴木理香子、辰澤延夫、日野明子、前川元彦 7人

生田緑地ホタルの国の第6回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。メンバーは7人です。

19:30前に光り始め、19:30~20:00に出現のピークを迎え、89を数えました。

入国者は1000人程度と推測しています。

<反省会>

- ホタルの出現数が多かった。
- 2度目のゲンジボタルを観させてもらって良かった。
- 楽しませてもらった。
- 案内所においている虫除けを貸す回数が多かった。

ホタルを観に行く時の心構えができていない人が多すぎる。大都会の中の緑地の宿命か。

•柘形山から降りて来て、通行止めになっている所から入ろうとする団体がいた。懐中電灯を点けてきたので注意した。

•懐中電灯を点けている人を注意した。

•光を数か所を確認したが人を特定することはできなかった。その付近で光るものを使用しないようお願いした。

•写真を撮ろうとした人、2人を注意した。

•携帯で写真を撮ろうとした人を注意した。

•ストロボを発光させた人が何人もいた。

•スマホで撮影しようとする若者が何人もいたので注意した。

•光る靴を履いた子どもを注意した。

•光る靴を履いている子どもがいたのでテープを貼って対応した。

•光るサンダルを履いたおじさんがいたので、テープを貼らせてもらった。

夜の外出ということで、この時とばかりに履いてくる子どもが多い。

•先週の日曜日の谷戸の末端の家は照明を煌々と点けていて迷惑だったが、今日は消えていたので周辺にホタルが見られて良かった。

•ホタルの国の中で捻挫をした女性がいたので、ご主人と両肩を支えて、西口まで付き添った。



《生田緑地田圃通信 No13-22》 6/24、6/25

2013年6月26日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

生田緑地ホタルの国 6/24～6/25

立教大学現代社会学科のホタル観察会

日時 2013/6/24(月) 18:50～20:30 曇、22℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 佐久間淳子講師、ほか6人

ガイド 岩田臣生、岩田芳美



立教大学講師の佐久間先生が学生を6人連れてホタル観賞に生田緑地に来園しました。平日なので、中で話をしてもいいと思いましたが、入る前に簡単な話をして、観賞は自由していただきました。

ホタル調査、ホタル・ガイド・ボランティア

日時 2013/6/24(月) 19:30～20:20 曇、22℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田臣生、岩田芳美 19:30からは、ホタル調査とホタル・ガイド・ボランティアを行いました。ホタルの出現のピークは昨夜だったようで、少し減って74でした。入国者は250人程度でした。

日本女子大付属高校生物部のホタル観察会

日時 2013/6/25(火) 18:30～19:30 曇、22℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 大塚教諭、青木教諭、生物部員8人

ガイド 岩田臣生、岩田芳美

毎年恒例になっている日本女子大付属高校生物部のホタル観察会を行いました。

話は谷戸の降り口のデッキの所でパソコンを使って行い、ホタル観賞は自由していただきました。





ホタル調査、ホタル・ガイド・ボランティア

日時 2013/6/25(火) 19:30~20:20 曇、22℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田臣生、岩田芳美

ホタルの国のホタル調査を行いました。

ピーク時のホタル出現数は73、来園者は350人でした。

この中に、幼児100人ぐらいの団体があったのですが、静かに先生の指示を守っていて、非常に可愛い景観でした。先生方の質の高さに感服しました。



《生田緑地田圃通信 No13-23》6/28

2013年6月29日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

水環境調査のために谷戸に降りました。ハンノキ林でミドリシジミ♀に出会いました。



毛二 1000) 水環境調査

日時 2013/6/28(金) 9:50~12:00 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

毛二 1000 里地調査 2013年6月の水環境調査を行いました。

K ヨシ原の池

カサスゲが背丈程に成長しています。
ハンノキに巻き付いていたクズを伐り、届く範囲は外しました。クズのほかにもヤブカラシなども絡みついています。

B 谷戸末端の階段下の水流

一昨日の雨のおかげで谷戸の末端の流量は多くなっています。
ホトギスの声が聞こえます。

A 下の田圃裏の水流

ここはゲンジボタルが気になるため調査を休みました。

H 上の田圃への導水路

モウソウチクの枯葉がパイプに詰まっていた。
流れの泥あげも少し行いました。



G 湿地3段目の池

シュレーゲルアオガエルのオタマジャクシが泳いでいました。
オオシオカラトンボ♂がいました。
ツリフネソウの葉上にアマガエルの幼体がいました。

C ハンノキ林上の池

誰が持ってくるのか、ホテイアオイが入っていました。アメリカザリガニも7~8匹はいました。ガビチョウが怪しい行動をしています。

2013年6月28日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	9:55	10:20	22.4	19.5	30	6.8 BTB	—
B(中央水路末端)	10:20	10:30	23.0	19.0	100	7.1 BTB	1.037
A(下の田圃裏)							
H(上の田圃への導水路)	10:40	10:50	24.5	17.5	75	7.2 BTB	0.528
G(湿地再生地の池)	11:04	11:11	24.0	22.5	90	7.0 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	11:30	11:40	23.0	18.0	100	6.7 BTB	—

ホタルの国の蓄光目印貼り、カナムグラ駆除

日時 2013/6/28(金) 9:50~12:00 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田芳美

ホタルの国の蓄光目印の点検、補充を行いました。

カナムグラの駆除も行いました。



《生田緑地田圃通信 No13-24》6/28~6/30

2013年7月2日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地ホタルの国 6/28~6/30

ホタル・ガイド・ボランティア 7

日時 2013/6/28(金) 18:50~21:10 曇、22℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田臣生、岩田芳美、木坂陽子、斎藤昭三、
鈴木義裕、日野明子、前川元彦 7人

生田緑地ホタルの国の第7回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

入国者は 500人、ピーク時のホタル出現数は36でした。
急な減少で、少し寂しく感じました。



・親子の会話を聞いているだけで、こっちが楽しかった。

・「生田緑地以外ではどこでとんでいるか？ 飛森は飛んでいるか？」と聞かれたので、もう飛んでいないと答えた。

・光る靴を履いている子がいたので対処した。(2件)

・光るサンダルを履いている子がいてテープを貼ったが、穴から光がもれてしまい、苦労した。

・3~4人の子どもが走っていたので、危ないから走らないように注意した。

・携帯電話を操作している人がいたので注意した。(4件)

・「ビジターセンターで聞いたら、7月になってもホタルが出ていれば勝手に見ていいと言われた。」と話してくれた人がいた。生田緑地の窓口の対応としては問題がある。

・4~5組の人たちから、ここのホタルについて聞かれ、自然のホタルで、エサを与えるようなことはしていないと話すと感動していた。

- ・世田谷の方で同様の活動をしている人が見学に来ていたので対応した。ホタル・ランタンに感動していた。
 - ・ホタルを捕まえて持ち帰ろうとした子がいた。放してもらったのに暫く動かなかったので心配したが、やがて飛んで行った。
- その子のお母さんが「逃がさなければダメでしょ。」と言ってくれた。
その子の気持ちはわかるけど、数少ないホタルだから仕方ないね。

ホタル・ガイド・ボランティア 8

日時 2013/6/29(土) 18:50~21:10 曇、22°C

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田臣生、岩田芳美、秋山さくら、石浜和義、
上田知典、木坂陽子、倉本 宣、斎藤昭三、
佐々木キヨ子、鈴木潤三、辻 哲雄、
日野明子、前川元彦 13人



生田緑地ホタルの国の第8回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

入国者は 1300人、ピーク時のホタル出現数は 28 でした。

丹念に見ていけば、まだ出会えると思いますが、ホタルがいないと苦情をぶつけてくる人がいたのには驚かされました。ここのホタルは見せ物ではありません。大都市の市街地の中に生き残ったホタルを、自然の状態で見られるように生田緑地ホタルの国を運営しています。

- ・ホタルが少なく残念。来た人はいっぱい出たと喜んで帰った。
- ・携帯電話は数人に注意した。
- ・来園者のマナーは良かった。
- ・ライトをつけている人、携帯電話を使っている人が多かった。ライトはなかなか消してくれない。
- ・光る靴を履いている子がいた。
- ・本人が気が付かないで、ポケットの中で点いているスマホが多かった。
- ・電子蚊取をつけている人がいた。(3件)
- ・あまり見えなかったと苦情をいう人がいた。
- ・挨拶すれば挨拶が返ってくるので気持ちよくできた。
- ・マンションの灯りを何とかできないのかという意見をもらった。
- ・専修大学の照明や音について責任を持っている人を案内したかった。
- ・竹林方向の通行止めは何故かと聞かれた。
- ・芝生広場方向の分岐点辺りで懐中電灯を点けている人がいた。ハンノキ林の分岐から大声で注意したが消してくれないので走ったが、誰だったのかわからなかった。
- ・南案内所の萌芽更新の案内看板にライトをあてる人がいた。注意したら、ホタルがいないのだから点けても関係ないだろうと反論された。

ホタル・ガイド・ボランティア 9

日時 2013/6/30(日) 18:50~21:10 曇、22℃

場所 生田緑地ホタルの国

参加者 岩田臣生、岩田芳美、石浜和義、大野和久、斎藤昭三、佐々木キヨ子、鈴木潤三、辻 哲雄、日野明子、前川元彦 10人



生田緑地ホタルの国の第9回ホタル・ガイド・ボランティアを行いました。

入国者は 800人、ピーク時のホタル出現数は 17でした。

ホタルは 26日の雨をきっかけに急速に減少し、最終日の今日は 20を切りました。また来年、楽しませてくれることと思います。

- 良い体験をさせてもらった。
- 携帯電話は数人に注意した。
- 来園者のマナーは良かった。
- ライトをつけている人、携帯電話を使っている人が多かった。
- ホタルが減ったなあという感じで残念です。また来年が楽しみです。
- 来場者は、こちらが挨拶すると挨拶が返ってきて、良い関係ができてきたと思いました。
- ホタルは少なかったけれど、ホタルが見れて良かったと言って帰っていくのを見るのがうれしかった。
- 園路の上に木の枝が下がっている所は目印があった方が良かったと思う。
- 自分が楽しませてもらった。
- ハンノキ林を出た所の三叉路で道を迷う人がいた。
- 通行止めを越えて竹林に入ろうとする人がいた。
- 近所に住んでいる人で、「こんな良い所があったんですね。私、初めて来ました。」という人がいた。
- 来場者と気持ち良い会話ができた。
- 帰りに「有難うございました。」とか、「良かったです。」と言って帰る人が多かった。

平成 25年度の生田緑地ホタルの国は 6月 30日(日)で終了しました。

今年に来場者総数は警備員さんの調べでは 9,166人でした。

また、1,000人超の日は 6月 22日(土) 2,236人、23日(日) 1,010人、29日(土) 1,255人でした。

ゲンジボタルの出現数は 14日(金)が 37で始まり、19日(水)には 70に達し、23日(日)に 89でピークとなり、25日(火)が 73でしたが、26日の雨で急減し、30日には 17にまで減少しました。

観賞者の中にはまだ、ルールを守ってくれない人や、ホタルが少ないと文句を言う人もいましたが、私たちと同じ目線で生田緑地のホタルを見守ってくれる家族が増えているのを感じながら、ホタル・ガイド・ボランティアを実施できたことに感謝しています。



《生田緑地田圃通信 No13-25》 7/3

2013年7月16日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動 7/3～7/16

希少種 2 種の保護

日時 2013/7/3(水) 11:30～13:00

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

また、国の絶滅危惧 I B類(EN)、神奈川県絶滅危惧 II 類(VU)の植物bの発芽状態を確認し、アズマネザサなどを少し除伐しました。

国の絶滅危惧 II 類(VU)、神奈川県絶滅危惧 I B類(EN)の植物 a が発芽し始めました。その状態の確認と生育阻害要因となる植物の除草を行いました。



ホタルの国の反省会

日時 2013/7/5(金) 10:00～11:00

場所 生田緑地整備事務所会議室

参加者 生田緑地運営共同事業体 大畠、額谷
カナケイ 富田
岩田臣生、岩田芳美

9年目の生田緑地ホタルの国の反省会を行いました。



倒木処理について現地立会い

日時 2013/7/5(金) 11:00~11:20

場所 生田緑地ハンノキ林

参加者 生田緑地運営共同事業体 大畠、外 2 人
岩田臣生、岩田芳美

ハンノキ林内の樹木が木道上に倒れたとのことで、現地を確認し、材の処理について協議しました。



谷戸へ降りる階段の上で、ウスバカゲロウがアカズムカデに襲われていました。瞬間的には飛んで逃げようとしたのですが、ムカデの体重で落下してしまい、抑え込まれました。

水の管理

日時 2013/7/5(金) 11:20~13:20

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

湿地の水の状態を調べました。

植物の生長著しい季節のため、歩くのも容易ではありません。水路に沿って分け入ると、水流が途中で消えていました。水は穴に吸い込まれています。スコップは用意して来なかったため、足で踏みつぶす方法で一時的な補修を行いました。

保護している植物は、今年は良くありませんが、辛うじて5~6株が育っています。周囲の子ゴザサ刈りを徹底したいと思います。

チダケサシの花が見られます。

田圃の水位は上がってくれません。水漏れはアメリカザリガニの開けた穴だと思のですが、その場所の特定ができません。

穴を見つけて塞いでも、住人を駆除しないと直ぐにまた穴を開けられてしまいます。





ヒメギスも繁殖期を迎えたようです。

ヒメギスは谷戸のミゾソバの茂みに普通に見られるキリギリスの仲間です。

カサスゲの群落の中のカナムグラも駆除しないと、直ぐにカサスゲを覆ってしまいます。



アオバハゴロモの幼虫が活動する季節のようです。木道の手すりに多数見られました。

葉上にアトボシアオゴミムシがいました。

これは採集して確認していませんが、多摩丘陵の樹林に普通の種だろうということからアトボシアオゴミムシと記しました。



田圃の施肥、アメリカザリガニ駆除

日時 2013/7/16(火) 10:00~13:00

場所 生田緑地ハンノキ林～下の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美

猛烈な暑さがおさまったので、田圃の追肥とアメリカザリガニ駆除のため谷戸に降りました。

ピクニック広場の草地はツリフネソウが優占しつつあります。

園路わきのヤマグワの葉上にキボシカミキリがいました。

キボシカミキリの本来の自然分布は、伊豆諸島(三宅島・御蔵島)、対馬、琉球列島、台湾、中国、韓国で、関東地方

のものは移入種のようなです。1930 年頃に東京で、1942 年に神奈川県逗子で初記録されています。

生田緑地では今頃から、ヤマグワの幼木の葉上でよく見かけるようになります。

ハンノキ林の林床にアキノタムラソウの花が見られるようになりました。「アキノ」というのに夏に咲いています。東アジアの温帯～暖帯に広く分布する多年草ですが、学名は *Salvia japonica* です。

谷戸の湧水量は減っていて、涸れている流れもあります。上の田圃の下の段はひび割れています。しかも、コナギ、チョウジタデ、アゼナ、イヌビエなどが広がっています。



田圃のアメリカザリガニは小さなものが大部分ですが、100匹を駆除しました。
ハンノキ林上の池でもアメリカザリガニを採集し、これをアナゴカゴに仕掛けました。



《生田緑地田圃通信 号外№13-04》

2013年7月18日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

＜連携調査＞ さいわいふるさと公園の池の生物調査兼ウシガエル駆除

日時 2013/7/17(水) 13:30~16:00 曇

場所 川崎市幸区 さいわいふるさと公園の池

参加 さいわい夢ひろば友の会 江崎佳草、江崎邦子

事務局 岩田臣生、岩田芳美

連携調査の4回目は幸区の新川崎創造の森「さいわいふるさと公園」内の池の生物調査を行いました。

ここは造られた池であり、持ち込み放流が多いことから、取り扱いは難しいのですが、将来に向けてウシガエルの駆除を一緒にすることにしました。

事前の情報として、大きなオタマジャクシだけでなく、小さなオタマジャクシが沢山いるということでしたので、小さい方はウシガエルでないことを祈っていたのですが、やはりウシガエルでした。



ウシガエルの大きなオタマジャクシも、手足の生えているものが何匹もいました。



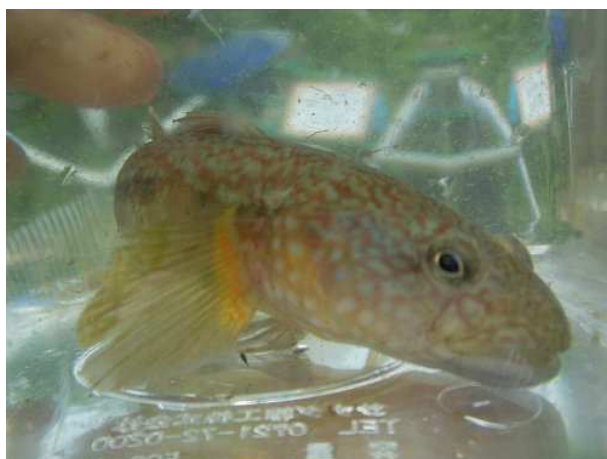
小さいオタマジャクシというのは今年生まれたウシガエルの幼生で、まだらな黒斑が幼生ながら迫力を感じます。150匹を採集しましたが、これはほんの一部だと思います。

また、こちらにも今年生まれたばかりと思われるヌマチチブ?の稚魚と一緒に群れていました。この親は移入され

たものと思いますが、今回は駆除対象としないこととして採集しての個体数調べはしないことにしました。残念ながら、ウシガエル成体の採集はできませんでしたが、ウシガエルの1 齢のオタマジャクシは、既に尾が消えているもの、手足のあるものなど、37 匹を採集し、駆除しました。池の中にはアメリカザリガニが多数見られましたが、採集できたのは30 匹でした。



魚類はキンギョ(10cm 大)、モツゴの成魚数尾と多数の稚魚、ヌマチチブの成魚1 尾と稚魚多数がいました。フナも放されていると同いしましたが、今回は確認できませんでした。勿論、全て持ち込まれたものです。



この外に採集できた生物は、シオカラトンボのヤゴ 1、マツモムシ 1、メダカ(持ち込み)などでした。空中には、オオシオカラトンボ♂3、ショウジョウトンボ♂2、コシアキトンボ 1、ナガサキアゲハなどが見られました。



今回は1 時間半ほどの採集作業で止めました。駆除は1 回で済むことではないので、先ずは様子見と考えました。この日はさいわい夢ひろば友の会の活動日で草刈りをされていましたが、その活動後のお茶会に参加させて戴きました。活動場所に、このような活動拠点があり、活動後にこんな時間を持てるのは素晴らしいことだと思いました。



《生田緑地田圃通信 No13-26》

2013年7月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

枯木伐採についての現地協議

日時 2013/7/22(月) 9:50~11:40 曇

場所 生田緑地

協議者 大島雅弘(生田緑地運営協働事業体)

参加者 岩田臣生

台風によって樹木が倒れると危険なので、危険性のある枯損木について、事前に伐採するかどうかを現地で協議することになりました。

No01 枯れたコナラ

園路側に倒れると危険なので胸高で伐採し、根元の裏側にカントリーヘッジ状に置くことにしました。

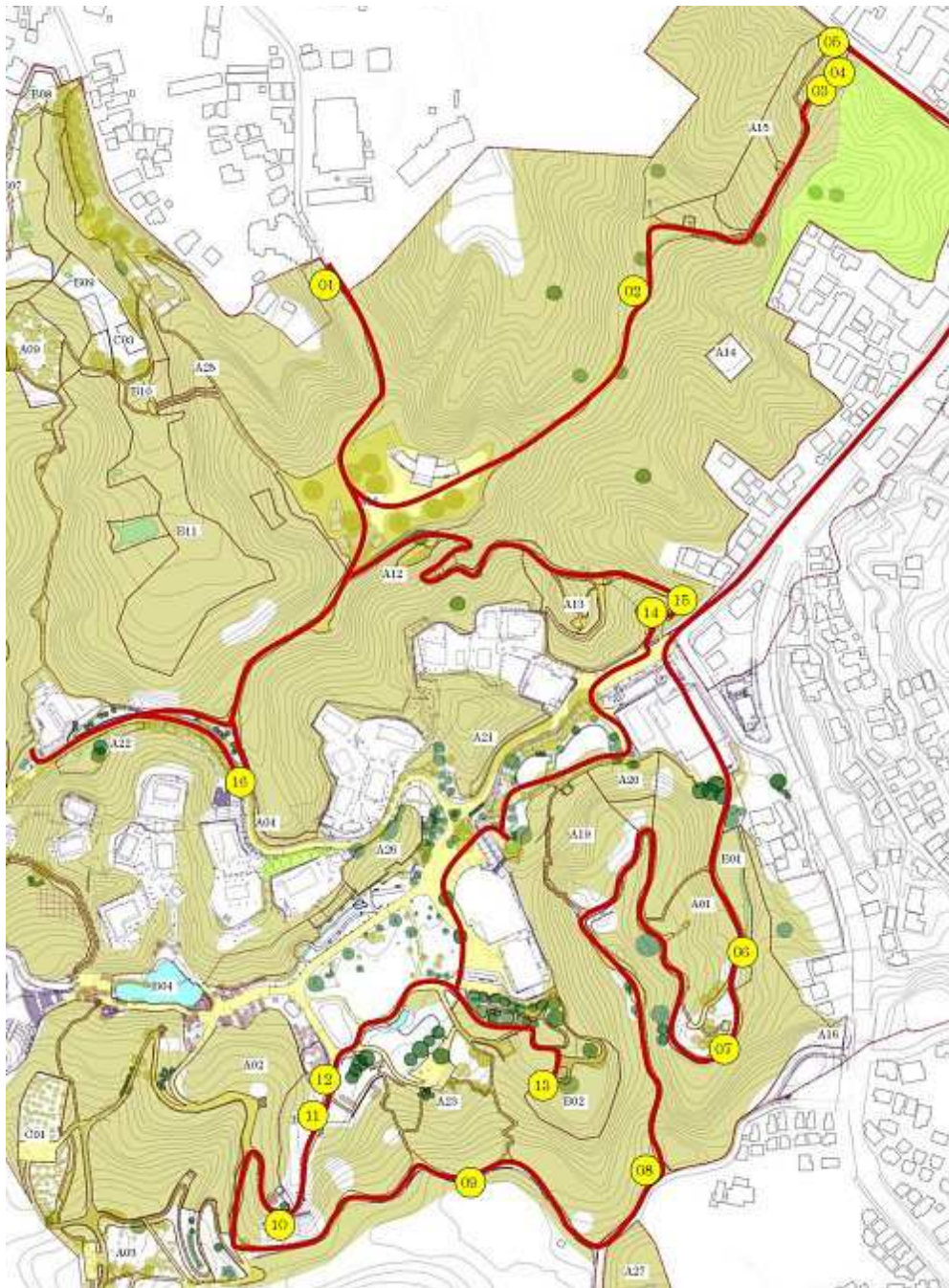
No02 2本立ちのサクラの園路側の枯れ木

園路側に折れて倒れる危険性があるので、目印位置での伐採とし、材は山頂の北に通行止めを兼ねて積むことにしました。

No03 園路上部で2つに分かれた枝の一方が枯れています。

この枯れている枝のみを切り落とし、材を階段下に置くことにしました。





No04 株立ちしている木の1本が枯れています。
これを伐採し、材を階段下処理します。



№05 入口付近の枯れ木 2 本

伐採し、根元付近にカントリーヘッジ状に積むことにしました。

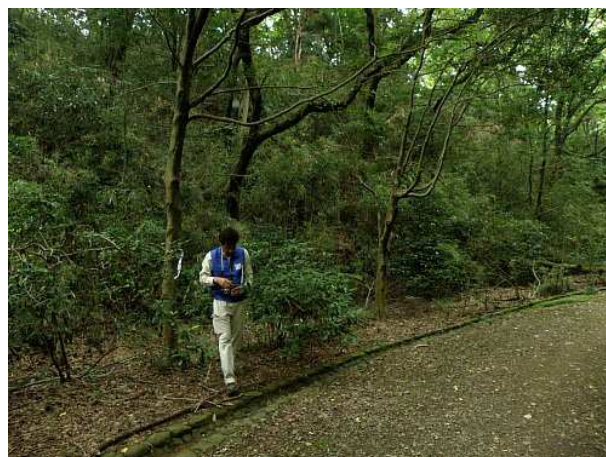
№06 水辺わきの枯れ木 1 本

目印位置で伐採し、園路側にカントリーヘッジ状に積むことにしました。

作業の時に水辺側には立ち入らないことを条件としました。

№07 園路わきの枯れ木 1 本

伐採し、7m ほど下、4 月に伐採材を置いた場所に置くことにしました。



№08 枯れたマテバシイ

伐採し、直ぐ南側に放置されてあった材を片づけて、そこにカントリーヘッジ状に積むことにしました。



№09 園路上の枝が枯れている。

枯れ枝部分のみを切り落とすことにしました。

№10 園路方向に伸びている樹木が枯れていました。

伐採し、斜面に向かって右手奥の平坦地に積むことにしました。



№11 枯れたトウカエデ 1 本

園路側に切り倒すことにしました。



№12 細い枯れ木 2本(多分、ツバキ)
伐採して片づけることにしました。



№13 野鳥観察舎上に伸びている樹木が枯れていた。
これが倒れると観察舎が壊れることになりますので伐採
することにしました。材は園路柵の樹林側にカントリーヘッジ状に置くことにしました。
合わせて観察舎床の補修を検討してくれるようお願いしました。
また、観察舎の窓を1つ増やす要望があると聞きました。

№14 園路わきの細い枯れ木
伐採し、少し上の園路脇に積むことにしました。



№15 少し上にも枯れ木がありました。
目印位置で伐採し、少し奥に積むことにしました。

№16 コツカが枯れていました。
植栽が枯れたら除去するのは普通のことです。その後のことは改めて考えればいいと思います。

モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/7/22(月) 11:40~14:00 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

モ二 1000 里地調査 2013年7月の水環境調査を行いました。

K ヨシ原の池

カサスゲが背丈ほどに伸びています。



池の中にもヨシが広がっています。近いうちに除伐して、泥あげもしておく必要があります。

B 谷戸末端の階段下の水流

流量が非常に少なくなっています。

調査中にヤマトタマムシが飛んできました。

A 下の田圃裏の水流

当該地はゲンジボタルに配慮して、今月も調査を休むことにしました。

H 上の田圃への導水路

ホトケドジョウが落ち込みに集まっています。

流量は少なくなっていますが、田圃の水は保たれています。

G 湿地3段目の池

完全に水が涸れていました。湿地の水辺管理を急ぐ必要があります。

何故かクワの木が枯れかけていて、幹にヤマトタマムシが来ていました。

C ハンノキ林上の池

アメリカザリガニのトラップにアメリカザリガニ2匹が入っていました。ホテイアオイも1つ残っていました。

頻りにウグイスが鳴いています。

2013年7月22日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	12:05	12:20	28.8	24.0	20	7.0 BTB	—
B(中央水路末端)	12:22	12:30	28.5	22.0	93	7.0 BTB	0.069
A(下の田圃裏)							
H(上の田圃への導水路)	12:35	12:50	28.3	20.0	100	7.2 BTB	0.104
G(湿地再生地の池)							—
C(ハンノキ林上の池)	13:29	13:40	28.3	23.0	25	6.8 BTB	—

カナムグラ駆除、アメリカザリガニ駆除

日時 2013/7/22(月) 10:00~13:00 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田芳美、城本法子

カナムグラの駆除、田圃のアメリカザリガニの駆除(150匹)を行いました。





《生田緑地田圃通信 No13-27》

2013年7月25日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

下の田圃の田圃雑草管理(特定の植物の保護)

日時 2013/7/23(火) 10:00~13:00 曇

場所 生田緑地下の田圃

参加者 岩田臣生



下の田圃は深くて長靴では入れません。コナギが繁茂して弱い植物が負けていました。そこで裸足になって田圃に入り、弱い植物を保護することにしました。

オオシオカラトンボ♂♀、ショウジョウトンボ♂が来ていま

た。

イオウイロハシリグモが多数、コナギの茂みに隠れていました。このコナギを田圃の泥の中に押し込んでいたのですが、イオウイロハシリグモが水中に潜るところを初めて見ました。こんな芸当ができるのならオタマジャクシを食べるとい話も納得できます。



カナムグラ駆除、アメリカザリガニ駆除

日時 2013/7/23(火) 10:00～13:00 曇

場所 生田緑地上の田圃～合流付近

参加者 岩田芳美

カナムグラの駆除、田圃のアメリカザリガニの駆除(150匹)を行いました。

ノカンゾウが咲いていました。



《生田緑地田圃通信 No13-28》

2013年7月26日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

湿地の水辺保全

日時 2013/7/24(水) 10:00～13:00 曇

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生

22日の水環境調査の時に、湿地の池の水が完全に涸れていました。これは湧水の流量が少なくなっていることだけの問題ではなくて、水路のどこかで水漏れを起こしているものと思われました。

そこで、これを補修しておくことにしました。

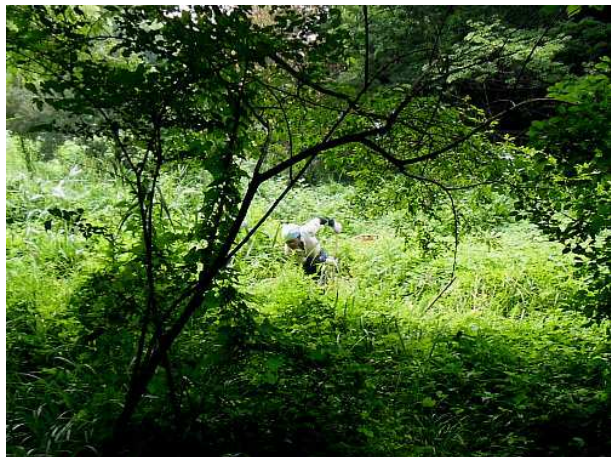
私たちが湿地と言っている場所は、昔は田圃だった所です。そこに土砂崩れによる土砂が流れ込んだため、元の地主さんは、田圃を続けることができないと判断し、排水を良くして畑に転換しようとしたそうです。でも、何処からともなく水がしみ出してきて、良い畑にはならなかったそうです。

私たちは、2004年11月から、ススキとヤマガワが繁茂していた場所に水路を掘り、水を引いて、湿地をつくり、昔ここにあったという植物の復活を目標にした活動を始めました。

そして、目標とした植物の復活には成功したのですが、時々、水が抜けて、水域としては安定させることができていません。その度に手をいれれば良いと思っていますが、数年前から生田緑地の数本の湧水の流れが涸れることが起こるようになっていて、ここの水を安定させることが益々困難になりつつあります。

そんなことを繰り返していますので、水が涸れている原因は想像することができました。

現地に入ってみると、水漏れの原因は予想した通りで、水路に開いた穴から水が抜けていました。今回は、その穴のある畔の部分踏み潰し、水路の泥あげをすることで補修としました。その後、流れ沿いに草刈りを進め、水が2段目に流れることを確認することができました。



水路沿いに草刈りをしていたら埋もれていたアザミが現れました。これはノアザミでしょうか。

水が流れ始めたら、オオシオカラトンボ♀が飛んで来て産卵を始めました。

今回は2段目に水を入れることを目的に活動しました。今にも降り出しそうな曇り空でしたので、何とか、ここまでの活動ができました。

最後に田圃雑草の状態も確認しました。チゴザサ刈りが



必要な状態です。

かつては、水田耕作の除草がチゴザサなどの繁茂を抑え、この田圃雑草の生育を支えていたのだと想像しています。

湿地環境が形成されたことで、他の様々な水辺の植物が生育するようになりました。少ない労力で、消えようと



している植物を保護し、多様な植物が生育する状態を維持するためには、いつ、何をすればいいのか、これを見極めることが目下の課題だと思っていますが、気候条件も毎年異なるので難しさを感じています。



カナムグラ駆除

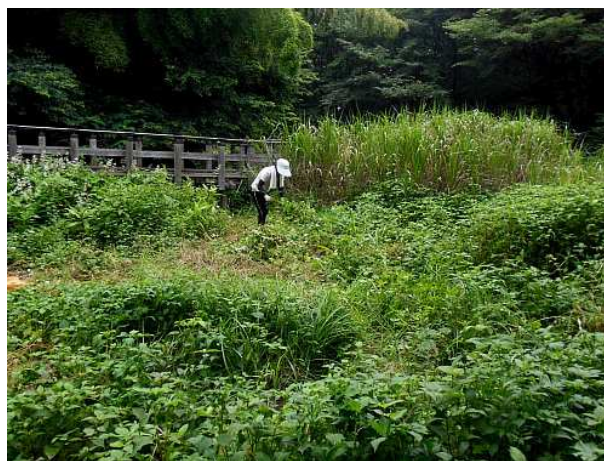
日時 2013/7/24(水) 10:00～13:00 曇

場所 生田緑地上の田圃～合流付近

参加者 岩田芳美、城本法子

花が咲き始めたノカンゾウをカナムグラが覆っています。

今日のカナムグラの駆除はノカンゾウの保護に重点を置いて行いました。



クマバチが数匹大きな羽音を立ててヤブミョウガの花に吸蜜にきていました。最近ヤブミョウガは勢力を伸ばし過ぎていると感じています。



《生田緑地田圃通信 No13-29》

2013年7月27日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

湿地の水辺保全(続き)

日時 2013/7/25(木) 10:00~13:00 曇

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生

昨日(24日)の活動の続きとして水路内や岸辺のヨシなどを地中で刈り取り、泥上げをして、流れを遮る要素を取り除くことにしました。

この日は生田緑地で小学校の理科研究会の事業が行われていて、湿地とハンノキ林の境界の木道から同じ説明が何度も聞こえてきました。

アザミの花にキマダラセセリが来ていました。

湿地2段目のチゴザサ刈りも少し行いました。

長い間、この谷戸で水田耕作を行っていた元の地主さんは、この草(チゴザサ)があるから私たちには田圃を維持することができないだろうと思っていたようです。

私たちが田圃を再生してから数年経ってから、そんな話をしてくれました。

このチゴザサは毎年、根を取っておかないと、年々、根の密度が高くなって、他の植物が生育できなくなってしまう。

2004年に初めて田圃を再生した時は、連日、このチゴザサの根と格闘していました。

この日は、下にどんな植物が生えているかを調べながらザッと刈り取りを行いました。他に何も生えていないような所は、この時期に土を起こしてみるのも、チゴザサ駆除になるかも知れないと思っています。いずれにしても、細目に駆除しておかないと弱い植物が消えそうになっています。



カナムグラ駆除

日時 2013/7/25(木) 10:00~13:00 曇

場所 生田緑地上の田圃~合流付近

参加者 岩田芳美、鈴木潤三

上の田圃は湛水されていて、オオシオカラトンボ♂が数匹
思い思いの場所に陣取っています。オニヤンマは既にし
っかり縄張りが確定しているようです。

カナムグラはすっかり育って、様々な植物の上に広がろう
としています。

これを剥ぎ取る活動をあちこちで進めています。

剥ぎ取った後は、下にあった植物が寝てしまうことが多
いのですが、これは1週間もすれば立ち上がってきます。



帰り道、こんな生物に出会いました。



《生田緑地田圃通信 No13-30》

2013年8月1日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

湿地の水辺保全(続き)、カナムグラ駆除

日時 2013/7/30(火) 12:00~13:30 晴

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

午前中(9:30~11:30)に第4回自然会議(会長 倉本 宣)が開催され、岡本美術館~ゴルフ場の園路整備計画についての話し合いが行われましたが、8月には着工しようとしている工事であり、より良い生田緑地にするための原点に立ち返った会議とすることはできませんでした。その後(11:40~12:00)、伐採について未協議の枯木があったということで、現地確認しました。



これは上から下までキノコの発生が見られ、園路側に傾いて生えていることから、伐採に合意せざるを得ませんでした。

湿地の田圃雑草の管理として園芸栽培にならない範囲での保護と駆除を行っています。

環境を湿潤にすることで復活してきた植物が消える事態にならないように、できる範囲で少しだけ手を貸してあげたいと思っています。

この場所の最大の問題は水を溜らさないことなのですが、残念ながら、年に数回は水路途中の穴からの漏水による水涸れが起こってからの補修を繰り返している状況です。

植物の強弱は歴然としていて、強い植物が一度蔓延ってしまうと弱い植物は生育できません。

そんな弱い植物でも生育できていたのは、水田耕作があったからだろうと推察しています。湿地2段目はまだ田圃の土に戻っていないので、水田耕作のような方法を適用することは困難です。他の植物を意識的に駆除する方法を中心に保護管理をしています。



今回は、保護すべき植物の周囲について、チゴザサを根こそぎ取ってしまう方法を試みることにしました。暑さの中での作業は捗りませんが、今年も何とか、開花につなげられそうだと安心しました。



《生田緑地田圃通信 No13-31》

2013年8月2日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

ヨシ原の池の管理、カナムグラ駆除

日時 2013/8/2(金) 10:00~13:00 曇

場所 生田緑地ヨシ原

参加者 岩田臣生、岩田芳美、城本法子、鈴木潤三

ヨシ原はカサスゲやヨシが勢いよく繁茂して、池がすっかり覆われてしまいました。

アメリカザリガニの駆除が必要と思われるものの、トラップが使えない程の状態になっていました。

そこで、池の中に侵出しているヨシやキョウブを取り除くことにしました。

とはいえ、この暑さの中、ウエイダーを履く気にはなれません。池の周囲のヨシなどの草を刈り、作業スペースを確保してから、長柄の鎌などを使って、根茎を切って、できるだけ根も一緒に取り除くことにしました。

ヨシの上にクズが広がっている所もありました。キョウブが広がっている所もありました。泥が溜まっていた。それでも長靴では入れません。

作業しながら採集できたアメリカザリガニは 30 匹程でした。

田圃の稲は元気ですが、花穂はまだ出てきません。ノカンゾウが花盛りになっています。



ヨシ原は鬱蒼とした叢状態でした。



水面は開放しましたが、泥上げは殆んどできませんでした。泥をあげて、もう少し水深を確保しないと生物の生息環境としては適しません。しかし、暑さの中の作業は2時間が限度です。後は次回以降に行うことにしました。



谷戸の自然探勝路わきには、ダイミョウセセリがいました。オオミゾソバの葉上にキタテハがいました。



《生田緑地田圃通信 No13-32》

2013年8月14日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動



生田緑地のミズタマソウが咲く季節になりました。

雨後の水の管理、田圃雑草の管理、アズマネザサ採取

日時 2013/8/13(火) 10:30~14:00 晴

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生

昨夜は川崎でも雷雨となり、非常に多くの落雷がありました。そして待望の雨が降りました。

乾ききったところへの雨でしたが、水辺の状態が気になり、生田緑地に出かけました。また、次回の里山の自然学校「夏の里山」に使えるような里山の恵みを探すことも行うことにしました。

谷戸に降りると、ハンノキ林上の池にホテイアオイが持ち込まれていました。今年、4回目です。これは掬い上げて捨てました。

かなり長期間濁っていた水は少し澄んでいました。オオシオカラトンボが2匹来ていました。

ハンノキ林に入った所で、ツクツクボウシが鳴いていました。今年の初認です。

湿地へ流れる水流は回復していました。1段目、2段目の流れは問題無いようです。

楽しみにしていた田圃雑草の花が咲いていました。しかし、全体的に草の勢いが凄いので、少し選択的草刈りをした方がいいかも知れません。

梅畑を出た所で、ヌスビトハギが刈り取られていることに気がつきました。鎌で斜め切りをしてあり、刈ったものは近くに捨てられていました。

ここのヌスビトハギは1株だけで周囲に広がるわけではないので、多様な植物のうちの一つとして花や実を楽しんでいたものです。誰が、何のために、このようなことをするのか理解できません。

上の田圃への導水路は案の定、泥が溜まって、折角の恵みの水が溢れ出ていましたので、これを補修しました。

上の田圃の稲は出穂し、蒨を覗かせていました。

稲の間から、イヌビユなどの田圃雑草が大きく成長しているのが見えます。稲の花が咲き始める前に、少し除草をしておくべきだったと思います。稲の花が咲きだした今となっては、少し様子を見るべきだと思います。

オオシオカラトンボやシオカラトンボが10匹ぐらい集まっているようです。オニヤンマは、谷戸の中央の上空を上下する個体と水流の水面近くを飛翔している個体がいます。



下の田圃に向かう途中で、コジユケイの親子に出会いました。

木道の直ぐ側のミヤマシラスゲの茂みの中から、はじめに、母親が飛び出して5m程離れた茂みに降りました。これに続いて子どもが3羽、流れを飛び越えて、後を追いました。そして、最後に父親が飛び出し、木の枝に止まって、暫く警戒の声を発していました。でも驚いたのは私の方で、何もできずに見ていました。

下の田圃の稲も無事に出穂していました。

コナギが一段と増えて、花も咲かせていました。



谷戸の水辺調べとして城山下谷戸の水流も観察しましたが、こちらは相変わらず流量は少なく、谷戸の途中で消えていました。

また、勿論ですが、谷戸の水辺で守っている植物の状態も調べました。

田圃雑草の場合は、昔のスタイルの適度な水田耕作を行っていたら、それが保護活動にもなると思っています。

しかし、一度壊されてしまった田圃は田圃にすることが

困難で、湿地にするための活動をしています。これがなかなか大変です。

次回の里山の自然学校で使う里山の恵みの一つはアズマネザサにしました。里山管理としては只管、下草刈りとして刈り取る作業をしている対象ですが、このアズマネザサの太くて、大きなものは篠竹と呼ばれて様々に利用されてきたものです。

生田緑地でもいくつかの場所では太くて、大きなアズマネザサが生育しています。今回は、これを使わせてもらうことにして、数本採取しました。そして、これを持ち帰って、子どもたちに作れそうなものを試すことにしました。また、いくつかの草の葉も採取しました。これも目論んでいることができそうかを試します。



《生田緑地田圃通信 No13-33》

2013年8月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/8/23(金) 10:00~13:30 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

モ二 1000 里地調査 2013年8月の水環境調査を行いました。

一昨日、1時間程ではありましたが、待望の雨が降りました。涸れていた水流が少しは回復したでしょうか、また、流れてきた土砂で水流が止められていたりしないでしょうかと思いながら、谷戸へ降りました。

谷戸はアブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシの大合唱に包まれていました。ヨシ原へ向かう途中、上の田圃の導水路のパイプが落葉などで詰まって水が溢れ出ていました。そこで、これを補修してから先に進みました。

次に、下の田圃の裏の草刈りを行って、田圃への導水パイプの口を塞いで、計測用樋の方に水を流しました。

田植えの後、ここには足を踏み入れていませんでしたので、オオミゾソバなどが1m以上の高さまで成長していました。これを刈って、水路の泥をあげて、水が流れ出したことを確認してから、ヨシ原に向かいました。

田圃の稲穂に藪が見られなくなっていましたので、開花期は殆んど終わったようです。

田圃雑草の結実も進んでいるようです。

K ヨシ原の池

池の中のヨシを刈ったまま泥上げができていませんでしたので水温が上がっていました。それでもアメリカザリガニは元気です。トラップには小さいものが2匹入っていました。

泥上げが必要なことは分かっているのですが、高温多湿の中では体が直ぐに悲鳴をあげてしまいます。ジョレンを用意して泥上げを始めたのですが、10回も泥をあげたところで諦めてしまいました。調査しながらできる作業ではないと納得させられました。

オオシオカラトンボが3~4匹きていました。

B 谷戸末端の階段下の水流

水の流れは7月調査時よりは増えているようですが、まだまだ勢いがありません。

近くでツクツクボウシが鳴いていました。

A 下の田圃裏の水流

6月、7月と調査を控えていたので7月との比較はできませんが非常に少ない流量でした。

ただ、流れの中のホトケドジョウは元気なようでした。H 上の田圃への導水路

この水路の堰はそろそろ作り直した方が良さそうです。計測用のバケツがセットできなくなっています。

G 湿地3段目の池

池周りの草の繁茂が著しく、鎌を振るって道を造りながら進むことになりました。

草を刈ると水面が現れました。2cm程のアメリカザリガニが数匹逃げ回っていました。



C ハンノキ林上の池

岸辺にヤブマオ類が咲いています。クサギカメムシ幼虫がいました。オオシオカラトンボが数匹集まっています。水の濁りはとれていません。

2013年8月23日 調査結果							
調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:40	11:06	29.7	29.5	18	6.8 BTB	—
B(中央水路末端)	11:07	11:18	29.5	24.0	95	7.2 BTB	0.174
A(下の田圃裏)	11:25	11:40	32.5	22.0	24	6.8 BTB	0.109
H(上の田圃への導水路)	11:55	12:05	30.5	22.0	25	7.4 BTB	0.213
G(湿地再生地の池)	12:25	12:37	29.0	25.5	60	6.9 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	13:00	13:07	29.5	25.0	25	6.9 BTB	—

生田緑地のような雨水貯留能力の小さい谷戸では降雨間隔と降雨量が湧水量に大きく影響しています。谷戸の水流の流量については、多くの方が、夏は多くて、冬は少ないと思っているようですが、現実とは逆です。これは降雨量ばかりではなく、植物が根から水分を吸収して、葉から蒸散していることも大きな要因だと思います。市街地の気温に比して、生田緑地の谷戸の中の気温が数度低いのは、この植物の活動のお蔭です。今年には特に梅雨時の降雨量が少なかったために冬期と夏期の流量の違いは顕著なものになっています。即ち、中央水路末端部(B)では、 $0.069 / 1.040 = 0.066$ (6.6%)
下の田圃裏の水流(A)では、 $0.109 / 0.758 = 0.143$ (14.3%)
上の田圃への導水路(H)では、 $0.104 / 1.050 = 0.099$ (9.9%)
これだけ夏は流量が減少してしまうので、5年ほど前から夏になると涸れてしまう流れが出ています。当然のことながら、止水域も同様です。ですから、夏は水生生物にとって過酷な季節になっています。

2013年1月～8月の流量の推移(L/sec)								
調査地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
B(中央水路末端)	0.69	1.04	1.04	0.909	0.272	1.037	0.069	0.174
A(下の田圃裏)	0.30	0.46	0.60	0.758	0.167	—	—	0.109
H(上の田圃への導水路)	0.28	1.05	0.62	0.385	0.125	0.528	0.104	0.213

カナムグラ駆除

日時 2013/8/23(金) 10:00～13:00 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田芳美

カナムグラの駆除を行いました。

また、セイタカアワダチソウも見つけたものは駆除しました。



《生田緑地田圃通信 No13-34》

2013年8月28日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

カナムグラ駆除

日時 2013/8/27(火) 10:00~14:00 晴

場所 生田緑地梅畑~下の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美

倉庫の隅にオオヒメグモがいました。卵のうも一緒です。



昨夜は相当量の降雨があったようです。長らく消えていた流れに水面ができ、その上空 20cm 程のところをオニヤンマが飛んでいました。

ハンノキ林の林床は潤いを取戻し、生き返ったように感じられます。

木道の手すりにチャバネアオカメムシがいました。



この日はカナムグラ駆除を行うことにしました。

活動した場所は下図のA~Eです。

今まで人任せでしたが、カナムグラの雄花が花粉を撒き散らし始めたこと、気持ち良い景観とは言い難い所が現れてきたことなどから、これを解決しておきたいと考えての活動です。

【E】

上の田圃の導水路は堰を越えて水が流れていました。これはパイプに詰まった落葉を取り除いて、崩れた箇所泥を積んで補修しました。

【A】

気になった場所の一つが梅畑の園路際に広がっていたカナムグラです。先ず、これを片付けることにしました。カナムグラの下の植物は大部分が枯れてしまっていたので、鎌で切り刻みながら取り除きました。カラスウリも辺りの植物を覆っていましたが、この日はカナムグラの駆除のみのつもりで活動しました。刈り取った後は、御世辞にも美しいとは言えない状態ですが、1~2週間で他の植物が繁茂して景観的にも問題ない状態になってくれると思います。

ただ、草の中から現れた竹の垣根はもう寿命のようでした。



【C】

木道を挟んで上の田圃と反対側の草地のカナムグラ駆除も行いました。

ここは、ミヤマシラスゲ、ヨシ、ギシギシ、ノブドウなどが繁茂しています。また、クサギが花盛りで、クロアゲハやナガサキアゲハが吸蜜に来ていました。

クロアゲハが吸蜜に来ました。

ナガサキアゲハが吸蜜に来ました。

オオカマキリ成虫がいました。





上の田圃の上側の草地にはミソハギが咲いています。



【B】

ここは野生化したミヨウガが広がっているのですが、採集に入る人が多く、踏み荒らされて汚らしくなっていたので、刈り取りました。

【D】

下の田圃周辺の木道沿いにはオオミゾソバやツリフネソウが生育し、これにヨシも加わって、放置しておくともヨシに覆い尽くされてしまいそうです。そこに更にカナムグラが広がってくるので3月からカナムグラの駆除を行っています。

います。

9~10月の木道わきのオオミゾソバやツリフネソウが楽しめるように、木道に接する部分は大切に管理していました。ところが、クズ、カラスウリ、コバノカモメヅル、ツルマメ、そしてカナムグラなどがヨシに絡んで成長し、ヨシが木道側に倒れかかってきてしまいました。部分的には木道に届いてしまった所も出てきました。

この対策として、オオミゾソバに接している部分のヨシを、人が通れるぐらいの幅で刈り取ってしまうことを試すことにしました。

ヨシを除去したところは穴が開いたようになっていますが開花する頃には目立たなくなっていると思います。

木道の反対側も行いたいのですが、この日はここまでにしました。

この日は湿度が低かったせいか、作業が楽に進みましたが調子になると危険です。





帰り道、階段の所に、アオオサムシを見つけました。



《生田緑地田圃通信 No13-35》

2013年8月30日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班



生田緑地の雑木林の中、イヌシデの大木の幹の地上 10m程の所に大きなスズメバチの巣があります。観察していると少しずつ大きくなっているようです。

巣を拡張しているのでしょうか、巣の表面には 20 匹程のスズメバチがいます。

私たちは 11 月までは当該林内の活動を控えるようにしています。

カナムグラ駆除

日時 2013/8/29(木) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

この日は湿地のカナムグラ駆除を行いました。

私たちが「湿地」と言っている場所は、昔は谷戸の一番奥の田圃だった所です。ところが、狩野川台風による土砂崩れで田圃が埋まってしまったそうです。当時の地主さんは水田耕作を諦めて、排水を良くして畑にしようと努力したそうですが、何処からともなく水が浸み出してきて畑にならなかったという話を聞きました。

水田ビオトープ班では、昔、ここに生育していたという植物の復活を目指して、2004年11月から湿地に再生する活動を進めてきました。9年弱の活動ですが、一度壊してしまった田圃は湿地にする事さえ困難であることを知ることとなりました。新たに田圃をつくることは資金を投じれば容易いと思いますが、シードバンクからの植物の復活は望めません。

元の地主さんの努力のお陰か、時々水が抜けてしまったり、生田緑地の湧水が不安定になっていることなどから、水辺の生物の生息環境としてはまだ安定していません。

しかし、シードバンクからは様々な植物が復活してくれました。勿論、目標とした植物は復活し、年によって盛衰はありますが、今年も開花し、結実しています。そういう場所ですが、必要以上に手を入れない管理をしてきました。管理強度が低くなると、その環境において強い植物が優占してくるようです。

カナムグラは他の植物の上を覆うように繁茂して他の植物を枯らしてしまう侵略的な植物です。実際、カナムグラの海のごとき状態になっていました。

そこで、今回のカナムグラ駆除となりました。



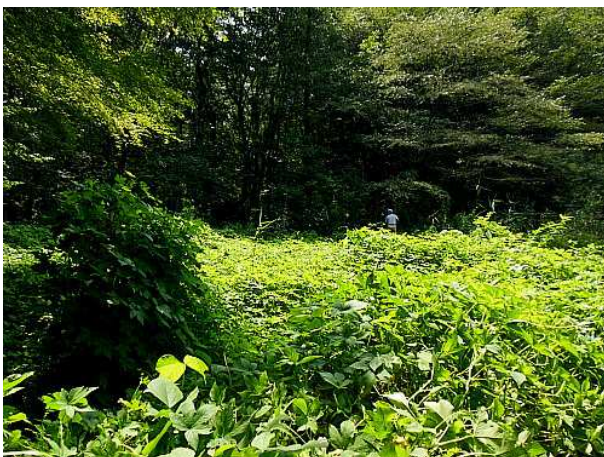
ところが、この季節、ツリフネソウ、オオミゾソバ、コバノカモメヅル、アキノウナギツカミなどがカナムグラと混在しています。ツリフネソウやオオミゾソバは、ここでは刈っても構わないと思いますが、アキノウナギツカミやコバノカモメヅルなどは、ここで大事にしてあげたいと思っています。

そのため、できるだけカナムグラだけを取り除くことにしました。このような細かい作業なので、なかなか骨が折れます。

湧水の流量が少ないためか、1段目の水の流れが途中で消えています。幸い、2段目の水は涸れていません。これも手を入れる必要があります。

また、ここのヨシも駆除してしまおうと思っています。明るい低茎湿地を目指すことにして、攪乱の強度を少し増した方が良く考えています。

暑さの中の作業ですので、1回の作業が2時間を超えないようにしています。ですから、とても1回で済む作業ではなく、更に2~3回は実施する必要があると思います。



湿地 2 段目はチゴザサが問題です。

下の田圃では再生当初は繁茂し、元の地主さんから「こいつには困らされた。これがあるので、あんたたちには水田耕作は無理だと思った。」と言われたことがありました。

しかし、毎年の田起こしによって衰えて、問題にならなくなっています。

湿地でも田起こしのような活動が繰り返り入ることで解消できるのではないかと考えていますが、一度徹底的に壊された田圃はなかなか田圃の土に戻ってくれません。9 年経って、土はいくらか柔らかくなっていますが、まだまだ時間がかかりそうです。このため、まだ当分は園芸的とも思われる活動が必要だと考えています。

この日は、いくつかの植物の状態を観察しただけです。



ツリフネソウが、まだ点々とですが、咲き始めました。アキノタムラソウやゲンノショウコ、コバノカモメヅルも開花しています。



コバノカモメヅルは、ここでは、2004 年に 1 株だけ確認され、植物班から「これは大事に」と言われていました。この日は、カナムグラと絡み合ったり、ハンノキに絡んだり、ここでは明らかに増えています。



昆虫では、谷戸を上下するナガサキアゲハ、葉から葉へ移動するダイミョウセセリやイチモンジセセリ、卍行動をするコミスジ、水辺ではシオカラトンボやオオシオカラトンボ、上空や水面近くを飛翔するオニヤンマなどが観察されました。



帰り道、園路際でサトクダマキモドキ♀やツルニンジンの花を観察しました。



《生田緑地田圃通信 No13-36》

2013年9月2日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

カナムグラ駆除

日時 2013/9/1(日) 9:50~14:00 晴

場所 生田緑地 下の田圃付近

参加者 岩田臣生

この日は下の田圃付近、木道を挟んで下の田圃の反対側の景観づくりを行いました。

園路沿いの植物を棒のようなものでたたき折って行く人がいて、ここではヨシが折られていました。そこにカナムグラが繁茂してきて、ヨシ共々木道に向かって倒れかかり、オオミゾソバやツリフネソウの上に覆い被さる形になっていました。

この辺りでは 9~10 月に木道わきに、これらの花が咲いてくれることを期待していますので、この上に覆い被さっているヨシやカナムグラを取り除くことにしました。

また、その少し奥に繁茂していたカナムグラやオオブタクサも駆除することにしました。



この日は暑く、谷戸へ降りる時に、既に 33℃でした。アブラゼミやツクツクボウシ、そして時々ミンミンゼミが混ざる蝉時雨が響いていました。

ハンノキ林上の池でクサグモ？を見つけました。浅いスーパーバッグのような形の巣を張って中央に構えています。こんな袋状の巣を張って、その中にいるクモというのは初めて見たような気がしますが、今までは気がつかなかっただけかも知れません。

木道の手すりにモモスズメ幼虫がいました。



ホテルの里に入るとツリフネソウが一定の高さで刈られている所がありました。これから咲こうとしていた蕾が採られた形です。一体何のために、このようなことをするのか理解できません。

私たちはツリフネソウやオオミゾソバが綺麗に咲いてくれることを楽しみにして活動しているのですが、こんなことも全て、私たちがやったこととして見なして苦情を言う人たちもいます。不愉快なことです。

さて、対象地に着きました。

木道の右側の茂み(右の写真)が作業対象です。

コバノカモメヅルがヨシに絡んで繁茂している部分があ



るのですが、コバノカモメヅルは花を咲かせていることもあり、残しておきたいと思います。

少し北側の部分のヨシも倒れ掛かっていました。

オオブタクサの花が咲き始めていました。

オオブタクサは、戦後、北米から輸入した飼料穀物や豆類に混ざって非意図的に入ってきた外来種です。侵略的外来種として駆除していますが、なかなか消えません。

作業範囲は南北 20m程の範囲となりました。

南端部はオオブタクサ、カナムグラと合わせて、倒れていたヨシも刈ってしまいました。ミゾソバやツリフネソウは殆んど繁茂していませんでした。

日差しが強くて、刈り取られた所は無残な状態になってしまいました。どのくらいで回復してくれるのか、気になります。

コバノカモメヅルがヨシに絡んで繁茂していた部分は、後背部に繁茂して押し掛かる状態になっていたカナムグラと倒れたヨシを刈り取りました。これによって少し軽くなったのか、コバノカモメヅルの塊は残せました。

後背部のカナムグラの茂みが消えると隠れていた水路が現れましたが、水は流れていませんでした。



気温は 37.9℃になっていました。木陰の木道上に横たわっての休憩を繰り返しながらの活動になっていました。イチモンジセセリもジッと動きません。オオシオカラトンボも物憂げです。

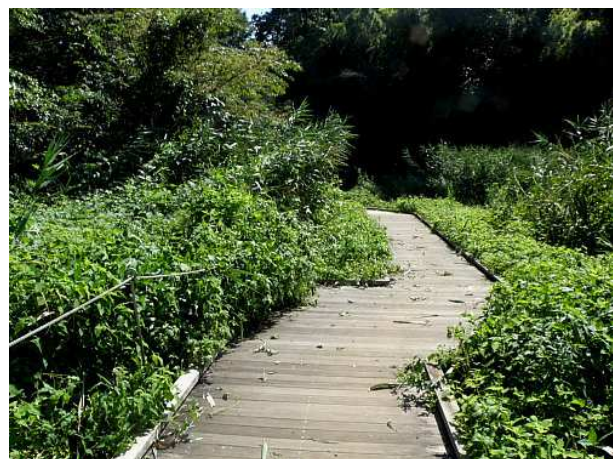


北の方は、木道の上から倒れ掛かってきていたカナムグラの絡んだヨシを伐りました。すると、下にツリフネソウが一輪咲いていました。

これだけのことで、木道わきがミゾソバやツリフネソウの場所に替わりました。

その北側は倒れたヨシの上で、カナムグラとオオミゾソバが絡み合っていました。

カナムグラを部分的に取れる範囲で取って、それ以上の手は入れないことにしました。



下の田圃の稲も稲穂が重そうです。

水筒は空になりました。気が付けば、シャツもズボンも汗でびしょりと濡れていました。

帰り道は途中 2 回も休憩してしまいました。



《生田緑地田圃通信 No13-37》

2013年9月11日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

水流の点検と補修

日時 2013/9/7(土) 13:00~15:00 曇

場所 生田緑地 稲目谷戸

参加 岩田臣生

里山倶楽部Aの活動後、谷戸の水の状態を調べておくために谷戸に降りました。

湿地への水は水路の途中で消えていました。ジョレンで手を入れて、流れるようにしました。

上の田圃への導水路は竹のパイプが土砂に埋まり、水が水路から溢れていました。これも補修しました。

上の田圃の上の段のイネが倒れていました。下の段は殆んど問題ありません。原因は不明です。また、稲縛りをしなければなりません。

ヤマトシリアゲ秋型♂がアオカラムシの葉上にいました。



残念なことに、雨によって土砂が運ばれたり、溢れたりした痕は残っていましたが、水流の流量は少しも増えていませんでした。

毛二 1000 中大型哺乳類調査定点カメラ回収

日時 2013/9/8(日) 13:00~14:00 曇

場所 生田緑地

参加 岩田臣生

8月期の哺乳類調査は8月5日に設置しましたので 34日間の調査でした。

撮影された哺乳類は次の4種でした。

タヌキ(0.5784 枚/日)、ハクビシン(0.2745 枚/日)、ネコ(0.1275 枚/日)、アナグマ(0.0098 枚/日)

撮影枚数だけで見るとタヌキの枚数が際立って多いのですが、健康な体格の大きな個体や家族連れは皆無でした。疥癬が流行して、健康なタヌキが一度消えてしまった後に、少しずつ回復しつつある途中といった状態に思

えます。

撮影頻度が高かったのは、狭い範囲で活動している体の弱い個体が当該ルートを通行しているためではないかと勝手に想像しています。

今回興味深いのは、同じ地点で、柿を銜えているタヌキが7回も撮影されたことです。

当該タヌキが来る方向に思い当たる柿の木がありません。何処から採って来たのか、興味が湧きませんか。

もう一つは、アナグマが撮影されたことです。撮影頻度が低いので、なかなか生活を想像できないのですが、健康そうな個体が撮影されました。



《生田緑地田圃通信 No13-38》

2013年9月11日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

この日は、野鳥班が定例調査を行っていました。

稲起し、カナムグラ駆除

日時 2013/9/10(火) 10:00~14:00 曇

場所 生田緑地 上の田圃、谷戸の合流付近

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三



上の田圃の導水路の補修

8日の雨によって水路のパイプがつまり、水が溢れ出していました。

活動は先ずこれを補修するところから始めました。

谷戸の合流付近のカナムグラとオオブタクサの駆除

白く光る小山がカナムグラです。一面に繁茂して雄花は

花粉を撒き散らし始めています。また、オオブタクサも咲いています。今日は、これらを駆除します。



カナムグラの茂みの中に、シュレーゲルアオガエル幼体が休んでいました。コバノカモメヅルが咲いていました。



上の田圃の上の段の倒れた稲を起こす活動

7日の活動時に稲が倒れているのを確認していました。その後、8日の夕方には、かなり強い雨が降りました。倒れた稲の上に強い雨ですから、もう猶予はありません。倒れた稲を起こして3~5株ずつ縛って倒れないようにしました。



稲に混ざって、チョウジタデやジュズダマが咲いていました。

イナゴもいました。

オオシオカラトンボがいました。

稲の根元の穴にはマッカチン(真っ赤なアメリカザリガニ)がいました。長靴を泥に取られそうになりながら、5~6匹は駆除しました。

田圃の周囲にはツルマメ、ミソハギ、そしてツリフネソウも咲き始めていました。



《生田緑地田圃通信 No13-39》

2013年9月14日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

水辺保全とカナムグラ駆除

日時 2013/9/13(金) 11:00~14:30 晴

場所 生田緑地 県の樹見本園、上の田圃、城山下谷戸の合流付近

参加者 岩田臣生、岩田芳美

県の木見本園

先日の雨によって県の木見本園東側奥の崖下の排水路に土砂が溜まり、溢れた水が園路に広がってしまいました。

この部分の排水路は生物の生息に必要な水辺として利用させて戴いていますので、泥上げをして、水が舗道に流れ出さないようにしました。

排水路わきに上げた泥の中からトンボのヤゴが2匹も出てきました。

梅畑下

梅畑下の木道の上には柿の実がいくつも落ちています。今年から生田緑地の管理を担当することになった指定管理者は気になったようで、柿の木を剪定して、実が落ちないようにしたいという相談がありましたが、生き物のために放置してほしいとお願いしました。

この落ちた柿の実の一部をかみ切って、運べるように格闘しているオオスズメバチがいました。

上の田圃

上の田圃の下の段の木道側に水がありませんでした。堰の直ぐ脇に大きな穴が開いていたので、これを塞ぎましたが、木道側を見て、驚きました。

タヌキの足跡がありました。それも何かと格闘したような足跡です。想像ですが、アメリカザリガニを捕まえて食べてくれたのだと思います。





斜面下の水流

上の田圃付近の水流を倒木が止めていて、そこに土砂が溜まり、水が溢れ出していました。溢れていた辺りの泥をジョレンで水辺にあげて、水溜りをつくりながらも流れるように手を入れました。



上の田圃下の草地

今まで目立たなかったツリフネソウの花が広がり始めて、存在を主張しています。そんな草地の端の方のカナムグラを駆除しました。



城山下谷戸合流付近

城山下谷戸の水流は今夏、殆んど水面を見せてくれませんでした。この日は水がありました。一面に広がったカナムグラの海を少しずつ狭めて、2011年12月に造った池と水路を見つけ出し、溜まっていた土砂を掘り取って、そこに水を引き込みました。この辺りはオオブタクサの林とカナムグラの海が毎年現れるのですが、今年はオオブタクサの林は出現していません。駆除活動の効果が出てきたようです。カナムグラの海は半分ぐらいは取り去ることができました。水はゆっくりと流れ込み始めました。湿地に戻るのには時間がかかりそうです。



下の田圃付近のツリフネソウも間もなく見頃を迎えます。



《生田緑地田圃通信 No13-40》

2013年9月18日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の生物の生息環境を再生・保全する活動

9月16日(月)に台風18号が愛知県に上陸し、長野県、栃木県を通して北上しました。川崎では風雨共に、それ程強くは無かったように感じましたが、水流が土砂で流れを変えることは日常のことなので、点検して、必要な手を入れておこうと思い、生田緑地に出かけました。

谷戸に降りる準備をしていたら、指定管理者の方から、木道の上に落葉があるので掃除したいという相談もいただきました。これは現状を確認してから話し合うことにしました。

谷戸へ降りる木階段や木道の上には細かい落枝が散乱していました。特に、上の方では多く、初めて生田緑地の管理を担当することになった立場では気になったのだらうと思います。

水辺保全、下の田圃の稲起し

日時 2013/9/17(火) 10:00~14:00 晴

場所 生田緑地 稲目谷戸

参加者 岩田臣生

湿地

水流の流量は少し増えたように思いました。水路の途中で、毎回、穴を開けて水が消えてしまう地点は、前回の

補修から間もないためか、無事に流れていました。所々に落葉の溜まりができていましたが、それらを取り除きながら流れを確認しました。

竹林側から導いた水流も半分程度は 2 段目に流れ込んでくれているようです。流れが運んできた土砂はかなり溜まっていたのですが、これを掘り上げるのは後日にしました。

ヤブカラシの花にアオスジアゲハが来ていました。

オニヤンマが何かを夢中で追いかけているように飛び回っていました。

2 段目の水辺にはオオシオカラトンボ♂数匹が陣取っていました。

3 段目の池にも水が入っていることを確認しました。

雨に洗われているものの獣糞と思われる塊がありました。柿の種が多く見られます。タヌキでしょうか。



上の田圃への水路

ここは予想通り、水が溢れていました。

パイプの出口側に土砂が堆積していました。ミヤマシラスゲを刈り取って、ジョレンで土砂を掬い上げると、水が噴き出してきました。

それから入口側の水路沿いのミヤマシラスゲやヨシを刈り、泥上げを行い、堰の上側も補修しました。地面に枝先をつけていた木の枝は、竹の支柱を立てました。ここの流量は増えていて、溢れはしないものの水位は下がる気配がありません。木道下のパイプを太くした方が良さそうです。



谷戸末端の水路

谷戸末端の水路の計測調査用堰のところには草が溜まって、大量の水が溢れ出していました。

流れを止めていた草を取り除き、溜まっていた土砂を掬い上げました。この土砂にはカワニナが幾つも見られましたので、上から流されてきたものかも知れません。

下の田圃の稲起し

下の田圃のイネも今回は半分以上が倒れてしまいました。そこで稲起しを行いました。

長靴は役に立たないので裸足になって田圃に入りました。コナギが青い花を咲かせています。

オオシオカラトンボが飛んできて、直ぐ側に止まりました。



上の田圃の稲起し

日時 2013/9/17(火) 10:00~14:00 晴
場所 生田緑地 上の田圃の下の段
参加者 岩田芳美

上の田圃の下の段の稲起しを行いました。
チョウジタデ、コナギなどの除草もしながらの稲起し
でした。

ここの田圃雑草は田圃全面に広がり、稲を押しやる勢い
です。少し駆除をしておかないと稲刈りが大変と思
い除草作業に力を入れた為に時間がかかり、作業は捗りません。それでも、水につかった稲だけは起こし終わりました。稲の株と株の間ではコナギが満開。カヤツリグサ科の植物も5~6種程確認しました。
ウドの花にスズメバチが来ていました。



カナムグラ駆除

日時 2013/9/17(火) 11:00~12:00 晴
場所 生田緑地 谷戸の合流付近
参加者 鈴木潤三

カナムグラの駆除を行いました。今日は木道に近い場所の取り残していたカナムグラを中心に駆除を行いました。

た。カナムグラの下にはミゾソバが生き残っています。
ツリフネソウの花が目立つようになりました。



《生田緑地田圃通信 No13-41》

2013年9月19日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

稲起し

日時 2013/9/18(水) 10:30~13:30 晴

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生

9月10日に稲起しをした上の田圃の上の段の再度の稲起しを行いました。

また、堰を外して、水を落しました。

畦の草刈りも簡単に済ませました。ユウガギクが所々に咲いていて、鎌を振るう手が止まります。

オオシオカラトンボに混ざってアキアカネも見られました。

咲き出したツリフネソウの花にホウジャクやクマバチが吸蜜に忙しそうでした。

畦にはイボクサが花を咲かせていました。





カナムグラ駆除

日時 2013/9/18(水) 12:30～13:30 晴

場所 生田緑地 上の田圃下の草地

参加者 岩田芳美

上の田圃下の草地のカナムグラ駆除の続きを行いました。



《生田緑地田圃通信 No13-42》

2013年9月29日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

川崎の水辺調査

特定非営利活動法人かわさき自然調査団では今年度、水辺調査班を設けました。

市内の身近な水流は防災目的もあり、三面張の深い水路でフェンスで囲まれていることが多く、そんな場所の調査はなかなか困難なため、調査され難い場所になっています。

水辺調査班は、そのような場所を含めて、できるだけ広い範囲の水流を調べていこうと考えています。

2～3年、集中的に活動して、調査結果は既存の班に渡し、解散する予定です。

水辺調査班の事務は水田ビオトープ班と同じメンバーが担当しますので、今回の田圃通信で紹介させて戴くことにしました。

もし、皆さんの身近な所で、水流の中に水草が見えたら、ご一報戴ければ幸いです。

宜しく、お願いします。



水辺調査 01

日時 2013/9/20(金) 11:00～13:00 晴

場所 多摩川水系二ヶ領用水 (多摩区登戸)

参加者 水辺調査班(岩田芳美)

今年度発足させた水辺調査班は他の班の調査を補足するために、身近な水辺を調査することにしました。今回が、その第1回の調査です。

二ヶ領用水も今では市街地の中の三面張りの排水路になっていますが、それでも多摩川からの水が流れていることから生物が生息しているようです。

この日は、3種類の藻類、エビの仲間、タイワンシジミ(要注意外来生物)などが観察されました。

この藻類のうち1種はオオカナダモという外来種でした。

水辺調査 02

日時 2013/9/21(土) 11:00~13:00 晴

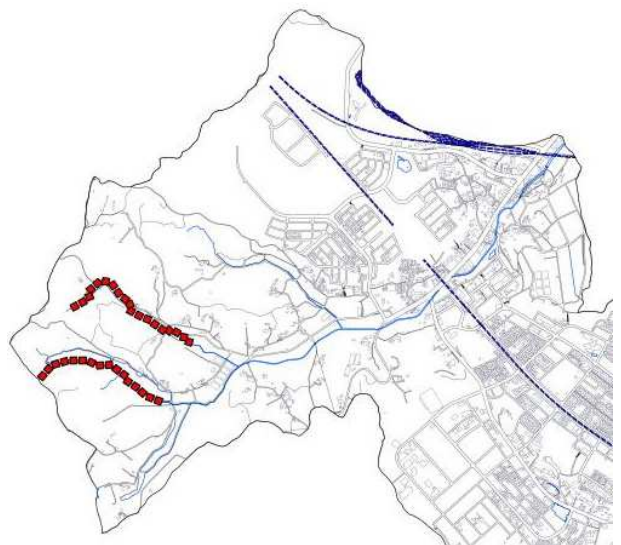
場所 鶴見川水系有馬川 (宮前区有馬、東有馬)

参加者 水辺調査班(岩田臣生、岩田芳美)

水辺調査の第2回目です。

国道246号線から川沿いに観察しながら歩きましたが、水草は見つかりませんでした。

ただ、岸辺でマメアサガオ(外来種)を見つけました。



水辺調査 03

日時 2013/9/23(月) 10:30~14:00 曇

場所 多摩川水系三沢川源流(麻生区黒川)

参加者 岩田臣生、岩田芳美

久しぶりに黒川の水辺を調査することにしました。

今回調査した水辺は下図の2つの水流です。2004年のホトケドジョウ調査の時と比べながら、一部分のみですが、モニタリングしました。

田圃の稲刈りが始まったようで、既に刈り終わった田圃も見られました。しかし、畑に転用された田圃もあり、植生の変化が進んでいるように感じました。

当該部分の水流は全て三面張り護岸で、水深は浅く1~5cmでした。浅くて単調な流れではありますが、カワニ

ナは相当数見られました。



殆んど全ての水流にカワニナとホトケドジョウがいました。そして、所々にドジョウやトンボのヤゴがいました。また、サワガニ数匹、モクズガニ 1 匹を目撃しました。水辺ではニホンアカガエルを、また道路を横断するイタチを目撃しました。





植物では、オモダカ、イボクサ、タカサブロウなどが田圃のイネの根元に咲いていました。



谷戸の奥で、ホトケドジョウと遊んでいる兄妹がいました。トンボのヤゴがいたと言って持って来ました。オニヤンマのヤゴでした。



水辺調査 04

日時 2013/9/23(月) 16:00~16:30 曇

場所 鶴見川水系矢上川(宮前区宮崎1丁目)

参加者 岩田臣生、岩田芳美

自宅から駅へ向かう途中、下水路のような水流を渡るのですが、流れの中に藻が生えていたのを思い出して、調べることになりました。少し汚いという印象があるのとフェンスを乗り越えることが怖いと感じましたが、思い切って入ってみました。



採集できたのは藻1種のみでしたが、市街地の中の排水路にも藻が残っていることを確認しました。



《生田緑地田圃通信 No13-43》

2013年9月29日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/9/24(火) 12:30~15:00 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生



モ二 1000 里地調査 2013年9月の水環境調査を行いました。自然会議終了後の昼からの活動です。

木道の手すりで、ハラビロカマキリを食べているオオカマキリに出会いました。

下の田圃へのパイプを止めて計測樋に水が流れるよう

にしてからヨシ原に向かいました。

K ヨシ原の池

小さなアメリカザリガニが元気に動いていました。

アキアカネ♂1♀2 がきていました。

B 谷戸末端の階段下の水流



H 上の田圃への導水路

G 湿地3段目の池

小さなアメリカザリガニが増えていました。

C ハンノキ林上の池

数分でしたが、小雨が降りました。



2013年1月～9月の流量の推移 (L/sec)									
調査地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
B(中央水路末端)	0.69	1.04	1.04	0.909	0.272	1.037	0.069	0.174	0.198
A(下の田圃裏)	0.30	0.46	0.60	0.758	0.167	—	—	0.109	0.455
H(上の田圃への導水路)	0.28	1.05	0.62	0.385	0.125	0.528	0.104	0.213	0.285

2013年9月24日 調査結果							
調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	13:00	13:16	26.0	27.0	10	7.0 BTB	—
B(中央水路末端)	13:18	13:28	26.0	20.3	100	7.0 BTB	0.198
A(下の田圃裏)	13:32	13:45	27.0	20.0	100	6.5 BTB	0.455
H(上の田圃への導水路)	13:50	14:01	25.5	20.0	25	7.2 BTB	0.285
G(湿地再生地の池)	14:10	14:19	25.4	25.5	26	6.8 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	14:25	14:34	23.0	20.0	60	6.6 BTB	—

田圃の畦の草刈り

日時 2013/9/24(火) 12:30～15:00 曇

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田芳美

上の田圃の下の段の畦の草刈りを行いました。



《生田緑地田圃通信 No13-44》

2013年10月1日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

連携調査

日時 2013/9/27(金) 9:50~13:00 晴

場所 川崎区大師河原 (大師河原水辺の楽校)

参加者 大師河原水辺の楽校(佐川麻里子)、岩田臣生、
岩田芳美、佐藤登喜子

大師河原連携調査の第2回目です。

大師河原水辺の楽校の事務局をされている佐川麻里子
さんが、今回も、ご同行了きました。

NPO法人多摩川干潟ネットワークの小泉茂理事長にお会いしました。

普段見慣れていても名前は知らなかったという植物は遠慮なく質問していただくようになっています。



ノチドメが広がっていました。セリ科の多年草です。



アイアシの花が残っていました。ヨシとの違いも明らかです。



イヌビエの変種のケイヌビエという1年草がありました。見慣れたイヌビエが無精ひげを生やしたように見えます。

前回は嵐の中での調査でしたが、今回は快晴の清々しい天気恵まれて、気持ちの良い調査となりました。

ツクムシがいました。

シオカラトンボ♂がいました。見慣れたシオカラトンボとは違うような、塩を吹いているような感じがします。

タマスダレというヒガンバナ科、明治初期に園芸用に輸入された南米ペルー原産の外来植物が花を咲かせていました。





歩く先々でトノサマバッタが飛び立ちました。中にはペアもいました。

小さな干潟はカニ類の生息場所です。土手から水際までの間を種類によって棲み分けをしているそうです。ここは佐川さんから教えを受けました。

チゴガニ、コメツキガニ、クロベンケイガニ、アシハラガニなど干潟の生き物は魅力的です。

1995年以降、川崎市内のカニ類の記録が報告されていません。NPO法人多摩川干潟ネットワークが大師河原で

調査しておられるので、川崎の生物目録編集については、協働として編集に参加して戴きたいと思います。



トウオオバコがありました。花茎が佐川さんの手の高さまで伸びています。

これは海岸部でのみ見られる植物です。

高水位時に水に浸かり、水位が下がった時にできた水溜りにも、アベハゼ、カニ類、ハイイロゲンゴロウなど、様々な生物が見られました。



無数のアキアカネが飛んでいました。ギンヤンマもいました。

川岸に 1 本あるハマボウに実ができていました。



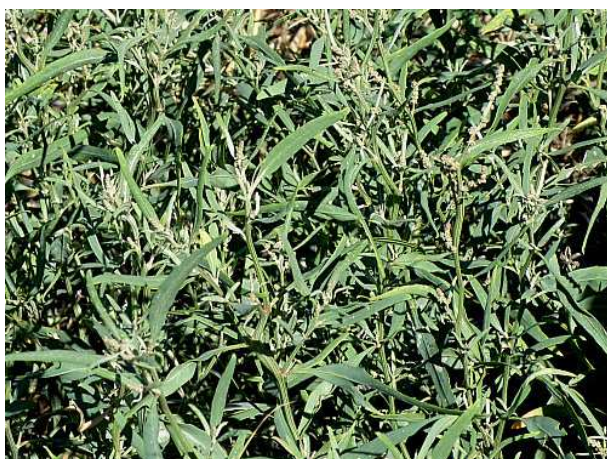
ハマボウは神奈川県以西の本州、四国、九州の海岸に生育する植物で、神植誌 2001 には「県内では三浦半島の天神島が唯一の自生地で、日本列島の分布の北限となっていて、ハマユウとともに神奈川県指定の天然記念物に指定されている。」とあります。当該地のハマボウが自生として認められれば、川崎が北限になります。そういう樹木が大師河原にはありません。

ヒナバッタがいました。



ホソバハマアカザがありました。

神植誌 2001 によると「県内では多摩川河口、三浦半島の塩湿地に見られる。」とあります。



この他、今回の調査では アキノミチヤナギという植物も採集しました。

これは神植誌 2001 によると「県内では東京湾沿岸、三浦半島、相模川河口、真鶴に見られるが、自然海岸の消失により減少が著しい。」とあります。



《生田緑地田圃通信 No13-45》

2013年10月2日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

連携調査

日時 2013/9/27(金) 14:00～15:30 晴

場所 さいわい夢ひろば

参加者 さいわい夢ひろば(江崎佳章)、岩田臣生、
岩田芳美、佐藤登喜子

さいわい夢ひろば植物調査の第2回目です。私たちの調査のために草刈をしないで待っていたと聞いて、大師河原の帰りに寄りました。現地には、さいわい夢ひろば友の会の江崎さんが来てくれました。



まず相談のあった植物から調べましたが、ヤブツルアズキでした。実をつけているものもありました。ヤブツルアズキはマメ科ササゲ属の1年草です。「県内では県央、湘南、三浦などに分布するが少ない。母種は栽培されるアズキで、その野生化したものとも、アズキが本種を栽培化したものともいわれる。」と神植誌 2001にはあります。

市内の記録は麻生区と中原区のみで、幸区は初記録です。

一緒に広場を歩いて調査しました。

ここは市街地の中で、目新しい植物は無いだらうと思っていましたが、幸区の標本が少なくなくて抜けていたものが多いことが分かり、殆んど、手当たり次第に採集することとなりました。どうせ草刈りをするのだからと言われたので、甘えさせていただきました。



ここでも、オオニシキソウが咲いていました。

オオニシキソウはトウダイグサ科の1年草で、1904年頃に帰化した北米原産の帰化植物です。

「県内では市街地から郊外にかけて普通に見られる。」と神植誌 2001にあります。実際、先日の黒川調査でも見られました。



ナヨクサフジがあちこちに咲いていました。
 ナヨクサフジはマメ科ソラマメ属の1年草で、ヨーロッパ原産の帰化植物です。
 ウスバキトンボが珍しくススキに止まって休んでいました。アキアカネも飛んでいました。最も普通に見られるアカトンボです。



カヤツリグサ科のハマスゲが沢山見られました。
 イチゴツナギ科のネズミノオも、この程度だと良い感じの草地に思えます。

背景に高層ビルが見えます。新川崎の土地柄です。カゼクサが群落をつくっている場所もありました。



アレチヌスビトハギが点々と広がっていて、江崎さんは抜きながらの調査となりました。

アレチヌスビトハギは北米原産の帰化植物で、草刈をしても太い地下茎から直ぐに芽を出します。小さくても、しっかり実をつけていました。実はひっつき虫となって分布を広げます。侵略的外来生物の一つだと思っています。



急な活動だったにも関わらず、お茶を用意してくれていましたので、一服してから帰りました。



《生田緑地田圃通信 No13-46》

2013年10月2日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

連携調査

日時 2013/9/30(月) 10:00~12:00 晴

場所 多摩川 とどろき水辺の楽校

参加者 とどろき水辺の楽校(鈴木眞智子)、岩田臣生、岩田芳美、佐藤登喜子、吉田多美枝、吉留恵子

多摩川中流域のとどろき水辺の楽校のフィールドは初めての調査です。NPO法人とどろき水辺 理事・事務局の鈴木眞智子さんが同行してくれました。また、天候にも恵まれました。



植物調査は川崎市植物誌のためには市内7区毎の調査になりますので同じ植物でも区が異なれば採集します。これが神奈川県植物誌のためとなると、環境省の基準地域メッシュ(3次メッシュ)毎にデータを採ることになりますので、川崎市全域では198メッシュについての標本採集が必要になります。つまり、全域に分布している植物は198個体の標本をつくることになります。地道で膨大な作業を続けなければなりません。このため、カナムグラの採集までも行っていました。



水辺にはアジイトンボがいました。アキアカネも飛んでいました。水中にはカマツカ、ハゼ類などの魚類数種、スジエビ、ヌマエビ類など数種、藻3種などを観察しました。



トノサマバッタが歩く先々から飛び立ちました。クビキリギスがいました。





キクイモが聳えていました。キクイモは北アメリカ北～北東部を原産地とするキク科の植物で、江戸時代末期に飼料用作物として輸入したものが野生化したものです。要注意外来生物に指定されています。



キアゲハがいました。ユウガギクが咲いていました。



《生田緑地田圃通信 No13-47》

2013年10月4日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

オダ部分の草刈り

日時 2013/10/1(火) 12:00~13:30 曇後小雨

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生

田圃へ向かう木道の手すりにササキリ♀がいました。キリギリス科ササキリ亜科に分類されています。林縁のササなど、イネ科植物で生活していて、生田緑地の谷戸では普通に見られます。成虫も緑と黒のコントラストが鮮やかで魅力的ですが、幼虫は黒とオレンジ色の独特の色彩で魅力的です。【ササキリは.....】



昨年使用したまま立てっ放しだったオダを今年も使おうと思っていますが、オギやヨシ、ヤマグワなどが繁茂していますので、これだけは刈り取っておくことにしました。

勿論、稲刈りまでに活動できれば、もう少し広い範囲のヤマグワやヨシの刈り取り、そして3枚の田圃の畦の草刈りを行いたいと考えています。

今回は午前中に生田緑地に来る用事があり、その用事が済んでからも未だ雨が降っていませんでしたので、降り出すまでの間の作業です。



うのですが、作業の支障にはならないだろうとの判断です。

作業を始めると、木道側は気にならなかったのですが、今を盛りと咲いているツリフネソウまで刈ることが躊躇われ、できるだけ残すことにしました。

刈り取った稲をオダにかける時に踏み潰してしまうとは思





《生田緑地田圃通信 No13-48》

2013年10月4日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

田圃周囲の草刈りなど

日時 2013/10/3(木) 10:00～13:00 晴

場所 生田緑地 田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三



オニヤンマが田圃の周りを低く飛んでいました。
梅畑のコブナグサが咲き始めていました。

オダ場～梅畑下

オダ場から梅畑下までの範囲はヤマグワやヨシの除伐を行いました。



上の田圃

上の田圃の畦の草刈りをしました。

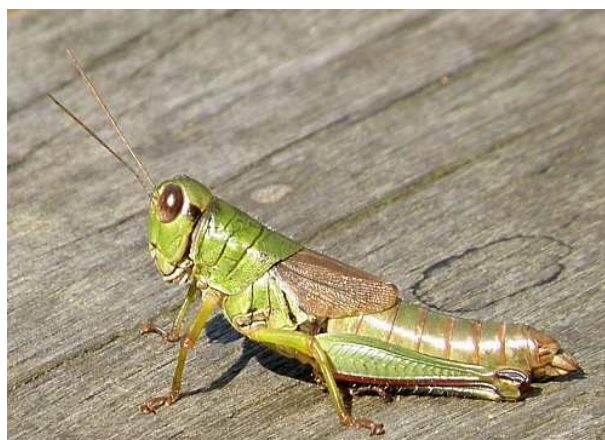


下の田圃

田圃の近くにフキバッタがいました。

下の田圃の畦の草刈りを行いました。

下の田圃周辺はツリフネソウやオオミゾソバが咲いています。



種籾採取

日時 2013/10/3(木) 13:00~14:00 晴

場所 生田緑地 田圃

参加者 岩田臣生

種籾を採取しました。今回は 130 本採りました。
田圃の畦にアカバナが残されて、咲いていました。



カマキリ、イナゴ、クビキリギス、ヒメカメノコテントウ、稲穂には様々な昆虫がいました。そんな昆虫を狙っているのか、オオスズメバチが近くに来ていて離れようとしません。流石に、目の前に来られると怖くて身動きができませんでした。

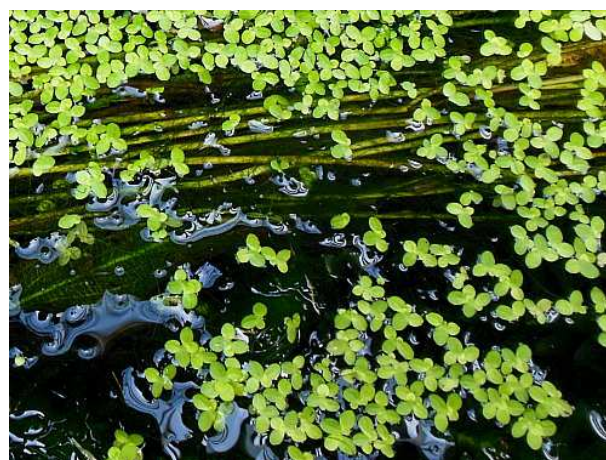


水辺調査(ボントクタデ採集)

日時 2013/10/3(木) 13:00~14:00 晴

場所 生田緑地 二ヶ領用水(多摩区登戸)

参加者 岩田芳美



植物班に頼まれたボントクタデを採集に行きました。
流れにはヒナウキクサが広がっていました。



《生田緑地田圃通信 No13-49》

2013年10月10日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

倒れたオダの立て直し

日時 2013/10/7(月) 11:00~13:00 晴

場所 生田緑地 上の田圃

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

鈴木さんから「今朝、生田緑地に行った際、オダにつるした稲が全て落下、倒壊しているのを見ました。」というメールを頂戴し、急遽、生田緑地に向かいました。

オダは、昨日、新たに竹を伐って、追加した部分を残して潰れていました。



潰れた原因を調べずに組み立てても、また潰れることになると思います。

オダは倒れたのではなく、真下に潰れていました。

原因はオダの横の竿が稲の重さで撓み、支柱を押し倒しかけたところで外れて、真下に落ちたものと推察しました。

そこで、竿のかけしろを増やし、更に竿の途中の支柱を増やしました。竿の細い方が撓まないようにと考えました。



オダの立て直しが完了しました。

稲は1日で大分軽くなっていました。

ハラビロカマキリが目立つ季節になりました。



《生田緑地田圃通信 No13-50》

2013年10月10日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ヤツデ、アズマネザサなどの除伐

日時 2013/10/8(火) 13:30~14:30 晴

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生、野鳥班(上原、大森、佐野、下條、瀧、中村、平賀、水田、森)

野鳥班が科学館裏谷戸のアズマネザサやヤツデを除伐したいというので一緒に作業することを決めていました。ただ、諸事情から10月8日まで待ってもらっていました。

そしたら、誰かは不明ですが、湿地に入って、ヤツデなどを伐ったり、水流に止まり木を立てたり、勝手な管理がされてしまいました。

野鳥班はカンカンですが、マナーの悪い野鳥ファンの仕業のようです。最近、生田緑地の来園者が増えています

が、マナーの悪い来園者も増えているようです。
 このように園路から林内に柵を乗り越えて入る野鳥ファンは野鳥を撮影することしか考えていません。現地は、湿地のシラコスゲが踏み荒らされていました。
 数年前に、北部公園事務所が柵をつくってくれた時に立ててくれた立入禁止の看板は消えていました。誰かが抜き取ったのでしょうか。マナーの悪いバードウォッチャーは非常に悪質です。



野鳥班からこの報せが入った時に、直ちに立入禁止看板の設置を要請したので、看板は立てられていましたが、この湿地についての認識が無いために適切な看板になっていませんでした。

この湿地には氷河期の生き残りと言われている生物が生息しています。これの保護を第一優先で考えてほしいと思います。



唐箕の組み立て

日時 2013/10/8(火) 12:30~13:15、14:40~15:30

曇

場所 生田緑地 生田緑地整備事務所裏の倉庫

参加者 岩田臣生

田圃活動を始めて9年目にして、やっと唐箕を購入しました。

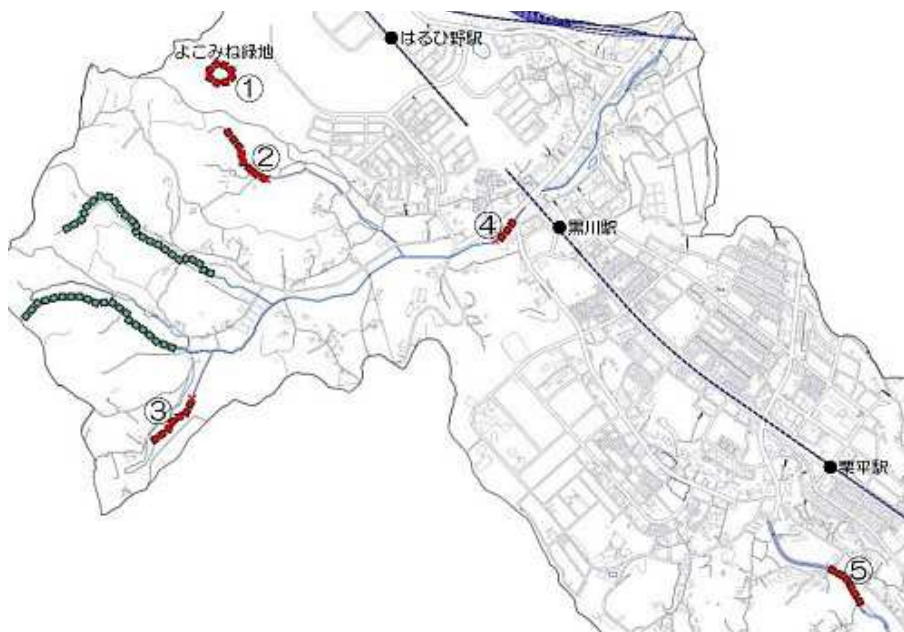
14日の脱穀のために、これを組み立てました。ただ、説明書は展開図が示してあるだけだったので、何度もやり直すことになり、時間がかかりました。



《生田緑地田圃通信 No13-51》

2013年10月13日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

川崎の水辺調査



水辺調査 ①

日時 2013/10/11(金) 10:00~12:00 晴

場所 多摩川水系三沢川源流 (麻生区黒川よこみね緑地) 上記地図①

参加者 岩田臣生、岩田芳美、佐藤登喜子、吉留憲子、水辺のある里山を守る会(織野 章、窪田迅郎)

黒川よこみね緑地の湿地ははるひ野の住宅地の西端にあります。はるひ野開発のための環境アセスメントで問題になった生物を保護した場所です。開発の過程では公団によって手厚く保護管理がされていました。住宅地が開発され、土地が川崎市の所有となり、その後の保全のために「水辺のある里山を守る会」が組織されました。私たちは当該地区の保安全管理のためのモニタリングを行うわけではありません。第8次川崎市自然環境調査の活動としての調査を、楽しいボランティア活動として進めているだけです。

植物班は川崎市植物誌、神奈川県植物誌という目標が目の前にあるため、採集調査に熱が入っていますが、水田ビオトープ班の2人にとっては水辺の状態を調べているという段階です。

調査に入りたいということ、織野会長にお願いして了解をえていましたが、そのために同会の窪田さんが来てくれていました。

そこで、挨拶をすませてから、直ぐに調査を始めさせていただきました。

植物班の2人は湿地や周囲の樹林の植物を調べました。





水田ビオトープ班の二人は水の中を調べていきました。



天候に恵まれて、コノシメトンボやマユタテアカネが多数見られました。シオカラトンボは翅がすっかり傷んだものが数匹見られました。

イナゴ類、ヒシバツタ類、イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモン、イナゴを捕えたばかりのナガコガネグモなどが見られました。

水際にはニホンアカガエル、アメンボ類、水中にはカワニナ、マルタニシ、サカマキガイ、メダカ、ヌマエビ類、ヤゴ数種、センブリ類幼虫、マツモムシなどが見られました。

コノシメトンボが産卵している景色を見ていると調査をしていることを忘れて見とれてしまいます。





この日の調査を終えたところに、水辺のある里山を守る会の織野会長が見えましたので、一緒に記念写真を撮りました。



帰り道、道路に近い所にヒナバッタがいました。

水辺調査 ②

日時 2013/10/11(金) 12:30~13:15 晴
場所 多摩川水系三沢川源流 上記地図②
参加者 岩田臣生、岩田芳美

この10年で水田が畑に転用されるなど、黒川の景観は大きく変化しています。

水路に溢れていたホトケドジョウはすっかり少なくなっていますが、辛うじて生き残ってはいます。

谷戸の奥の湿地は保全緑地となって、草地に変わろうとしています。水流は泥上げをした程度に保全されていました。

水流には、オニヤンマのヤゴ、サナエトンボ科のヤゴ、ホトケドジョウが見られました。

黒川の谷戸の水辺でも、セイタカアワダチソウ、ハタケニラ、ツルマンネングサなどの帰化植物が普通に見られます。



水辺調査 ③

日時 2013/10/11(金) 13:20~13:50 晴

場所 多摩川水系三沢川源流 上記地図③

参加者 岩田臣生、岩田芳美

三面張りの水路は掃除が行き届いてしまっていて、生物が隠れる場所が見当たりません。

それでも、ちょっとした凹みなどに、ホトケドジョウやドジョウは見つかりました。



水辺調査 ④

日時 2013/10/11(金) 14:00~14:10 晴

場所 多摩川水系三沢川源流 上記地図④

参加者 岩田臣生、岩田芳美

少し下流はどうかということで、地点④辺りを調べましたが、確認できた水草はオオカナダモのみでした。岸から見た時に藻のように見えるのはサヤミドロ属のようでした。



水辺調査 ⑤

日時 2013/10/11(金) 14:25~14:35 晴

場所 鶴見川水系片平川 上記地図⑤

参加者 岩田臣生、岩田芳美

片平川は改修時期が新しいこともあり、三面張りの護岸の表面には何もありません。

吾妻橋の下流は護岸に植物が繁茂していましたが、水流部に水草がある様子はなく、今回は状態確認のみにしました。カルガモが2羽、見られました。



《生田緑地田圃通信 No13-52》

2013年10月15日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ヤマグワ等の除伐、ススキ、カナムグラ等の刈り取り、水流の管理

日時 2013/10/12(土) 10:30~14:00 晴

場所 生田緑地 湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

湿地の手入れを始めることにしました。しかし、真夏の陽気に作業は捗りません。

水路の流れが途中で消えていました。

ジョレンを持って来なかったのが、足で踏んで、穴を塞ぎました。今年は、改めて、全流程を改修する必要がありそうです。

ツゲ、ヤマグワ、ウツギ、ヤマザクラ、モミジなど畦に生えていた実生を伐りながら、下草を刈りましたが、10m程の範囲しかできませんでした。ススキの下にはアザミやゲンノショウコが咲いていました。



カントウヨメナが咲いていました。

これでもノハラアザミでしょうか。毎年刈らずに置いておいたら、こんなに大きな株になってしまいました。



水路の穴を塞いだだけでは水は流れてくれませんでした。そこで、水路を踏みながら辿って行きました。それでも、1枚目の途中まで導くのがやっとでした。



シロヨメナが咲き始めていました。



《生田緑地田圃通信 No13-53》

2013年10月22日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

降雨後の水辺管理

日時 2013/10/21(月) 10:00~12:30 曇

場所 生田緑地 湿地、田圃

参加者 岩田臣生、鈴木潤三

谷戸の田圃の稲刈りが終わり、10月20日の生田緑地観察会「里山の自然」は雨のために中止となりました。漸く、本格的に水辺の保全活動を始められる季節になりました。

谷戸へ降りると、水流の勢いは増していて、ハンノキ林上の池の水は澄み、林床にも水たまりができていました。

まず、湿地～上の田圃～下の田圃の状態を確認し、この日の作業内容を決めることにしました。

湿地には水が流れていて、急がなければならない活動は無さそうでした。

上の田圃への導水路は水路途中のミヤマシラスゲや堆積した泥のために流れが悪くなっていて、そのために木



道の手前で水が溢れていました。それなのに、田圃には水が滲えられていませんでした。

下の田圃裏の水流は勢いよく流れていましたが、下の田圃には余り入ってきていません。田圃の中に土砂が堆積して流れが悪くなっているため水が入り難くなっていると判断しました。また、田圃からの排水は、新しい排水路ではなく、元の排水路などから隣地に抜けているようでした。

そこで、この日の作業は先ず下の田圃に水を滲えるための作業から始めることにしました。

即ち、田圃から抜けている水を止めること、田圃内に入ったところに溜まった土砂を掬って、水流から水を入れることです。



次に上の田圃に水を滲えるための活動を行いました。

即ち、①田圃の上側の水路を覆っているミヤマシラスゲなどを刈り取って、水路に溜まっていた泥を掬い上げて水が流れ易くすること、②田圃の水漏れ箇所を補修し、堰を積み直して、水が溜まるようにすること、③沢からの導水路の流れをよくすることなどです。





③

これらの作業を終えたところで休憩しました。



下の田圃の水の状態を見に行きました。水は湛えられていました。

上の田圃にも水が溜まり始めました。この日の活動は、このぐらいでいいでしょう。



アズマネザサ刈り

日時 2013/10/21(月) 10:00~12:00 曇

場所 生田緑地 ハンノキ林

参加者 岩田芳美

ハンノキ林南地区の林床のヤクシソウなどの保護のためにアズマネザサを刈り、セイタカアワダチソウを駆除しました。



カナムグラ、ヤマグワなどの駆除

日時 2013/10/21(月) 12:30~13:00 曇

場所 生田緑地 湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

入団希望者と活動説明の約束をしていたため、作業をしながら待つことにしました。

湿地のヤマグワ除伐なども行いました。

草陰にアズマヒキガエルがいました。



《生田緑地田圃通信 No13-54》

2013年10月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/10/23(水) 11:00~13:30 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

20日の雨の影響が残っているのは承知していましたが24日から雨になって台風27号が来るとの天気予報が出されていたため、この日にモ二 1000 里地調査 2013年10月の水環境調査を行いました。

谷戸に降りて、上の田圃の導水路、下の田圃裏の水流を調査可能なように手をいれてから、ヨシ原に向かいました。下の田圃上のヨシの茂みに数十羽のスズメがいて、後から後から飛び立っていく光景には驚かされました。これだけの数のスズメをここで見たのは初めてでした。稲が実っている時には現れなかったのに、今頃どうしたのかと不思議に感じました。

K ヨシ原の池

泥が溜まって、水深は浅くなっていました。水面には油膜のようなものが広がっていました。



B 谷戸末端の階段下の水流

水路の護岸の材が腐っていて、危なく水路の中に落ちそうになりました。岸の土も柔らかくなり、水路に抜け出てもいるようで、危険な状態になっています。間もなく当該施設は整備後10年になりますから、少なくとも、下水に入る直前部分については手を入れる必要があると思います。



A 下の田圃裏の水流

下の田圃は水が滲えられ、水は排水堰から水路に流れ出ているようです。

下の田圃裏の水流は隣地部分の流れが悪くなっている、計測位置での落差が確保されていません。近々、隣地部分についても水路の保全管理を行う必要があります。

H 上の田圃への導水路

水流の流量が多いため、ここも計測地点の落差が確保されていません。堰を改修しなければなりません。上の田圃の下の段の水が漏れていて、水が排水堰を越えていません。

畦に穴が開いていて、そこに水が流れ込んでいました。

これを補修して漏水は止めたつもりですが、その後の水位上昇は確認していません。

G 湿地3段目の池

小さなアメリカザリガニが多数いました。

2段目の水の流れ方がおかしくなっています。今年は、湿地全域の思い切った手入れが必要だと思います。

C ハンノキ林上の池

湧水量が増えて、水が澄んでいます。

2013年10月23日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	11:25	11:38	18.0	17.5	45	7.0 BTB	—
B(中央水路末端)	11:40	11:50	17.2	17.0	100	7.0 BTB	1.111
A(下の田圃裏)	11:54	12:09	18.5	17.0	73	6.5 BTB	1.064
H(上の田圃への導水路)	12:20	12:35	18.4	17.1	20	7.1 BTB	1.020
G(湿地再生地の池)	12:48	12:57	17.9	17.2	57	7.0 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	13:20	13:30	17.3	17.5	100	6.6 BTB	—

2013年1月～10月の流量の推移(L/sec)										
調査地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
B(中央水路末端)	0.69	1.04	1.04	0.909	0.272	1.037	0.069	0.174	0.198	1.111
A(下の田圃裏)	0.30	0.46	0.60	0.758	0.167	—	—	0.109	0.455	1.064
H(上の田圃への導水路)	0.28	1.05	0.62	0.385	0.125	0.528	0.104	0.213	0.285	1.020

科学館裏谷戸の倒木(松)の処理

日時 2013/10/23(水) 13:40～14:40 曇

場所 生田緑地 科学館裏谷戸

参加者 岩田臣生

先日の台風で枯れていた松が倒れました。

この倒木の処理について野鳥班から整備事務所に依頼があったがどうするかという相談がありました。当該谷戸の奥の水辺と湿地は、水田ビオトープ班として、ここに生息する昆虫の生息環境を保全しています。何も知らない人に作業を任せることはできません。

倒木の幹の部分そのままにして水辺に散乱した枝を片付ければよいということでしたので、これを片付けてから帰ることにしました。

現地は倒れた枯れマツの外にも落枝が湿地全体に散乱していました。



散乱していた枝は太いものでも 10cm 程度でしたので、適度な大きさに伐って積みました。

湿地に散乱していた落枝も大きなものは全て片付けました。

水流に溜まった土砂が気になりましたが、ジョレンを持って来なかったため、今度の台風27号が通過してから活動することにしました。



《生田緑地田圃通信 No.13-55》

2013年10月29日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

水辺や湿地の保全活動、籾干し

日時 2013/10/28(月) 10:30~14:30 晴

場所 生田緑地稲目谷戸、生田緑地整備事務所裏

参加者 岩田臣生、岩田芳美

2度目の籾干しをしました。

籾を広げている間は番をしておかなければなりません。

芳美はイネワラを刻みながら、これを行いました。

岩田は湿地を明るくするための活動を行いました。

湿地1段目の竹林側はヤマグワなどが大きく繁ってきて、

周囲が暗くなったのか、ハンノキの樹勢が弱ってきたように感じました。また、ヤマグワやヨシも気になりました。

そこで、今秋は少し大きな攪乱を行うことを考えています。

手始めは、園路から入り難いように残しておいたヤマグワなどを除伐し、イヌツゲの枯枝などを落とし、ウツギを伐採し、周辺のヨシ、ヤマグワ、ススキなどを刈り取りました。

驚いたのはヤブカラシで、根元が1cm程の太さになっていました。

茂みの中からミスジマイマイが出てきました。



途中、毎日のように生田緑地に来ている野鳥班の平賀さんが通りましたが、通り過ぎて間もなく、大きな声がありました。「ヘビだ！岩田さん、ヘビがいた！」

後で写真を送ってもらいましたが、アオダイショウの幼蛇でした。

幼蛇には、出会う機会が少ないので、直ぐに判断できないことが多いのですが、斑紋がマムシに似ていて、細いことからアオダイショウだと思われます。

この日の作業を終えようとしてから水の状態を調べたら、またしても湿地に入った所の穴から水が抜けていて、湿地内には流れていませんでした。これを補修してから整



備事務所裏に戻り、お弁当を食べました。

それから、田圃の水の状態を調べに、また谷戸に降りました。

上の田圃の導水路は木道下のパイプの入口に落葉が詰まって、水が溢れ出ていました。これは、手で詰まっていたものを取り除いただけで問題は解消されました。木道上から見ると、下の田圃は水が循環していないように見えました。

奥に回ると、案の定、水が入ってきていません。

水の取り入れ口を塞いでいたものを取り除いて問題解決です。

木道にはアキアカネが数匹、休んでいました。

日当たりの柵にはカタテハが秋の陽光を受けて、翅を広げていました。



粃摺り

日時 2013/10/28(月) 14:40~15:40 晴

場所 生田緑地 生田緑地整備事務所裏

参加者 岩田臣生、岩田芳美

粃の乾き具合を見て、粃摺りを済ませることにしました。



《生田緑地田圃通信 No.13-56》

2013年11月3日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

湿地の保全活動

日時 2013/10/31(木) 11:20~13:30 晴

場所 生田緑地稲目谷戸 湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

生田緑地整備事務所での会議を終えてから谷戸へ降りて湿地の保全活動を行いました。

前回の続きです。湿地の竹林側のヤマグワなどを刈り取り、水辺に溜まった泥をあげて、水面を開放する活動です。チゴザサの根が張っている所は一筋縄ではいきません。この日は、その手前までで止めました。





相変わらず、カナムグラを取りました。
ツリフネソウの花が終ったので、面的に草刈りをして
もいいと思ったのですが、アキノウナギツカミなど、
まだ種子が成熟していないものが所々にあることか
ら、選択的に除草を行いました。



シロヨメナが今を盛りと咲いていました。



《生田緑地田圃通信 No13-57》

2013年11月3日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

湿地の保全活動

日時 2013/11/1(金) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生、岩田芳美、木坂陽子、鈴木潤三、細川洋子

二人の女性が、偶然にも、この日、一緒に入団し、活動もこの日から開始することになりました。

そこで、生田緑地整備事務所裏に集合して手続きを済ませてから谷戸へ降りました。

この日の活動は湿地の保全活動にしましたが、途中、自然観察を行ったり、それぞれの場所での活動説明も行いながら湿地に向かいました。



活動場所は湿地の1~2段目です。ヨシやヤマグワ、カナムグラなどを刈り取りながら、まだ咲いている花などを観察して、ゆっくり活動してもらうことにしました。

初めての活動では、生物との出会いや自然の中で体を動かすことの楽しさを知ってもらうことが大切だと考えています。





トホシテントウの幼虫が刈り取ったヤマガグワにいました。水田ビオトープ班の活動は、こんな小さな昆虫との出会いを楽しめる活動です。

今年は、1段目には田圃状の水域をつくろうと思っています。

実は以前にも試みているのですが、いつの間にか土砂が堆積して埋まってしまいました。途中の水路の改修と併せて、再挑戦したいと思っています。

この日の草刈りは、そのための準備になります。



《生田緑地田圃通信 No13-58》

2013年11月5日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地中大型哺乳類調査 公開写真同定会

日時 2013/11/3(日) 13:30~16:00 晴

場所 生田緑地ビジターセンター

参加者 岩田臣生、岩田芳美、Paul Massie、政野祐一(以上、水田ビオトープ班)、その他数名参加あり

環境省モニタリングサイト1000 里地調査の中大型哺乳類調査の定点カメラの撮影結果を、横浜自然観察の森で

は公開同定しているという情報を頂いていました。

生田緑地では、公開写真同定のために使用できる場所がありませんでしたが、ビジターセンターの使用ができるようになりましたので試してみることにしました。

要件は ①誰でも参加できること、②途中の出入り自由であること、③無料であること、④PCプロジェクターが使えること、⑤周囲にも自由に使える席があることなどとししました。

生田緑地の中大型哺乳類調査は現状では私が一人で行っていますので、調査活動として考えると手間が増えて面倒なだけなのです。

しかし、継続性を考えると調査参加者を増やす必要があります。たまたま水田ビオトープ班に最近入団した人たちが哺乳類調査に関心を持っていたことから、生田緑地の哺乳類について話し合える場を持ってみたいと思いました。また、将来的には生田緑地の哺乳類観察会として年1回ぐらいの開催も可能なのではないかと思います。そのような気持ちから、今回は試してみることにしました。

今回は9～10月期のデータの外、今年の撮影結果を全て投影して紹介しました。

その中で、柿を銜えて何度も移っているタヌキは魅力的でした。

また、今年もアナグマが撮影されたことをお知らせしました。



結果的には、様々な意見交換を行うことができ楽しい時間を過ごすことができました。

例えば、個体識別をすると面白いという意見がありましたが、これは当該調査を始めた当初にも出されていたものです。

また、データを無線で送受信して、常時観察をしたらどうかという意見もありました。

これらのデータに位置情報を合わせてデータ管理してはどうかといった意見もありました。

これらの意見は、調査結果を別の目的に積極的に利用または研究しようという趣旨だと思います。それはそれで、あっても良いことだと思います。



《生田緑地田圃通信 No13-59》

2013年11月8日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

水辺保全

日時 2013/11/7(木) 13:00～15:30 曇(昼まで雨)

場所 生田緑地ハンノキ林～田圃

参加者 岩田臣生

天気予報通り、昼には雨があがって、活動することになりました。

ハンノキ林の中を流れる水流のうち最も西側の流れの上流部の池の泥上げを行いました。

今回は堰の近くのみとしましたが、5～6回かけて、ため池的な機能を担える池にしたいと考えています。

上の田圃への導水路の部分を作り直しました。

割れてしまった竹パイプは交換しました。これで流量計測ができます。



アメリカザリガニ駆除

日時 2013/11/7(木) 13:00~15:30 曇(昼まで雨)

場所 生田緑地 湿地~上の田圃

参加者 岩田芳美、木坂陽子、細川洋子

湿地の3段目の池に小さなアメリカザリガニが多数いることが分かっていたので、駆除活動を行いました。

今月から水辺保全活動に参加してくれるメンバーが増えましたが、女性なので、アメリカザリガニの駆除ができるのか不安でした。

しかし、嬉しいことに、こんなことを楽しんでくれる人たちでした。



上の田圃の上の段のアメリカザリガニ駆除を行いました。ここでは、ホトケドジョウ、ハイイログンゴロウ、マメゲンゴロウ、ヤゴなどとの出会いを楽しみながら小さなアメリカザリガニを200匹以上も駆除しました。

ヤゴの中にはヤマサナエと思われるヤゴもいて、田圃でヤマサナエかと驚きましたが、このところ水流の流量が多くなっているためかも知れません。



田圃で採集したアメリカザリガニの一部をハンノキ林上の池のザリガニトラップに餌として入れました。

その際、池の中のアメリカザリガニが見えたことから、網を入れて、これを採集してしまいました。確かに、戦力になりそうです。



《生田緑地田圃通信 No13-60》

2013年11月9日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

上の田圃の手入れとその上の草地の草刈り

日時 2013/11/8(金) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地 上の田圃、その上の草地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、木坂陽子、鈴木潤三

上の田圃の水路の泥上げと畦の補修を行いました。

水路にはミヤマシラスゲが繁茂しているのので、これを取り除き、泥上げをしました。

田圃の方は、畦を造り直すつもりで、水際の植物を取り除き、アメリカザリガニの穴を壊し、畦際の泥を畦の上に積み上げ、すっかり潰れていた所には枯れたミヤマシラスゲを敷いた上に泥を積んでいきました。

作業中に見つけたアメリカザリガニはその場で駆除しました。

水中に入れてあったイネワラの中には、マメゲンゴロウが潜り込んでいました。





田圃と梅畑の間の草地は、所々にヤマグワが生えているので、草刈りといっても、桑切鎌、長柄の鎌、枝切鋏を使い分けて行いました。

一様に刈っていいと思ったのですが、イノコズチなどは残しながらの草刈りでした。



田圃の方は作業途中でしたが、これは下の田圃まで終えるには、まだまだ3~4日はかかる作業なので、この日の活動は12時を過ぎたところで止めました。



久しぶりに、集合写真を撮りました。

帰り道、園路脇のアカメガシワにちょっと変わった姿の昆虫を見つけました。

帰宅後、調べてみるとツマグロスケバだったようです。

このツマグロスケバは川崎市未記録種でした。



《生田緑地田圃通信 No13-61》

2013年11月19日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

ハンノキ林の水辺保全

日時 2013/11/18(月) 11:00~14:00 晴

場所 生田緑地ハンノキ林

参加者 岩田臣生

ハンノキ林内の水流の保全活動を行いました。

西側の水流の一番上の池は2度目の泥上げを行いました。水面は半分ほどに広がりました。

次に、西側の水流の泥上げを行いました。大量の土砂が溜まっていた。手を入れる所と入れない所を交互に造りながら、5つ程の水たまりを造りました。





次に東側の水流に手を入れました。

ハンノキが1本倒れていました。枝の量が少ないことに、今さらながら驚かされました。

ここも、大量の土砂が溜まっていた。



田圃のアメリカザリガニ駆除

日時 2013/11/18(月) 11:00~14:00 晴

場所 生田緑地田圃

参加者 岩田芳美

田圃のアメリカザリガニの駆除を行いました。

上の田圃で270匹、ヨシ原の池で50匹、湿地で50匹程を駆除しました。大きなザリガニは越冬態勢に入ったようでほとんどが中型でした。



今年のザリガニ駆除はこれで終わりとして、そろそろ刻んだ稲わらを田圃に入れようと思います。

[オオアイトトンボ](#)が数匹いました。

休憩していたら、こんな昆虫が飛んできました。ヒメハサミツノカメムシでしょうか。だとすると、川崎市未記録種です。



林床にヤブコウジが赤い実をつけていました。今までは赤い実をつけているヤブコウジを見つけるのに苦労していましたが、今年は、辺りに見られるヤブコウジの半分以上が実をつけています。

キッコウハグマが咲いているという知らせを受けていましたので、活動終了後に見に行きました。

キッコウハグマは閉鎖花が普通で、開花するのは稀と聞いていましたが、今年の生田緑地では群落の殆んどが開花しています。意識的に管理をしているためか、今年的气候のためか、原因は不明です。



《生田緑地田圃通信 No13-62》

2013年11月20日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

湿地の水辺保全(棚田状の水域づくり)

日時 2013/11/19(火) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生、鈴木潤三

湿地1段目に棚田状の水域をつくる活動をすることにしました。

この試みは何度か挑戦していて、前回は2008年12月、5年前のことでした。

田圃状の水域ができると水草が復活しましたが、流れてくる土砂に埋まったり、水が涸れたり安定して水域を確保することができていませんでした。

水の流れを見ながら、小さな棚田をいくつか造るつもりで進めたいと思います。

また、湿地への導水路の部分に穴が開いて水が伏流してしまうことが度々起こっていました。これに対しては、その度に、穴を押し潰すなどして対処してきましたが、この水路を造ってから9年が経過していることから、一度

造り直す必要があると考えています。この日は、そんなことも念頭に置いて、水路状になっていた水域を広げながら、掘った土を導水路の畔に積んでいきました。畔を補強することが先ずは必要と考えてのことです。



導水路の畔に掘り上げた土を置きました。補強のためには、まだまだ量が足りません。



作業中に水に落ちた昆虫がいました。ハネカクシのようですが、2cm と大型です。調べたところ、クロサビイロハネカクシのようです。2000 年以降の市内の記録を調べると、2004, 雑倉, 多摩区東生田 がありました。



アズマネザサ刈り

日時 2013/11/19(火) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地ハンノキ林

参加者 岩田芳美

ハンノキ林の北の端、湿地に隣接する場所のアズマネザサ刈りを行いました。



《生田緑地田圃通信 No13-63》

2013 年 11 月 21 日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

田圃の畔の改修、草刈り

日時 2013/11/20(水) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地上の田圃とその下の草地

参加者 岩田臣生、岩田芳美、木坂陽子

稲刈り後の田圃の改修3日目です。

上の田圃の上の段の続きと下の段との接続水路の部分を行いました。

前回、畦の上にあげた泥の上には沢山の足跡が残されていました。



上の田圃下の草地の草刈りを行いました。カナムグラの種子をできるだけ回収しておきたいと思っの草刈りです。

トホシテントウの幼虫がいました。ひっくり返って死んだふりをしています。



ヨモギに虫こぶ(虫えい)ができていました。ヨモギハシロケタマフシのようです。ヨモギシロケフシタマバエによって、葉裏、葉柄、茎などに形成される球状の虫こぶ(虫えい)です。

小春日和の長閑な田圃脇の木道にアキアカネが群れていました。



シロダモの花が咲いています。赤い実と花が同時に見られる植物です。



シラホシコヤガの幼虫がいました。樹皮に生えた地衣類を食べ、また地衣類を体の貼り付けて生活しています。



生田緑地では黄葉が始まって、林内が明るくなりました。



《生田緑地田圃通信 No13-64》

2013年11月22日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

田圃の畔についた哺乳類の足跡観察、田圃へのイネワラ撒き

日時 2013/11/20(水) 10:00~10:30 晴

場所 生田緑地上の田圃

参加者 岩田芳美、細川洋子、Paul Massie

上の田圃の上の段の畔の補修と溝掘りによって畦の上に載せられた土にタヌキやハクビシンと思われる哺乳類の足跡が沢山ついています。そこで、哺乳類調査に関心があって入団した二人とフィールドサインの観察会を行いました。

アメリカザリガニを捕まえて食べていたのではないかと想像しています。



上の田圃の上の段の畔の補修と溝掘りが済んだので、刻んだイネワラ3袋を田圃に撒きました。



景観に配慮した斜面のアズマネザサ刈りの検討、苗木畑の草刈りなど

日時 2013/11/20(水) 10:30~12:30 晴

場所 生田緑地芝生広場北側斜面、苗木畑

参加者 岩田臣生、岩田芳美、細川洋子



芝生広場の紅葉も見頃になっています。

芝生広場から城山下谷戸へ降りる自然探勝路右側の斜面は落葉層が厚くて、アズマネザサ刈り後の表層の崩れが無いようにするには適切な土留めが必要です。

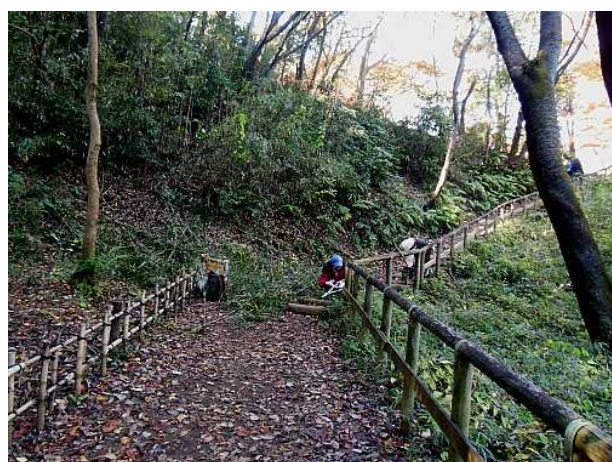
これをどのようにしたら美しい景観にできるかという課題について考える活動を行いました。

現地を確認した結果、必要最小限の管理を繰り返せばいいだろうと考えました。

即ち、市民部会の話し合いで提起された「大きくて、お辞儀をしているアズマネザサを取り除くこと」です。

そして、除伐したアズマネザサを使って、見苦しくない形の土留めにとすることだと考えました。

そこで、まず、辺りの雰囲気をも暗くしている、お辞儀をしているアズマネザサを除伐しました。



次に、細めのモウソウチクを 60cm 程度に切ったものを 3 本、支柱として斜面に打ち込み、そこに 120cm 程度の長さに切ったアズマネザサを揃えて積みあげ、シュロ縄で縛りつけました。

これは 2010 年 3 月の雑木林勉強会主催の公園見学会の時に、野山北・六道山公園で見かけて、カッコいいと思った方法を真似たものです。

印象的だったのは、荒縄で縛ってあったことです。荒縄のお蔭で芸術作品になっていると感じました。ですから、荒縄を使いたかったのですが、かなり長い縄が必要だと思ってしまったので、荒縄を諦めて、シュロ縄を持って来ました。結果的には、それ程長い必要はありませんでした。

この方法だと斜面でも使えて、土留めにもなります。



アブラチャンの黄葉も輝いています。



苗木畑周囲の草刈りの状態を確認し、苗木畑に生えていたアズマネザサや草を刈りました。



《生田緑地田圃通信 No13-65》

2013年11月25日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

モ二 1000) 水環境調査

日時 2013/11/24(日) 9:50~13:00 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

25日に雨が降るという天気予報であったため、24日に水環境調査を行いました。

紅葉と小春日に誘われたのか、生田緑地の来園者は多く、この谷戸にもひっきりなしに親子ずれが来ていました。

K ヨシ原の池

泥が溜まって、水を汲もうとすると軽い泥？状のものが入ってきて透視度は殆んど0cmでした。水路からの水路も含めて、池の泥上げが必要になっています。それでも、小さなアメリカザリガニが沢山いるようでした。



B 谷戸末端の階段下の水流

シマアメンボがいました。

A 下の田圃裏の水流

ヨシ原に行く前に、田圃へのパイプを止めて、水流を計測樋の方に導きましたが、その時に、数十羽のスズメがヨシの茂みの中から出てきました。シジユウカラも出たり、入ったりしていました。

調査に入る時には、三脚に大きなカメラをつけて、3人の

バードウォッチャーが木道の上に集まっていたようですが、水環境調査に入ることを伝えると立ち去りました。

水辺には、ゲンノショウコの実が弾け、ウシハコベが咲いていました。



H 上の田圃への導水路

先日、水路を造り直したので、調査は容易でした。また、堰の上側が深くなったことによるものか、透視度は上がりました。



G 湿地3段目の池



C ハンノキ林上の池

水面に油膜が張っていました。



2013年11月24日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:10	10:20	10.2	6.0	0	6.7 BTB	—
B(中央水路末端)	10:21	10:30	11.2	9.5	100	7.0 BTB	0.220
A(下の田圃裏)	10:37	10:48	14.0	12.0	100	7.0 BTB	0.333
H(上の田圃への導水路)	10:50	11:03	16.0	12.0	100	7.2 BTB	0.226
G(湿地再生地の池)	11:10	11:25	12.5	15.0	100	6.9 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	11:30	11:39	10.5	10.0	60	6.8 BTB	—

2013年1月～11月の流量の推移(L/sec)

調査地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
B(中央水路末端)	0.69	1.04	1.04	0.909	0.272	1.037	0.069	0.174	0.198	1.111	0.220
A(下の田圃裏)	0.30	0.46	0.60	0.758	0.167	—	—	0.109	0.455	1.064	0.333
H(上の田圃への導水路)	0.28	1.05	0.62	0.385	0.125	0.528	0.104	0.213	0.285	1.020	0.226



《生田緑地田圃通信 No13-66》

2013年11月27日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

上の田圃の畔づくり

日時 2013/11/27(水) 11:00~12:30 晴

場所 生田緑地上の田圃

参加者 岩田臣生

上の田圃の下の段の畔の補修を行いました。

ここの谷戸の田圃は毎年、何回か、手を入れなければなりません。アメリカザリガニの開けた穴を壊して、塞ぐこと、そして畦沿いに溝を掘って、その泥を畦の上に積むことです。

泥は乾いて固まります。年々少しずつ高くなります。こうして、しっかりした畦になっていくと思っています。

この作業を何と言えばいいのか、言葉が見つからないままに、様々な表現をしてきました。ところが、今日、木道を通りかかった年配の女性が「畦づくりをしているのですか？」と尋ねてきました。そうだ。畦づくりなんだと思いました。何回目でも畦づくりには違いないのです。何となく、納得してしまいました。

下の段の畔づくりは順調に進んで、昼までに終わりました。アメリカザリガニの大きな穴が幾つもありましたが、見つけた穴は悉く潰しました。

午後は、シンポジウムのリハーサルが予定されています。テーブルベンチに座って、柿の木に飛来するメジロを眺めながら、お弁当を食べました。





《生田緑地田圃通信 No13-67》

2013年12月4日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

下の田圃の畔づくり

日時 2013/12/4(水) 12:00~15:00 晴

場所 生田緑地下の田圃

参加者 岩田臣生

下の田圃の畔の補修を行いました。

上の田圃の上のゴミの山?と思われるかもしれませんが、これは富士植木が園路に積もった落葉を掃除して、袋に入れ、ここに置いてくれたものです。これは後で、田圃に入れることにします。



生田緑地の雑木林の黄葉が盛りとなりました。



冷たい陽光が黄葉を輝かせていました。

下の田圃の脇にも置いておいてくれました。これも作業を終えてから、田圃に入れることにします。





作業は田圃の畔づくりです。
スコップ、ジョレン、長柄の鎌を使うことで、田圃の中に入らないで作業を行いました。



隣地境界側の畔はかなり柔らかくなっていて、所々で水漏れを起こしているようです。

畦の改修が済んで落葉を入れられる状態になったところで、落葉をいれました。

奥の水路の方までは手がまわりませんでした。

上の田圃に移動して、置かれていた落葉を田圃に入れました。



先日畦の上に泥を上げた後、ハクビシンなどが歩き回ったようで、足跡が沢山残されていました。



イネワラきざみ

日時 2013/12/4(水) 12:00~15:00 晴

場所 生田緑地整備事務所裏

参加者 岩田芳美

イネワラを田圃に入れるためにきざみ、その後刻んだイナワラを上田圃の上の段に入れました。また、置かれていた落葉も田圃に入れました。



《生田緑地田圃通信 No13-68》

2013年12月5日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

ヨシ原の水辺の泥上げ、アメリカザリガニ駆除、一部の草刈り

日時 2013/12/5(木) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地ヨシ原

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

秋の水辺保全活動は、ハンノキ林、湿地、上の田圃、下の田圃と下流に向かって進めて、ヨシ原まできました。ハンノキ林内や湿地は一度にやらずに何度かに分けて行きます。ヨシ原が済んだら、また少し手をいれます。水辺保全と言っても、基本的には泥あげに過ぎません。谷戸の水流は細かい土の粒子を絶え間なく運んでいて、流れの緩い所には、泥が溜まります。これを岸辺や畦にあげることで、岸辺や畦は少しずつ、しっかりと丈夫になります。これを怠ると、岸も畦も柔らかくなって崩れ易くなってしまいます。

ヨシ原の池はすっかり泥に埋まって水深 1~2cm の沼になっていました。そんな所にもアメリカザリガニ数百匹が集まっていて、3~5cm 大のものを 200 匹程駆除しました。

驚いたのは、その中に、ホトケドジョウが 1 匹見つかった事です。よく、食べられずにいたものです。

ここも下の田圃と同じように深いので長靴で中に入ることはできません。岸辺から作業したいと思いましたが、池の中のヨシなどは長柄の鎌で根茎を切り取り、潰れた岸辺はスコップで切り落とし、ジョレンで泥を上げていきました。

中央の水流から水を引入れるための水路の泥上げも行いました。こちらはカサスゲが繁茂してしまい、水路の形を失っていました。水路内のカサスゲの根を取り除きながらの泥上げとなりました。

それから、夏の間繁茂していたカナムグラやクズなどの刈り取り、片付けにも手をつけました。





《生田緑地田圃通信 No13-69》

2013年12月12日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ピクニック広場東斜面の草刈り

日時 2013/12/12(木) 10:00~13:30 快晴

場所 生田緑地ピクニック広場

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三、細川洋子

ピクニック広場の草地の草刈りを行いました。2012年3月にミズキなどの樹木を伐採した東側の斜面下部の萌芽の勢いは衰えて、ヤマグワ、クサギ、ニフトコなどの実生の勢いは衰えて、ヤマグワ、クサギ、ニフトコなどの実生が、2度目の夏は、繁茂していました。草地の方はツリフネソウが優占していました。このためかどうかは分かりませんが、ナギナタコウジユは非常に少なくなりました。



夏期の草刈りも試したいと思いますが、今回はアズマネザサ、ヤマグワなどの実生木を除伐して樹林にしないための管理を行うこと、そして春のスミレなどの草本のために枯れた草や落葉を減らしておくことを目的とした草刈りを行いました。



2週間程前からフユシヤク類♂がヒラヒラと足元を飛んでいます、この日は♀も出てきました。



《生田緑地田圃通信 No13-70》

2013年12月25日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

モ二 1000 生田緑地水環境調査

日時 2013/12/25(水) 11:00~14:30 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

K ヨシ原の池

結氷していました。氷を割ると水底から濁りが舞い上がってしまい、透視度は50cmでした。水温も2.5℃と低くなりました。近くのヨシの茂みにシジウカラが数羽飛来して、何か啄ばんでいるように見えます。



B 谷戸末端の階段下の水流

水路にはバクテリアが繁茂しています。

A 下の田圃裏の水流

水量計測用樋は付け替える必要があります。水流の泥上げもする必要があります。調査後、運んでおいていただいた落葉10袋を田圃に入れました。このヨシの茂みにもシジウカラが飛来しています。

H 上の田圃への導水路

調査後、運んでおいていただいた落葉を田圃に入れました。この作業は岩田芳美も参加しました。



G 湿地3段目の池



C ハンノキ林上の池

水面に油膜が張っています。透視度も低くなっています。

2013年12月25日 調査結果							
調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	11:14	11:28	7.0	2.5	50	6.6 BTB	—
B(中央水路末端)	11:29	11:38	7.0	6.0	100	7.1 BTB	0.833
A(下の田圃裏)	12:05	12:15	7.0	8.5	100	7.0 BTB	0.500
H(上の田圃への導水路)	12:30	12:42	9.0	8.2	100	7.2 BTB	0.500
G(湿地再生地の池)	13:50	13:58	7.0	5.5	100	6.8 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	14:02	14:10	8.5	6.0	60	7.1 BTB	—

2013年1月～11月の流量の推移(L/sec)												
調査地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
B(中央水路末端)	0.69	1.04	1.04	0.909	0.272	1.037	0.069	0.174	0.198	1.111	0.220	0.833
A(下の田圃裏)	0.30	0.46	0.60	0.758	0.167	—	—	0.109	0.455	1.064	0.333	0.500
H(上の田圃への導水路)	0.28	1.05	0.62	0.385	0.125	0.528	0.104	0.213	0.285	1.020	0.226	0.500



《生田緑地田圃通信 No13-71》

2014年1月8日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

下の田圃裏の流量計測樋の改修

日時 2014/1/7(火) 11:00～13:00 曇

場所 生田緑地下の田圃

参加者 岩田臣生

2014年の初活動は、下の田圃裏の水流に設置した流量計測用の樋を設置し直すことにしました。

2008年にモニ 1000 水環境調査を開始するに当たって、管理者である川崎市北部公園事務所と話し合いを行いました。

その結果、調査の承認にとどまることなく、当該地点を含めて3ヶ所については流量計測ができるように、同事務所の直営班の方たちが樋などを作製して設置してくれました。

その一つが、当該地点の樋です。

しかし、最近の調査時には樋の下から水が漏れていたり、下流の隣地内の水路の流れが悪くなって樋の下流部の

水位が上がってしまい、計測が困難になっていました。

そこで、樋自体を一旦外し、泥を積んで、樋の底を高くしました。

ただ、下に積んだ泥は水路に溜まっていた泥なので、これで保つかどうかは分かりません。でも駄目なら、また手を入れればいいと思います。



併せて、12日の生田緑地観察会のために下見を行いました。昨年夏以降の天候によるものか、造形美を楽しむような枯草は無く、キブシの蕾は硬く、春を先取りするようなものも見当たりません。

出会った野鳥はメジロ、コゲラ、アオジ、キジバト、カラスぐらいで、フコシャク類♀が3匹、ミナミトゲヘリカメムシ1匹が手摺りの上にいました。

また、ハンノキ林上の池も一部結氷し、田圃の畔の上の泥は霜柱と一緒に硬く凍っていました。

冬の生田緑地、寒さを味わうだけではない観察会にしなければならないと思いますが...



《生田緑地田圃通信 No13-72》

2014年1月10日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトープ班

スミレ生育地の保全活動

日時 2014/1/9(木) 9:50~13:00 曇

場所 生田緑地内の2ヵ所

参加者 岩田臣生、岩田芳美、細川洋子

特定のスミレを優先させたいと考えているスミレの生育地2ヶ所で保護のための管理を行いました。

(1)



ここでは、様々な実生が沢山発芽し、また対象のスミレ以外の植物の繁茂が著しく、対象のスミレは衰退傾向にあります。この日は、実生木の除伐、積もっていた落葉や枯草の掻き出しを行いました。



(2)

こちらは崖面ですが、アズマネザサ、シダ類などを刈り取り、広がってしまったジャノヒゲを少しいじめ、落葉掻きを行いました。

クマデを持って行かなかったので、落葉は掻き落としたままにしてあります。これは、後日、片付けたいと思います。

小さなタモノカンアオイやキッコウハグマが見られました。





僅かに2~3株でしたが、キッコウハグマの種子が、半分落葉に埋もれた状態で残っていました。

この日は雨の後なのでどうかと思いましたが、ナミスジフユナミシャク♀が6匹、同♂が1匹、ウスバフユシャク♂が1匹、いつもの観察ポイントに出ていました。フユシャク類のメスは、寒々しい冬に出会える貴重な観察対象です。



《生田緑地田圃通信 No.13-73》

2014年1月15日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ハンノキ林保全活動

日時 2014/1/14(火) 10:00~13:30 晴

場所 生田緑地ハンノキ林

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三、細川洋子

ハンノキ林の保全活動として、この日はアズマネザサ刈りとアカメガシワ除伐を行いました。

今回アズマネザサ刈りを行ったのは、木道に面した場所で、5~6年前から毎年実施している場所です。

この時期はオモトやヤブコウジの赤い実が見られます。これらの常緑の植物は、冬の散歩を楽しくしてくれる大切な存在です。アズマネザサ刈りは他の植物を確認しながら、桑切鎌で丁寧に進めました。

また、シャガは抜き取り、成長し始めた実生木は除伐しました。





(左/ヤブコウジ、右/オモト)

ハンノキ林の南半分はハンノキが少ないので、この部分は湿地化に加えて、アカメガシワなどの樹木を少しずつ伐採して林床を明るくすることを考えています。

2007年5月に湿地から移植した5本のハンノキの実生は2本になり、細くて、成長は悪いのですが、何とか生きてはいます。ハンノキ林の更新は前例が無いことだと思いますが、実生が成長できる明るさを確保できるかどうかキーになると思いますので、除伐しても問題ないと思われる樹木を少しずつ伐採して、少しずつ明るくし、生育状態を見ています。

今日は直径10cm程のアカメガシワを3本、除伐しました。アズマネザサは20~30cmの高さに止まっていますが、その中に1m程に伸びたものが見られました。

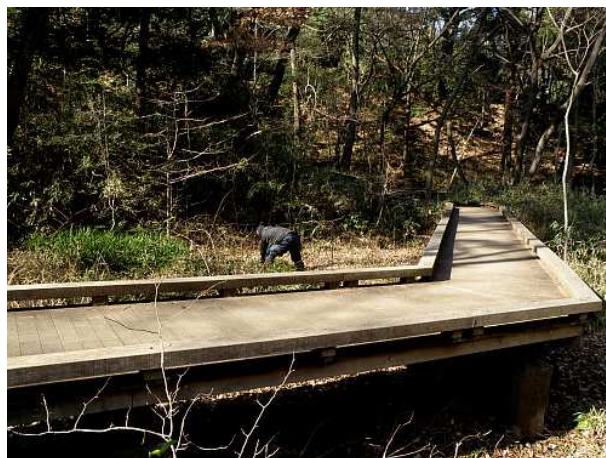
このエリアのアズマネザサは大鎌で雑に刈り取りました。雑なササ刈りでも、効果は大で、斜面の上の方ではカシワバハグマが何株も見られました。

また枯れたアオカラムシは30cm程の高さで刈り取りました。





木道の反対側でも、湿地に侵出していたアズマネザサを刈りました。



《生田緑地田圃通信 No13-74》

2014年1月22日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ハンノキ林保全活動

日時 2014/1/21(火) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地ハンノキ林

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三、細川洋子

ハンノキ林の保全活動として1月14日にアズマネザサ刈りとアカメガシワ除伐を行いました。今回はこの続きを行いました。

林床のオモト、ヤブコウジ、カラタチバナなどの赤い実を楽しみながらアズマネザサを刈りました。

また、モミジイチゴ、ノイバラ、シャガ、キツタなどの駆除も行いました。



今日は株立ちのアカメガシワを除伐しようと思いましたが、幹の間が狭く、苦戦しました。
比較的細い4本を伐倒しましたが、一番太いものは、今回は諦めました。
伐倒しようとして近くに立つとその太さに圧倒され、木道の上に倒してしまっただらと考えてしまいました。
勿論、木道とは反対側に倒したいのですが、見上げた樹冠は微妙です。
少し迷いがありましたので、この日は伐り残しました。
また、湿地化を進めるために掘った水路に水が流れていませんでしたので、これに流す作業を行いました。
しかし、水量が少ないこと、何か生物が開けたらしい穴が数ヶ所あり、土も乾いていて、5m程流れたところで消えてしまいました。
この作業は、様子をみながら、少しずつ繰り返し、手を入れていきたいと思います。



《生田緑地田圃通信 No13-75》

2014年1月24日 特定非営利活動法人がわさき自然調査団 水田ピオトップ班

毛二 1000) 水環境調査

日時 2014/1/23(木) 9:50~12:00 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

K ヨシ原の池

結氷していました。透視度は 30cm でした。水温は 1.5℃でした。

B 谷戸末端の階段下の水流

水路にはバクテリアが繁茂しています。



いとも簡単に木登りをして、手際よく枝を落としてから、幹を上から刻んでいきました。木登り段階で、既に真似ができません。身のこなしに感服させられました。

C ハンノキ林上の池

今月も水面に油膜が張っています。透視度は 80cm でした。



A 下の田圃裏の水流

水量計測用樋は設置し直したので、調査は容易でした。。調査を終えて歩き始めたら、待ちかねたように、シジユウカラやアオジが次々にヨシの茂みに集まってきました。

H 上の田圃への導水路

竹の樋から出てくる水は 0.012L/sec. と少なくなっていて田圃側まで届いていません。

どうも、水路の途中から漏れているようです。

落葉が多いこともあって、穴を見つけるのは困難でしたので、水際を踏み潰してみました。

驚いたのか、大きなホトケドジョウが現れました。

再度、流量計測を試みたところ、0.167 まで回復しました。流れも田圃までつながりました。

G 湿地 3 段目の池

この池にも氷が張っていました。陽光が当たっているのに、氷の下は 2℃でした。

1 段目の作業途中の水辺はこんなになっていました。これも霜柱でしょうか。

丁度、生田緑地運営共同事業体の大畠さんをお願いしていたシラカシの伐採をしてくれるというので、調査をしながら、プロの仕事を拝見させていただきました。



2014年1月23日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:07	10:17	5.0	1.5	30	6.7 BTB	—
B(中央水路末端)	10:18	10:25	5.0	3.0	100	7.1 BTB	0.473
A(下の田圃裏)	10:27	10:38	7.0	7.0	100	7.0 BTB	0.264
H(上の田圃への導水路)	10:43	10:57	8.0	6.5	100	7.0 BTB	0.167
G(湿地再生地の池)	11:18	11:35	8.8	2.0	100	7.0 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	11:42	11:48	6.0	3.0	80	7.0 BTB	—



《生田緑地田圃通信 No13-76》

2014年1月25日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ピクニック広場東階段上斜面の草刈り

日時 2014/1/24(金) 11:00~14:00 晴後曇

場所 生田緑地ピクニック広場東階段上斜面

参加者 岩田臣生、岩田芳美

ピクニック広場東側の木製階段の上側の斜面(崖面)のアズマネザサ、様々な実生などの刈り取りを行いました。これはハンショウヅルという植物やタマノカンアオイなどの保護が目的です。

ハンショウヅルはキンポウゲ科センニンソウ属のつる性低木で、花は前年の莖に咲きます。冬だからといって全面を刈ってしまうと、春になって発芽してきたとしても花を見ることができません。

またタマノカンアオイは常緑です。

このため、ここは地上部の全てを刈り取ってもよい斜面ではありません。

ハンショウヅルは木本だといっても細くて、この時期はどう見ても枯草にしか見えません。実際、簡単に折れてしまっていますが、冬芽はしっかりついています。

アズマネザサなどと絡み合ってしまった糸を解いていくような作業で、しかもその糸が簡単に折れてしまう細くて乾いた枯草でできている、そんな状況です。人任せにすれば、折られることを心配しなければなりません。

そこで、ここは一人で作業することにしました。



また、斜面に登ることで土を掻き落とすことの無いように、生田緑地運営共同事業体の大畠さんから脚立を借りて作業を行いました。

作業をされていて分かったのですが、ハンショウヅルの実が残っていました。つまり、冠毛をつけた種子がかなりの数残っていたのです。この形は何とも魅惑的だと思いませんか。植物の種子は造形として美しいものが沢山ありますが、これもその一つだと思います。

また、ここにはベニシダなども大きく育っていましたが、今回、大きく育ったシダも刈らせてもらいました。刈ってみると、下には古いシダの葉が積み重なっていて、その下に菌類が蔓延っていました。そして、その中に、こんな球状のものがありました。独立しているものではなく、糸状の根のようなものがついています。さて、これは何なのか。こんな所にも不思議なものがありました。



刈ってみると、アズマネザサは大きいものは3m程のものもあり、量もかなりありました。また、それらに支えられて積もっていた落葉もかなりありました。

刈り取ったものをピクニック広場のカントリーヘッジに運んで、作業を終了しました。



《生田緑地田圃通信 No13-77》

2014年1月28日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ピクニック広場下地区園路沿いのアズマネザサ刈り

日時 2014/1/28(火) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地ピクニック広場下~ハンノキ林上の園路沿い

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

今回は、ピクニック広場からハンノキ林に至る園路沿いのアズマネザサ刈りを行いました。

緩い傾斜の階段になっているこの園路は、運が良ければ、アオジ、シロハラ、シメなどに出会える場所でもありますが、これには姿を隠せるササヤブがあることも大切だと思います。

しかし、園路に向かってアズマネザサがお辞儀をしている景観は気持ち良いとは言えません。

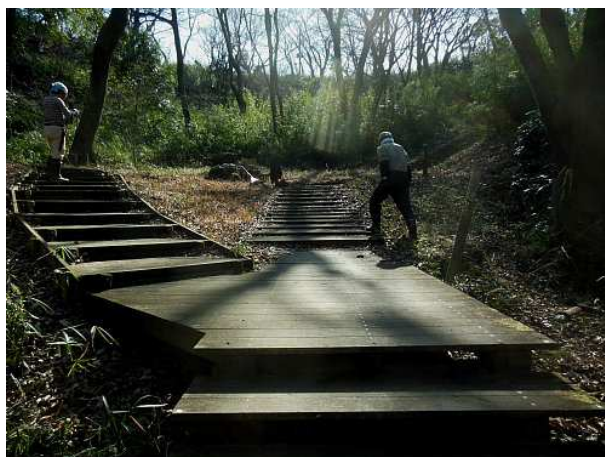
また、数種のスミレやオカタツナミソウ、ヤマホトギスなどが楽しめる園路であってほしいと思います。

このため、冬期に1回のアズマネザサ刈りを行っています。

園路の東側の緩い傾斜地はかつてはツルツルの堅い地面でしたが、最近では、ササガヤ、ヤマホトギスなどが繁茂する草地になってきました。この日はハナワラビ属の植物が出ていたことも分かりました。しかし、疎らにアズマネザサが出て、キツタが広がりだしています。このキツタについては、駆除対象にしていますが、なかなか減るところまで行きません。

今年は冬鳥が山から降りて来ないようです。作業中は、ヒヨドリが7~8羽集まっていたものの、この辺りではシジュウカラなどの混群さえ見られませんでした。





《生田緑地田圃通信 No13-78》

2014年1月31日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

ハンノキ林のアズマネザサ刈り、倒木や落枝の片付けなど

日時 2014/1/30(木) 10:00～12:30 曇

場所 生田緑地ハンノキ林

参加者 岩田臣生、岩田芳美、細川洋子

今回はハンノキ林の北の方の林床のアズマネザサ刈り、落枝の片付けなどを行いました。

大きな落枝が沢山ありました。ハンノキ林東谷戸に1本残っていたスギは伐採しました。

奥の方ではアオキの実生や萌芽が沢山見られました。これは改めて作業することにしました。

一昨年つくった水溜りは涸れて、落葉が積もっていました。湧水の浸み出しが消えています。





気がつくと背負い籠にオオクモヘリカメムシ?がいました。翅に黒斑があるのが気になります。いつついたものかは不明です。逃げる様子もなく、動く気配もありません。



《生田緑地田圃通信 No13-79》

2014年2月6日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

アズマネザサ刈りなど

日時 2014/2/6(木) 10:00~12:30 曇

場所 生田緑地芝生広場付近

参加者 岩田臣生、岩田芳美、鈴木潤三

この日は公園事務所裏の寒暖計が3℃を示していました。活動は芝生広場付近の特定の植物の保護のためのアズマネザサ刈りを行うことにしました。





ただ、岩田は、その前に案山子を片付け、[昨日の現地立会](#)で約束したアブラチャンの実生保護のための印付けを行ってから、アズマネザサ刈りに合流しました。その後、合流してアズマネザサ刈りを進めましたが、落葉層が厚過ぎる気がします。少しは落葉かきもしないと生育環境としては良くありません。しかし、落枝も多く、片付けもしながらの作業はあっという間に2時間が経ってしまいました。



ヤドリギに実がなっています。



《生田緑地田圃通信 No13-80》

2014年2月18日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

アズマネザサ刈りなど

日時 2014/2/18(火) 10:00~12:30 曇後晴

場所 生田緑地柘形山広場周囲

参加者 岩田芳美、細川洋子

柘形山入口のマテバシイの枝が今回の雪で折れていました。緑地の中の至るところに折れた枝がそのままの樹

木がありました。後始末には時間がかかりそうです。
柘形山広場には雪が残っていましたが、前回の大雪で延期をした〇〇〇〇〇〇保護のためのアズマネザサ刈りを行いました。

雪はアズマネザサの上にも載っていますから、まずは手箕で雪を除けてから、桑切鎌で刈ることにしました。この雪かきが思いの外に手間取り1時間ほどの作業となりました。

ササ刈りをしながら、落枝を片付けたり、溜まった落葉をかき集めたりと途中の休憩も忘れての作業となりました。



谷戸の探勝路の除雪

日時 2014/2/18(火) 10:00~13:20 曇後晴

場所 生田緑地 稲目谷戸

参加者 岩田臣生

積雪のある状態での活動は常緑樹の間伐ぐらいたと思っていますが、15日の降雪後初めての活動のため様子が分かりません。

谷戸の降り口には、雪があるので通行を遠慮して欲しいという趣旨の看板が立っています。大雪が繰り返されたので、自然探勝路までは手がまわっていないのではないかと、降雪後、踏み固められた雪が凍って、滑り易くなっているのではないかと思いました。

雪が積もった雑木林も素晴らしいので、是非、歩いてほしいと思いましたし、実際、雪を楽しんで歩いている来園者も多いのです。

そこで、踏み固められて凍った雪の路を解消してから、少しだけ常緑樹の間伐を行うつもりで谷戸に降りました。

ピクニック広場付近で凍った雪を除雪していたら、キジバトが側にやってきて、地面を探っていました。雪が積もって、地面が隠れてしまって困っていたのかも知れません。





野鳥班が野鳥調査をしていました。

この場所で観察できたのは、カラスとヤマガラだけだったようです。



雪面に野鳥の羽が3本、落ちていました。猛禽類が狩りをしたのでしょうか。



林内の積雪は特別多いとは思えませんが、浸み出してくる湧水は増えました。水が溜まってほしい所には水が滲えられています。



ハンノキ林の中では滑らないように慎重に歩いている来園者がいました。

陽光がさし始めて、急に気温が上がったように暑くなってきました。



梅畑の地面はぬかるみができていました。ここは、手をつけない方が良くと判断して、先に進みました。

昔は普通にあった土の道であることを大切にしている部分です。ぬかるみを気にするのであれば、一時的に、筵のようなものを敷くことで対応してもらいたいと思います。但し、筵は耐久性がないので、何年間か使えるようなものを探さないとと思いますが...





アオジが 5~6 羽、シロダモの茂みに飛んできました。草の茂みが雪で潰されたためなのか、普段は見かけない場所での出会いでした。

田圃に入れた落葉はすっかり田圃に馴染んで、水面ができていました。この程度湛水されていれば、アズマヒキガエルの産卵に支障はないでしょう。



ルビタキやシジュウカラを見かけましたが、茂みから茂みへ移る時だけしか、姿を見せてくれませんでした。カシラダカが 1 羽、オギの茂みに飛んできました。

このカシラダカは、帰りに通った時には、樹の枝に止まってくれて、暫く、観察させてくれました。





隣地からのモウソウチクは木道にかかったものは伐られていました。倒れ掛かっているものなど、伐採を要するものはありましたが、4月初旬までに処理すればいいと思います。

時刻も13時になっていたので、持ってきた鋸は使うことなく、引き上げることにしました。

帰り道、ハンノキ林にはコゲラのドラミングが響いていました



《生田緑地田圃通信 No13-81》

2014年2月24日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

モ二 1000) 水環境調査

日時 2014/2/24(月) 9:50~12:30 曇

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

まだ雪の残る谷戸の水環境調査を行いました。

月曜日とあって、来園者が少なく、静かです。田圃の畔のツルマメが繁茂していた辺りにアオジがいましたが、落着きがありません。



K ヨシ原の池

湛水状態にありますが、僅かに濁っていました。透視度は55cmでした。

ヨシは雪のためか、茂みをつくっていません。

B 谷戸末端の階段下の水流

流量は0.847L/secと多くなっています。

野鳥の群れが梢を渡っていきました。「フィフィフィ...」という声が聞こえました。

A 下の田圃裏の水流

水流にはカワナガが10ヶ程いました。それも活動しています。



隣地から竹が倒れ掛かってきています。これも雪によるものです。これらは除伐させてもらおうと思います。



H 上の田圃への導水路

上の田圃の辺りの雪は消えています。



G 湿地3段目の池

竹林側からの水が止まっていた。途中で伏流していましたので、応急的に孔を塞ぎました。

ハンノキ林の雄花が花粉を撒き散らし、雌花が受粉態勢にあります。



C ハンノキ林上の池

水底は見ていたのですが、透視度は80cmでした。泥も溜まったので、今年は泥上げをした方が良さそうです。

中央広場の上空にトビが飛んでいました。



2014年2月24日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:04	10:18	5.0	5.0	55	6.8 BTB	—
B(中央水路末端)	10:19	10:30	5.0	5.3	100	7.1 BTB	0.847
A(下の田圃裏)	10:38	10:51	6.5	7.0	100	6.6 BTB	0.316
H(上の田圃への導水路)	10:56	11:05	5.5	7.0	100	7.1 BTB	0.252
G(湿地再生地の池)	11:10	11:21	6.0	8.0	100	7.0 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	11:46	12:00	6.0	8.0	80	7.0 BTB	—



《生田緑地田圃通信 No13-82》

2014年2月27日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

水辺保全

日時 2014/2/27(木) 10:00~12:00 霧雨

場所 生田緑地湿地

参加者 岩田臣生、岩田芳美

今日は水田ビオトープ班の5人が参加してアズマネザサ刈りなどの活動を予定していましたが、雨のため中止にしました。しかし、他にも午後から約束があって生田緑地には行かなければならなかったため、少し活動することになりました。

雨は、殆んど気にならないような霧雨でした。水辺の活動は、このぐらいの雨の降る時の方が生物に与える負荷が小さいと思っています。

また、一人の方が活動しやすいことでもあります。ただ、泥だらけになることを覚悟しなければなりません。

活動は、ハンノキ林のすぐ下(北側)で、私たちが湿地と呼んでいる場所で行いました。

ここは、昔は谷戸の一番奥の田圃だったところです。

狩野川台風によって生田緑地の各所で土砂崩れがあり、田圃も土砂で埋まってしまったことから、元の地主さんは田圃の継続を諦めて畑に転用するための努力をしていました。このため、田圃状の水域、水辺、湿地に再生することは容易ではなく、9年経っても未だ満足できる状態になりません。

ただ、植物の生命力は素晴らしく、かつては田圃があったことを語るかのように様々な湿地性の植物が見られるようにはなりました。

年1回ぐらいの攪乱で保全できるようにならないかと思いながら活動していますが、湧水量が安定しないこともあり、まだまだ模索が続いています。

今回は昨秋に一度掘っておいた湿地1段目の水路に少し手を入れることにしました。

竹林内からウグイスの声が聞こえましたが、少ししてからガビチョウの声が聞こえだしました。ウグイスではなか

ったのかも知れません。

土の中からはケラが何匹も出てきましたが、眠りから覚めていない様子で、逃げようとしません。





《生田緑地田圃通信 No13-83》

2014年3月47日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトーブ班

アズマネザサ刈り

日時 2014/3/4(火) 10:00~12:00 曇

場所 生田緑地萌芽更新地区 A06-3

参加者 岩田臣生、岩田芳美、細川洋子

萌芽更新地区の上側の探勝路の上側(A06-3)のアズマネザサ刈りを行いました。

3m程に成長したものが林立していましたが、一方で、細いものは雪のために地面に寝てしまっているものも多く見られました。





活動は 12 時を過ぎたところで止めて、甘いもので一休みしてから、田圃の様子を見に行きました。そろそろ、アズマヒキガエルが水辺に出て来る頃だと思ったからです。

途中、コゲラ♀が現れ、2~3mのところまで近づいても、夢中で探し物をしていたり、湿地にはシロハラがいましたが、これも探し物に忙しそうでした。

田圃に着いてみると、既に卵が 5 本程水底に沈んでいて、アズマヒキガエルのオスが 7 匹程、落葉の下に見え隠れしていました。蛙合戦は既に終わってしまったようですが...



ハンノキ林上の池はどうだろうかと思って覗いてみましたが、こちらは卵が 1 本あり、オスが 12 匹もいました。もしかすると、第 2 回戦があるかもしれません。このオスの数は、そんな希望を持たせてくれます。



驚いたのは、アメリカザリガニ・トラップ(アナゴカゴ)の中に4匹入っていたことです。

1匹は白い腹を見せていましたので慌てて取り出しましたが、冬眠に戻ってしまっていたのか、身動きもせず、小さく固まって、眼を閉じています。

このまま寝かせておくわけにもいかないので、強引に起して逃がしましたが、初めての体験でした。



《生田緑地田圃通信 No13-84》

2014年3月6日 特定非営利活動法人がわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

アズマネザサ刈り

日時 2014/3/6(木) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地萌芽更新地区 A06-1aの上側園路沿い

参加者 岩田臣生、岩田芳美、木坂陽子、鈴木潤三

萌芽更新地区の上側の探勝路の下側(A06-1a)のアズマネザサ刈りを行いました。

12月、1月の里山倶楽部でやり残した部分です。アズマネザサ刈りだけでなく、暫く休んでいた落葉かきも少し行いました。



放置してあった腐朽木から沢山のキノコが生えていました。すっかり古くなっていましたが、タヌキノチャブクロかも知れません。



タマキクラゲもありました。



樹上には、コゲラが来ましたが、2~3mの距離だということに気にもせず、枝の先端付近を執拗に突いていました。また、エナガ 3~5羽の群れが時々梢を移動していきました。





作業後、田圃に行きました。まだ残っているかと思いましたが、アズマヒキガエルの姿はありませんでした。今年は3月1～2日ぐらいが産卵日だったようです。



湿地付近に、ツグミやアオジの姿がありました。



《生田緑地田圃通信 No13-85》

2014年3月10日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

水辺保全(湿地の攪乱)

日時 2014/3/10(月) 10:00～12:30 曇、強風

場所 生田緑地湿地 B05

参加者 岩田臣生

8:30～10:00 に、生田緑地マネジメント会議の役員会がありました。生田緑地に行って会議だけでは面白くないので、湿地の攪乱をすることにしました。

湿地再生地2段目の3分の1程度を攪乱してみました。

水量は充分あるので、一先ず湛水してみることにしました。



《生田緑地田圃通信 No13-86》

2014年3月12日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

水辺保全(湿地の攪乱)

日時 2014/3/12(水) 10:00~12:30 晴

場所 生田緑地湿地 B05

参加者 岩田臣生

今日の作業は湿地の3段目です。

3段目にも水は落ちているのですが、水面が広がっていません。どこに消えているのか不明です。

まず、水が落ちている場所に小さな水溜りをつくることにしました。その範囲に、水漏れを起こしている孔があるかどうかを調べるためです。

水が溢れる様子が無いので、孔を探して塞ぎたいのですが、明らかなものが無いので、怪しい所を押し潰して、土盛りをしました。

それでも駄目なら、土囊を使わなければならないかと思いながら、水が溢れ出すのを待ってみることにしました。その間に、2段目の畔の裾にあった水溜りの泥上げを行いました。



最初に水の落ち口に造った水溜りから水が溢れ出て、その周囲に水面が広がっていました。

今回の水漏れ塞ぎはいい加減なものなので、再度の手入れが必要ですが、3段目全体の攪乱作業を一通り終わってから考えたいと思います。

次に、雪のために寝てしまって、作業を進め難くしていた枯れたミヤマシラスゲ、オギ、コガマなどを刈り取りました。



後は、1～2日おいて、広がってきた水面を確認してから、水溜まりのつくり方を考えることにします。
水面が広がっていなければ、また水漏れ箇所を探して塞ぐことになります。



今日は暖かく、キタテハやテングチョウが姿を現しました。
また、ウグイスの声も大きくなり、シジウカラやエナガ、カワセミも現れました。



アズマネザサ刈り

日時 2014/3/12(水) 10:00～11:00 晴

場所 生田緑地湿地 B05

参加者 岩田芳美

シロヨメナの生育地の刈り残してあったアズマネザサを刈りました。



《生田緑地田圃通信 No13-87》

2014年3月15日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

雑木林の下草刈り

日時 2014/3/15(土) 10:00～13:00 晴

場所 生田緑地 中央広場北側雑木林 A26-1

参加者 岩田臣生、岩田芳美、小泉恵佑、鈴木潤三、政野祐一

この区域は、2011年5月の里山倶楽部Bで植生管理について話し合い、「ヤマツツジの咲く、明るい雑木林」を目標に決め、夏の間、業者委託して3～4mの高さに密生していたアズマネザサだけを刈ってもらい、12月の里

山倶楽部Bにおいて竹や常緑樹を除伐し、翌 2012 年 10 月の里山倶楽部Bにおいてアズマネザサ刈りを行った地区です。

今冬は 3 年目のアズマネザサ刈りを 2 月の里山倶楽部Bで予定していましたが、雪のために中止しました。そこで、今回、水田ビオトープ班の活動として下草刈りを行うことにしました。

当該雑木林に入って気がついたのは、まず、落枝というには大き過ぎる大枝が散乱していたことです。そこで、落枝の片付けも行いました。



斜面にはアズマネザサに混ざって竹が生えていました。これらに加えて、アオキ実生などの常緑樹が刈り取り対象です。

晩秋の里山倶楽部で大勢で作業している時には気がつきませんでした。大きなウグイスカグラがあって、可憐な花を咲かせていました。



また、コウヤボウキが枝を広げていました。高さが1m以下の植物は、2011年5月の現地調査では、密生するアズマネザサに阻まれ、見つけることができませんでした。



ここはスミシ類が見られなかったので、3月でも活動できると思い、下草刈りを行いました。

このために、ウグイスカグラなど、里山の早春の花に出会うことができました。そして、魅力的な雑木林に変わりつつあることを実感することができました。

長柄の大鎌はここでの作業には不向きと分かり、いつもの桑切鎌に替えました。この桑切鎌は直径1cm程度の竹やシラカシなどでも簡単に伐れてしまうので重宝しています。

落葉層も厚くなっていて、斜面の上からクマデで落葉をかき落としながら、アズマネザサを刈り取っていく方法を試したところ、これが良さそうだと感じましたが、気がつくのが遅かったようです。

この日は土曜日とあって、来園者が多く、斜面と客車の間の小さな広場には、何組もの親子連れが休日を楽しんでいましたが、私たちの活動に関心を示す人はいませんでした。



《生田緑地田圃通信 No13-88》

2014年3月18日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトーブ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

アズマネザサ刈り

日時 2014/3/18(火) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地 城山下谷戸 B10

参加者 岩田芳美、木坂陽子、細川洋子

城山下谷戸の自然探勝路沿いのアズマネザサを刈り取って、スミシ類やミヤマカンスゲなどが楽しめるようにしました。

春一番が吹いて、埃っぽい中での作業でしたので、全員マスクを着用して活動しました。

アズマネザサの茂みから、新葉を出し始めたタマノカンアオイが現れました。





水辺再生・保全

日時 2014/3/18(火) 10:00~13:00 晴

場所 生田緑地 湿地再生地 B05

参加者 岩田臣生

3人とは別に湿地再生地3段目の水辺再生活動の続きを行いました。

前回、少し手を入れたにも関わらず、水面が広がっていませんでした。水の落ちているところから溢れ出てきません。

よく見ると、そこには2つも、3つも、大きな孔が開いていました。サワガニには大き過ぎます。ヘビのようでもあります。元地主さんが、田圃を諦めて、畑に転用するために開けていたものかも知れません。何であれ塞ぐのは容易ではなさそうです。

要は孔の方に水を行かせないことだと考えて、竹林から1m程の長さに切って積んであったモウソウチクで縦に割れているものを拾ってきて、これで落ちてくる水を受けて流すことにしました。

どうやら上手くいきました。水は順調に周囲に溢れ始めました。中途半端なことをしていないで、さっさとやっておけば良かったと思います。

その竹を取りに行く時に、竹林側からの水流が橋の下で消えているのを見つけました。

スコップは持っていませんでしたが、橋の下に潜り、素手で泥を寄せて孔を塞ぎ、水流を湿地に導きました。

チゴザサの根やコガマの根で固まった土を掘り起し、端に寄せて、水面を広げることを優先しました。





湿地再生地の保全活動は、もう1回の水辺保全と4月にはヤマグワ刈りを行う予定です。

湿地再生地にも、やっと、オオイヌノフグリやフキノトウが咲き出しました。

また、越冬していたキタテハが来ていて、2匹が飛行動を見せてくれました。キタテハの飛行動は初めてでした。木道の上では、これも越冬していたテングチョウが傷んだ翅を少し広げて、春の日差しを受けていました。



《生田緑地田圃通信 No13-89》

2014年3月23日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

毛二 1000) 水環境調査

日時 2014/3/22(土) 10:10~13:00 晴

場所 生田緑地稲目谷戸

参加者 岩田臣生

コブシが咲いていました。



10:30 K ヨシ原の池

充分過ぎる量の水が入ってきていて、澄んでいました。
透視度は余裕の100cmでした。

10:41 B 谷戸末端の階段下の水流

流量は0.961L/secと多くなっています。
階段の手すりにオナシカワゲラがいました。



11:00 A 下の田圃裏の水流

2月の調査時にも倒れ掛かってきていたモウソウチクを
除伐しましたが、今回、更に2本が倒れ掛かってきていま
した。今日は鋸を持参していなかったので除伐できま
せんでしたが、近いうちに片付けておきたいと思います。



H 上の田圃への導水路

田圃の奥にムクドリの子が来ていました。皆、夢中で
地面を漁っています。特定の場所に集まっているのが
気になります。何かあるのでしょうか。
じっと田圃を眺めている人がいて、「今年はカエルは来
ないのか。落葉を沢山入れ過ぎたのではないか。」とつ
ぶやいてきました。去年の蛙合戦を見て、今年も見たい
と思っていたようでした。
アズマヒキガエルの蛙合戦がいつ行われるのかはなか
なか予想できませんが、そんなことを楽しみにして来園
してくれる人がいるのは嬉しいことです。調査は一休
みして、少し話をしてみました。



この場所の調査を終えてから田圃に降りてみたら、アズ
マヒキガエルの卵は孵化していました。まだ、泳ぎだす
ところまではいいません。

G 湿地 3 段目の池

ハンノキ林と湿地再生地との境界の部分の木道の柵については、ホタルの国の時に落ちる人がいたことから、目印としてロープを張るなどの対応をしてきました。昨年は竹の支柱が腐って倒れてしまい、やり替えなければならぬと思いながら、できずにいました。

その柵を指定管理者の大畠さんがつくってくれるというので、20日、雨の中でしたが現地で、施工方法について打ち合わせたのですが、その柵が完成していました。

よくも、こんなに太くて真っ直ぐなモウソウチクを見つけ出したものだと感心すると共に、運び出すのが大変だっただろうと思いました。

太いだけでなく、座りたくなるような高さだったので、試してみました。湿地を眺めながら一休みするには丁度いい感じです。でも、狭い木道ですから、何人かが座っていたら、前を通り難いだろうと思います。

しかし、景観としては良くなったと思います。感謝します。湿地再生地は、このところ、水辺を再生する活動をしていましたので、1段目から3段目まで水面が広がっています。今年も、田圃雑草で賑わってほしいと思います。



C ハンノキ林上の池

ここのアズマヒキガエルも孵化していました。

調査中にやってきた子どもたちは卵塊の場所で動かないオタマジャクシには気がつきませんでした。



20日に降雨があり、その痕跡も残っていましたが、水はどこも澄んでいて、透視度は100cmを軽く超えています。

調査を終えてから何ヶ所か気になっていた場所の確認をしました。



アブラチャンが咲いていました。スミレも咲いていました。
コナラの芽生えも見られました。



2014年3月22日 調査結果

調査地点	開始時刻	終了時刻	気温℃	水温℃	透視度 cm	PH	流量 L/sec.
K(ヨシ原の池)	10:30	10:40	10.1	6.5	100	6.9 BTB	—
B(中央水路末端)	10:41	10:50	10.1	9.5	100	7.2 BTB	0.961
A(下の田圃裏)	11:00	11:10	14.0	9.2	100	7.0 BTB	0.227
H(上の田圃への導水路)	11:15	11:25	13.7	10.0	100	7.2 BTB	0.555
G(湿地再生地の池)	11:40	11:49	12.3	15.0	100	7.2 BTB	—
C(ハンノキ林上の池)	11:55	12:06	12.4	9.2	100	7.0 BTB	—



《生田緑地田圃通信 No13-90》

2014年3月25日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班

生田緑地の谷戸の自然保全活動

下の田圃の畔の補修、田起こし

日時 2014/3/24(月) 10:00~14:00 晴

場所 生田緑地 下の田圃 B07

参加者 岩田臣生

22日に水環境調査を行った時に、田圃から隣地への浸み出しが止まっていないことが分かったので、これを止める作業を行うことにしました。

下の田圃は、ホテルの里整備事業が完了した2004年3月に田圃再生について隣地のYさんと話した時に、Yさんが「ここでやれ。」と指定した場所です。

その時の境界は、昔から田圃として使ってきた中であって、垣根の下に畔はありませんでした。現在ある畔は、田圃を再生する時につくった畔です。

私たちとしては、ここに畔をつくって隣地とは完全に遮断し、排水口は昔から畔であった部分につくりたかったのですが、当時、Yさんはクワイを栽培していて、今まで通り水を通してくれと言われました。このため、排水口も、新たな畔の部分につくらなければなりません。

畔をつくると言っても使える土はなく、田圃を再生する場所に繁茂していたチゴザサの根を積み、100m程離れた場所の土をバケツに入れて運んできて、何とかつくった畔です。これに、毎年数回、泥上げを繰り返すことで、沈んでいく畔を辛うじて保っていました。

Yさんが体調を崩し、クワイ畑を止めて、Yさんのお子さんが畑仕事をするようになって、「水は流すな。」とってきました。状況が変わっただけのことです。改めて排水路を掘削し、隣地へ流していた水を止める努力をしています。しかし、初めに畔をつくった時と同様、1~2年で止めることは、私たちには無理です。

隣地の水路やクワイ畑だった凹地はそのまま放置されているため、そこからアメリカザリガニが上がってきて、孔を開けたりもします。

4~5年かけさせてもらえれば、水漏れしない畔にできると思いますが、代が替わっただけで、そんな話もできなくなっていました。

現地の畔を調べると、下の方に、腕が入りそうな大きな孔が開いていて、土も柔らかくなっていました。その孔の辺りに、土嚢を押し込んでみました。小さい土嚢でしたが、4つも押し込むことができました。如何にグズグズになっていたかが分かります。

また、水流沿いに泥上げして、積んでおいた土を運んできて、この畔の上に積み、上から踏み固めてもみました。漸く、畔の上を歩いた時に沈み込む状態が無くなっていました。

そこまでやっておいてから、田起こしを行いました。田起こしと言っても、Yさん自慢の田圃の土はトロトロで、しかも10年間冬期湛水していますから、落葉と泥をかき混ぜているという表現の方が正しいかも知れません。全域を一通りかき混ぜてから、Yさんに言われてからつくった排水路を見たら、水が流れていました。隣地側の凹地にあった流れは消えていました。

残念ながら、これで完了とは言えませんが、後何回か、この作業を繰り返せば、隣地へ流れ出すのを止められると思います。



しかし、ウェーダーを履いての田起こしはスマートではありません。
田起こしが済んだ浅い水域のあちこちにホトケドジョウが見られました。
帰りに、上の田圃にはコサギが来ていましたので、少し心配になりました。そういえば、作業中に後ろの方でカワセミの声がしていたことを思い出しました。
人が作業した後に何が起こるかを、彼らは知っているようです。
また、ルリシジミ♂が現れて、田圃の周りを飛んだり、止まったり。不思議なのは田圃から離れようとしません。
飛んでいる時に見える表翅の薄い青紫色は、田圃の上では目立って、美しいと思いました。



《生田緑地田圃通信 No13-91》

2014年3月29日 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ピオトープ班

モニタリング

日時 2014/3/28(金) 9:50~14:00 晴

場所 生田緑地

参加者 岩田臣生

アオイスミレは既に確認済でしたが、何人もの方から「スミレが咲き始めた」という連絡を戴きましたので、状況を調べておくことにしました。

ケマルバスミレは毎年衰退しています。
花をつけている株は14でした。まだ、これから発芽するものもあると思いますが、今年は夏場に、保護のための除草を試みようと思います。どなたか、生態についてご存知の方がいらっしゃいましたら、ご教示ください。



ナガバノスミレサイシンは、開花している場所もあれば、発芽もしていないような場所もあり、狭い範囲での環境の違いを表しているかも知れません。
しかし、今回のように広い範囲を見て歩くと、生田緑地ではかなり広い範囲に分布していることがよく分かります。

同じように、狭い範囲での違いがみられたのがヤママルソウでした。

既に咲いている株が集まっている場所と蕾さえつけない株ばかりの場所があります。

神植誌 2001 によると、県内では丘陵～山地のシイ・カシ帯～ブナ帯下部にやや普通とあります。言い換えると、県内の低平地には見られない植物です。川崎の生物多様性の特徴の一つは、多摩丘陵があるために、このような山地の植物が見られることだと思います。



ヒゴスミレは来園者に楽しんでもらうための管理を始めてから随分年月が経ちました。初めは植物班や北部公園事務所の職員と一緒にアズマネザサ刈りなどをしていましたが、時期を間違えなければ全てを刈ってしまうことも可能だと分かり、その後は行政による管理をお願いし、様子を見て、補足的に手入れをしています。当初はヒゴスミレの保護目的で始めた活動でしたが、ヤマコリ、オトギリソウ、ホトギス、ヒメハギなども見られるようになりました。



また、アズマネザサの勢いが弱くなった反面、ススキやハギが勢力を強くしています。このため、管理の仕方を少し変えることも検討した方がいいかも知れません。今回、ヒゴスミレを調べてみたら、花をつけている株が 30、まだ葉のみのものと合わせて、70～80 株ありました。

コスミレはまだ早いのだと思います。舗装園路の隙間などに小さな株が 5～6、花をつけていました。多分、舗装面の温度上昇が早く起こっているためだと想像されます。いつも沢山の花が見られる場所に何も無いのが気になりますが、これこそ 2 週間、様子を見なければなりません。



アカネスミレは神植誌 2001 によれば、県内では全域に最も普通に見られ、雑木林や草地、畑の土手などに生えとあります。しかし、生田緑地の場合は広い範囲には分布していないようです。

アカネスミレの無毛のものをオカスミレといいます。日当たりのいい場所に 1 株、オカスミレを見つけました。

ニオイタチツボスミレは、神植誌 2001 には、県内では海岸から丹沢、箱根、小仏山地まで、夏緑樹林内や草地に生えるとあります。

生田緑地で観察されるのは、崖地など乾燥気味の場所に見られますが、個体数としては非常に少ないスミレです。今回も環境的に限られた場所で、1ヶ所あたり 1~3 株が見られました。



この他、勿論、タチツボスミレは非常に広い範囲で見られました。また、葉脈が赤いアカフタチツボスミレもありました。

アズマネザサ刈りをして保護管理しているフデリンドウが蕾をつけ始めていました。



ウグイスカグラは概ね、どこでも盛りを迎えていて、沢山の花をつけていました。

園路の中で咲いているシュンランがありました。

残念なのは、柎形山のヤマアジサイがアズマネザサ刈りによって伐られてしまったことです。

私は、この光景を見て、頭の中が真っ白になり、詳細に調べることができませんでしたので、1本も残っていないかどうかは確認していません。そして、1本ぐらい残っていてくれることを願っています。

指定管理者との「アズマネザサだけを刈り、アズマネザサ以外のものは刈らない」という約束は守られませんでした。

神植誌 2001 によれば、県内では丘陵地や山地の林縁や樹林内にやや普通に生えるとあります。しかし、生田緑地では別の生育地から消えたことで、ここだけになっていたと記憶しています。

県内分布図を見ると、多摩丘陵から三浦半島にかけて、点々と分布していることが読み、植生としての多摩・三浦丘陵連携を示しているようにも思われる植物です。

目立たない花ですが、生田緑地ではファンの多い植物の一つです。

